高崎市文化財調査報告書第268集

倉賀野西上正六遺跡

―工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査―

2010

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第268集

倉賀野西上正六遺跡

―工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査―

2010

高崎市教育委員会

例　言

1．本書は、工場建設に伴い実施された、「倉賀野西上正六遺跡」（高崎市遺跡番号 455）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本遺跡の所在は、群馬県高崎市倉賀野町西上正六 41 番地である。

3．発掘調査は、平成 21 年 10 月 5 日から平成 21 年 11 月 17 日まで実施した。

4．発掘調査及び整理作業は高崎市教育委員会の指導・助言及び監督のもと、高崎弁当株式会社（たかべん）に委託され、株式会社シン技術コンサルが実施した。

5．調査体制は以下のとおりである。

　高崎市教育委員会　田口一郎、角田真也、須田奈保子

　株式会社シン技術コンサル　小川朋恵（調査担当）、志村将直（測量担当）

6．本書の編集は小川が行い、本書の執筆は第Ⅰ章を田口、第Ⅵ章を株式会社火山灰考古学研究所、それ以外を小川が行った。

7．本書に使用した遺構写真は小川が、遺物写真は山際哲章が撮影した。

8．本遺跡の自然科学分析については、株式会社火山灰考古学研究所に依頼した。

9．本調査における図面・写真・遺物は、高崎市教育委員会で保管してある。

10．発掘調査の実施、および報告書刊行に至るまで、下記の機関・諸氏の御指導・御協力を賜りました。記して感謝の意を表します。（敬称略）

　株式会社火山灰考古学研究所　紺谷印刷有限会社　山下工業株式会社

　小林 修　齊藤利昭　坂口 一　早田 勉　中里正憲　深澤敦仁　山際哲章

11．発掘調査参加者・整理作業参加者については次のとおりである。

＜発掘調査参加者＞

　飯出好幸　大島英夫　岡田広志　岡田 勝　小山利光　小田光男　小渕光弘　川端貞雄　斉藤昭夫

　斉藤敏秋　佐藤貞夫　島田治之　鈴木 実　原 弘明　廣瀬康之　星野英雄　森 鐵

＜整理作業参加者＞

　新井かをり　荒井 洋　大島美樹　小保方初美　木村真弓　後閑千恵子　小船庸子　佐藤久美子

　鈴木澄江　高橋孝子　千葉和枝　馬淵恵美子　丸橋律子　大和律子　古田瑠美子　六反田達子

凡　例

1．本書掲載図の第１図は国土地理院発行1/50,000地形図『高崎』、第３図は高崎市発行1/2,500都市計画図を、第４・５図は国土地理院発行1/25,000地形図『高崎』をそれぞれ使用した。第４図は『綿貫観音山古墳１』（p.61の参考文献参照）の第４図地形区分図を基に、現況の河川・堰をトレースして作成した。

2．遺構平面図に示した方位は座標北であり、水準線は標高を示す。座標については、世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用した。

3．土層及び遺物の色調は、『標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・（財）日本色彩研究所色票監修2002版）に拠るが、担当者の主観による識別である。

4．本書における遺構種類の略号を以下に記す。

SI＝竪穴状遺構・竪穴住居跡　SB＝掘立柱建物　SK＝土坑　SD＝溝状遺構　SA＝柵状遺構

P＝ピット

5．本文・図面に示す火山灰名を以下に記す。

As-A ＝浅間A軽石、1783（天明３）年降下

As-B ＝浅間Bテフラ、1108（天仁元）年降下

Hr-FP＝榛名－二ツ岳伊香保テフラ

Hr-FA＝榛名－二ツ岳渋川テフラ

As-C ＝浅間C軽石

6．遺構図において、使用しているトーンの凡例は以下の通りである。

炭範囲　焼土範囲　灰範囲

7．遺物番号は、遺構図・遺物実測図・観察表・写真図版ともに統一してある。

8．遺構図の中でドット記号や微細図で表現してある遺物は、Sと付されているのが礫、他が土器である。土器においては、実測図を掲載しているものは遺物番号を付し、断面図では土層番号との混同を防ぐためP―遺物番号とした。

9．遺物実測図・写真の縮尺は1/3を基本とし、1/2・1/4の場合は実測図中に縮尺を記載した。

10．土器実測図において、土器口縁部の残存が1/2未満の場合、断面図側の口縁部線を中軸線から離した。

目　次

例　言
凡　例
第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1
第Ⅱ章　調査の方法と経過 …… 1
第Ⅲ章　遺跡の立地と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第Ⅳ章　基本層序 …… 9
第Ⅴ章　検出された遺構と遺物 …… 10
　第１節　竪穴状遺構・竪穴住居跡 …… 10
　第２節　掘立柱建物 …… 33
　第３節　土坑 …… 37
　第４節　溝状遺構 …… 40
　第５節　柵状遺構 …… 40
　第６節　ピット …… 45
　第７節　遺構外出土遺物 …… 46
第Ⅵ章　倉賀野西上正六遺跡の火山灰分析 …… 55
　第１節　はじめに …… 55
　第２節　土層の層序 …… 55
　第３節　テフラ検出分析 …… 56
　第４節　屈折率測定 …… 57
　第５節　考察 …… 58
　第６節　まとめ …… 58
第Ⅶ章　まとめ …… 60
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　遺跡位置図 …… 1
第 2 図　グリッド設定図 …… 2
第 3 図　調査区位置図 …… 2
第 4 図　遺跡周辺の地形 …… 3
第 5 図　周辺の遺跡 …… 5
第 6 図　遺構全体図 …… 7
第 7 図　基本上層柱状図 …… 9
第 8 図　SI1 …… 10
第 9 図　SI2 …… 11
第 10 図　SI3（1） …… 12
第 11 図　SI3（2） …… 13
第 12 図　SI4（1） …… 14
第 13 図　SI4（2） …… 15
第 14 図　SI4（3） …… 16
第 15 図　SI4（4） …… 17
第 16 図　SI5（1） …… 18
第 17 図　SI5（2） …… 19
第 18 図　SI5（3） …… 20
第 19 図　SI6（1） …… 21
第 20 図　SI6（2） …… 22
第 21 図　SI7（1） …… 23
第 22 図　SI7（2） …… 24
第 23 図　SI8 …… 25
第 24 図　SI9 …… 26
第 25 図　SI10 …… 27
第 26 図　SI11 …… 28
第 27 図　SI12 …… 28
第 28 図　SI13（1） …… 29
第 29 図　SI13（2） …… 30
第 30 図　SI14（1） …… 31
第 31 図　SI14（2） …… 32
第 32 図　SI15 …… 33
第 33 図　SB1 …… 34
第 34 図　SB2・3 …… 36
第 35 図　SB4 …… 37
第 36 図　SK1 ～ 7 …… 38
第 37 図　SK8 ～ 15 …… 39
第 38 図　SK16・17 …… 40
第 39 図　溝状遺構出土遺物 …… 40
第 40 図　SD・P（1） …… 41
第 41 図　SD・P（2）、SA …… 43
第 42 図　柵状遺構出土遺物 …… 45
第 43 図　ピット出土遺物 …… 45
第 44 図　遺構外出土遺物 …… 46
第 45 図　土層柱状図 …… 56
第 46 図　周辺遺跡出土古墳時代後期土器（1） …… 62
第 47 図　周辺遺跡出土古墳時代後期土器（2） …… 63

表 目 次

第 1 表　周辺の遺跡一覧表（1） …… 5
第 2 表　周辺の遺跡一覧表（2） …… 6
第 3 表　土坑観察表 …… 47
第 4 表　溝状遺構観察表 …… 47
第 5 表　ピット観察表（1） …… 48
第 6 表　ピット観察表（2） …… 49
第 7 表　出土遺物観察表（1） …… 50
第 8 表　出土遺物観察表（2） …… 51
第 9 表　出土遺物観察表（3） …… 52
第 10 表　出土遺物観察表（4） …… 53
第 11 表　出土遺物観察表（5） …… 54
第 12 表　テフラ検出分析結果 …… 57
第 13 表　加折率測定結果 …… 58

写真目次

PL. 1　倉賀野西上正六遺跡調査区全景、調査区北、調査区中央北、調査区中央南、調査区南
PL. 2　SI1 全景、SI2 全景、SI3 床面全景、SI3 カマド、SI4 床面全景、SI4 カマド、SI4 カマド袖内遺物出土状況、SI5 床面全景
PL. 3　SI5 カマド、SI5 カマド袖内遺物出土状況、SI6 床面全景、SI6 カマド、SI7 床面全景、SI8 床面全景、SI9 床面全景、SI10 カマド煙道部
PL. 4　SI11 セクションA、SI12 セクションA、SI13 床面全景、SI13 カマド、SI14 床面全景、SI14 カマド、SI15 床面全景、SB1 全景
PL. 5　SB・SA 全景、出土遺物 1 ～ 15
PL. 6　出土遺物 16 ～ 39
PL. 7　出土遺物 40 ～ 60
PL. 8　出土遺物 61 ～ 87
PL. 9　出土遺物 88 ～ 118

第Ⅰ章　調査に至る経緯

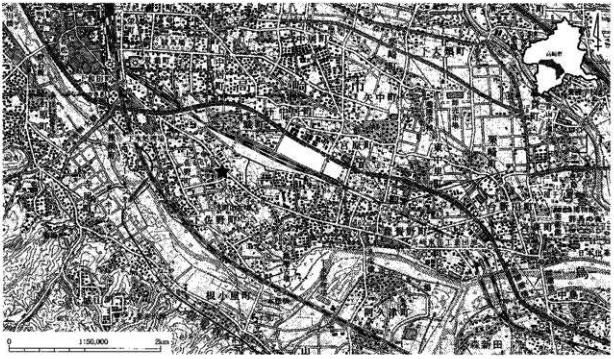
平成21年4月、高崎弁当株式会社（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に、倉賀野町に計画する工場建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。

市教委は、該当地周辺において、区画整理事業に伴って古墳～平安時代の集落跡や中近世の館跡などが調査されており、周辺地域にも拡がる可能性が大きいことから、試掘調査による確認を行うことと、その結果による工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年6月15日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年7月13日～15日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳時代の竪穴住居跡・溝跡を複数確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、株式会社シン技術コンサルに委託して実施することとなり、平成21年10月2日付けで高崎市長・事業者・株式会社シン技術コンサルの三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成21年10月2日付けで事業者と株式会社シン技術コンサルの二者で発掘調査委託契約が締結された。



第1図　遺跡位置図

第Ⅱ章　調査の方法と経過

倉賀野西上正六遺跡において、工場建設に伴い調査対象となった総面積は564㎡である。平成21年10月5日から11月17日まで、南東部と北西部に分割して調査を実施した。

調査は0.7㎥のバックホウを使用して表土を掘削した後、ジョレン・移植ゴテなどを用いて人力で遺構確

認・掘削を行った。遺構確認面はX層上面であるが、遺構覆土が地山と近似し確認するのが困難な場合は、人力でX層中位まで掘り下げ調査を行っている。

写真記録は、35mmカラーリバーサルフィルム・同モノクロネガフィルムの2種類を使用し、デジタルカメラによる補足撮影も行った。高所作業車による全体撮影では、6×6版と6×7版のモノクロネガフィルム、同カラーリバーサルフィルムも使用した。作図作業は、トータルステーションによる器械測量と写真測量を併用した。

グリッドの設定は、世界測地系に基づく平面直角座標第IX系の座標軸を用いて5mの方眼を組み、任意の名称を付した（第2図）。小規模な区画は、隣のグリッドと同じ名称を付している場合がある。

調査の経過は、以下に掲げる。

平成21年

10月5日　調査範囲内の舗装（アスファルト）切断作業。機材搬入。

10月6日　廃材搬出開始。

10月9日　廃材搬出終了。南東部表土掘削開始。

10月10日　表土掘削終了。南東部遺構調査開始。

10月29日　全景写真撮影。南東部調査終了。

10月30日　南東部埋め戻し後、北西部表土掘削開始。

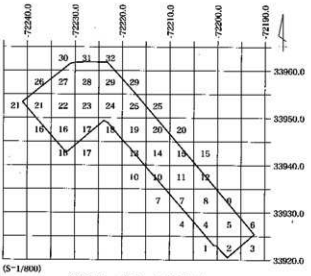
10月31日　北西部表土掘削終了。

11月2日　北西部遺構調査開始。

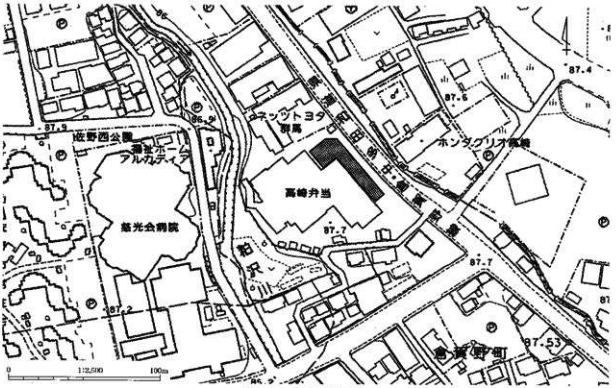
11月13日　全景写真撮影。北西部調査終了。

11月16日　機材搬出。

11月17日　北西部埋め戻し。



第2図　グリッド設定図



第3図　調査区位置図

第Ⅲ章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

高崎市は、榛名山、妙義山をはじめとする群馬県西部の山々を背後に、関東平野の北西端に位置する。市内には烏川が碓氷川、鏑川、井野川等の支流を集めながら北西から南東方向に流れ、群馬県伊勢崎市・佐波郡玉村町、埼玉県本庄市・児玉郡上里町の境界付近で利根川と合流する。烏川と井野川に挟まれた地域は高崎台地と呼ばれ、本跡はこの台地上に立地する。

倉賀野西上正六遺跡は、市域の南東部、JR 高崎線倉賀野駅より西へ 1.8km、県道 121 号線（東国文化歴史街道）沿いに位置する。烏川の崖線から東へ約 1 km にある調査区は、倉賀野堰を源流とする鮎沢川と五貫堀川に挟まれている。下佐野町と倉賀野町の境界に位置する鮎沢川は、蛇行しながら流れ広く深い沢を形成しているのに対し、五貫堀川は比較的直線的に流れている。なお本遺跡の北方の烏川左岸段丘と井野川右岸段丘に挟まれた地域は、微高地と低地が複雑に入り組んでいる（第４図）。

注１　この地域は、前橋泥流の上位に高崎泥流が堆積しているため、前橋台地と区別して高崎台地と呼ばれている。

注２　倉賀野堰は、長野堰から分流された瀧瀬用水路である。長野堰は、本郷町で烏川から取水され、大橋町で一貫堀川に、高岡町の円筒分水で倉賀野堰・矢中堰・鮎沢堰にそれぞれ分流し、各々井野川や烏川に注ぎ込んでいる。戦国時代に長野氏によってその基盤が作られたと伝承されているが、中世以前の実態については殆ど解明されていない。

第４図　遺跡周辺の地形

第２節　歴史的環境

本遺跡の周辺では、発掘・分布調査によって多岐にわたる時代の遺跡が見つかっている。本節では、第５図に示した範囲に所在する遺跡について概観する。

旧石器時代の遺跡は、本遺跡の周辺ではこれまで確認されていない。縄文時代は、倉賀野万福寺遺跡（12）、下佐野遺跡（14）、下中居条里遺跡（29）で、中期後半から後期前半の住居跡・土坑が調査され、段丘上や

微高地上に集落が営まれていたことが判明している。

弥生時代の遺跡は、城南小校庭遺跡(20)で中期後半の住居跡が確認されている。高崎競馬場遺跡(24)では、1969年の工事の際、中期後半の土器が多量に出土し、住居跡が存在した可能性が指摘されている。両遺跡は、烏川左岸において帯状に点在する中期後半の遺跡群の最南部に位置し、これらの遺跡は後期には連続しないという特徴がある。

古墳時代になると、遺跡数は飛躍的に増加する。段丘上、微高地上には集落や墓域が展開し、低地には水田が広がっていたと考えられる。特に烏川左岸の段丘上には佐野古墳群と倉賀野古墳群に代表されるように古墳や周溝墓が多数存在し、集落の調査例も多い。以下、両古墳群について概略を記す。

佐野古墳群は、前期から中期初頭まで継続し、一度空白期間をおいて再び6世紀後半から7世紀にかけて形成される古墳群である。代表的な古墳としては、前期末に属するとされる円墳の長者屋敷天王山古墳(42)、6世紀後半に属する大型円墳の蔵王塚古墳(39)、前方後円墳の漆山古墳(40)が挙げられる。この他に、下佐野遺跡や舟橋遺跡(17)において小規模な古墳が多数調査されている。粕沢川右岸には、前期末から中期初頭と考えられている大型円墳の庚申塚古墳(43)、大山古墳(44)、茶臼山古墳(45)を中心として古墳群が形成されている。これらは行政区分から佐野古墳群として扱われているが、立地や時期を考慮すると倉賀野古墳群に含めたほうが適当であるという意見もある。

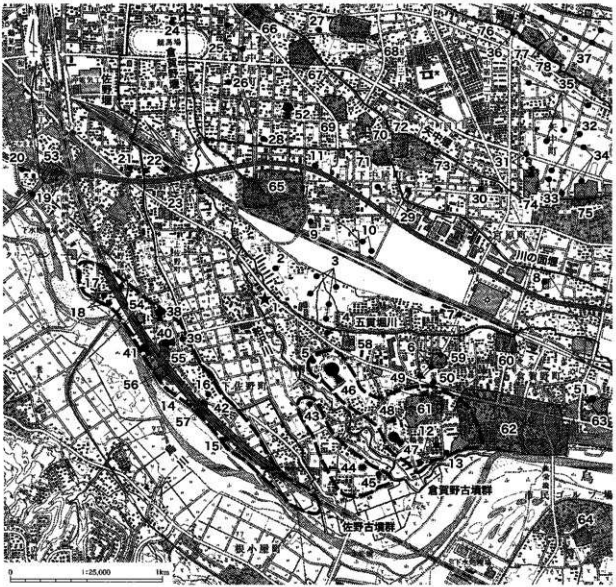
粕沢川左岸に展開する倉賀野古墳群は、主に前期から後期初頭にかけて形成された古墳群である。中心となる3基の前方後円墳の成立は、浅間山古墳(46)と大鶴巻古墳(47)は中期初頭、小鶴巻古墳(48)は5世紀後半と考えられている。全長171.5mの浅間山古墳は、群馬県内において2番目の大きさを誇り、倉賀野東上正六遺跡(5)で中堤と外堀の一部が確認されている。全長123mの大鶴巻古墳は、浅間山古墳との前後関係がはっきりしていない。全長87.5mの小鶴巻古墳は、主体部が舟形石棺であったと推定されており、前述の古墳2基とは若干時間差がある。倉賀野古墳群の一部である倉賀野万福寺遺跡で調査された古墳群は、5世紀後半を主体とする。

倉賀野古墳群の北東には、古墳群とは時間的隔たりがある終末期古墳の一本杉古墳(49)と安楽寺古墳(50)がある。前者は凝灰岩の切石と輝石安山岩の巨石、河原石が併用される切石横構造の横穴式石室、後者は凝灰岩の切石を使用した横口式石槨をもつ。

奈良時代は、本遺跡の周辺では遺跡の調査例が稀少であるため、判然としない。平安時代の集落遺跡は、基本的には古墳時代と同様の立地を示す。生産遺跡としては、浅間山が天仁元(1108)年に爆発した際に降下したAs-Bによって埋没した水田跡が多数調査されている。

中世になると、多くの城館・環濠屋敷が築かれた。本遺跡周辺では長野堰水系の一つである矢中堰沿いに多くの城館が立地しているほか、大規模な城館として倉賀野城(62)と和田下之城(65)が挙げられる。倉賀野氏が応永年間に築いたといわれる倉賀野城は、烏川の崖線に面して立地し、水運の拠点として重要な城であった。上杉方に属する長野氏を城主とする箕輪城の支城としての役割を果たしていたため、永禄7(1564)年に武田氏によって滅ぼされた。その後金井秀景が城主となるが、後北条氏に属したため豊臣勢により攻め落とされ、その後廃城になった。和田下之城は、倉賀野氏と対立した和田氏によって永禄5・6(1562・1563)年頃築城されたと推定されているが、発掘調査の成果から築城年代が遡る可能性も指摘されている。

近世になると倉賀野町には、中山道と日光例幣使道の分岐点に倉賀野宿が形成され、本陣が1箇所、脇本陣が2箇所置かれた。陸上交通の拠点であるとともに、烏川の対岸栄橋付近には倉賀野河岸が形成され、明治期に鉄道が開通するまで舟運の拠点でもあった。こうして倉賀野町は、追分の宿場町、河港町として非常に繁栄した。



第５図　周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡一覧表（１）

№.	遺跡名	主な時代・遺構	参考文献
1	倉賀野西上正六遺跡	古墳(住居・墓辺)、中世(溝)	本書収録
2	下之城仲神Ⅰ・Ⅱ遺跡	古代(住居)、平安(B水田)、中世(溝・土坑)、近世(A複耕痕・溝)等	市192・195集(2004・2005)
3	下之城村前Ⅰ～Ⅴ遺跡	古墳(住居)、平安(B水田)、中世(溝・土坑)、近世(A複耕痕)	満120・174・181・184集(1992・2001・2002・2003)、満50集(1996)
4	倉賀野上新郷Ⅰ遺跡	平安(B水田)	満174集(2001)
5	倉賀野東上正六遺跡	浅間山古墳の周堀確認	市153集(1997)、市158集(1998)
6	倉賀野条里Ⅰ～Ⅴ遺跡	古代(住居)、平安(B水田)	市172集(2001)
7	倉賀野統橋遺跡	平安(B水田)、別名:倉賀野条里Ⅵ遺跡	市164集(1999)
8	倉賀野下大神遺跡Ⅰ～Ⅶ	古墳(墓石遺構)、平安(住居・B水田)、中世(掘立・堀・井戸)	満40・202集(1995・2006)
9	下之城村西Ⅱ遺跡	平安(B水田)	満50集(1996)
10	下之城村東Ⅰ・Ⅱ遺跡	平安(B水田)	満1・5集(1983・1984)
11	下之城村北Ⅱ遺跡	平安(B水田)	市120集(1992)
12	倉賀野八幡寺遺跡Ⅰ・Ⅱ	縄文(住居・土坑)、古墳(住居・古溝・周溝墓)	満4・20集(1983・1994)
13	倉賀野谷ノ前遺跡	古墳(住居・周溝墓・古墳)、中世(墓)	市24集(1980)
14	下佐野遺跡Ⅰ・Ⅱ	縄文(住居・土坑)、古墳(住居・古溝・周溝墓)、平安(住居・溝)等	群埋文48・77集(1986・1989)
15	下佐野兵衛塚遺跡	古墳(住居)、中世(火葬墓)	市167・239集(2000・2009)

※ 参考文献は以下の略称を使用した。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団…群埋文、高崎市教育委員会…市、高崎市遺跡調査会…満

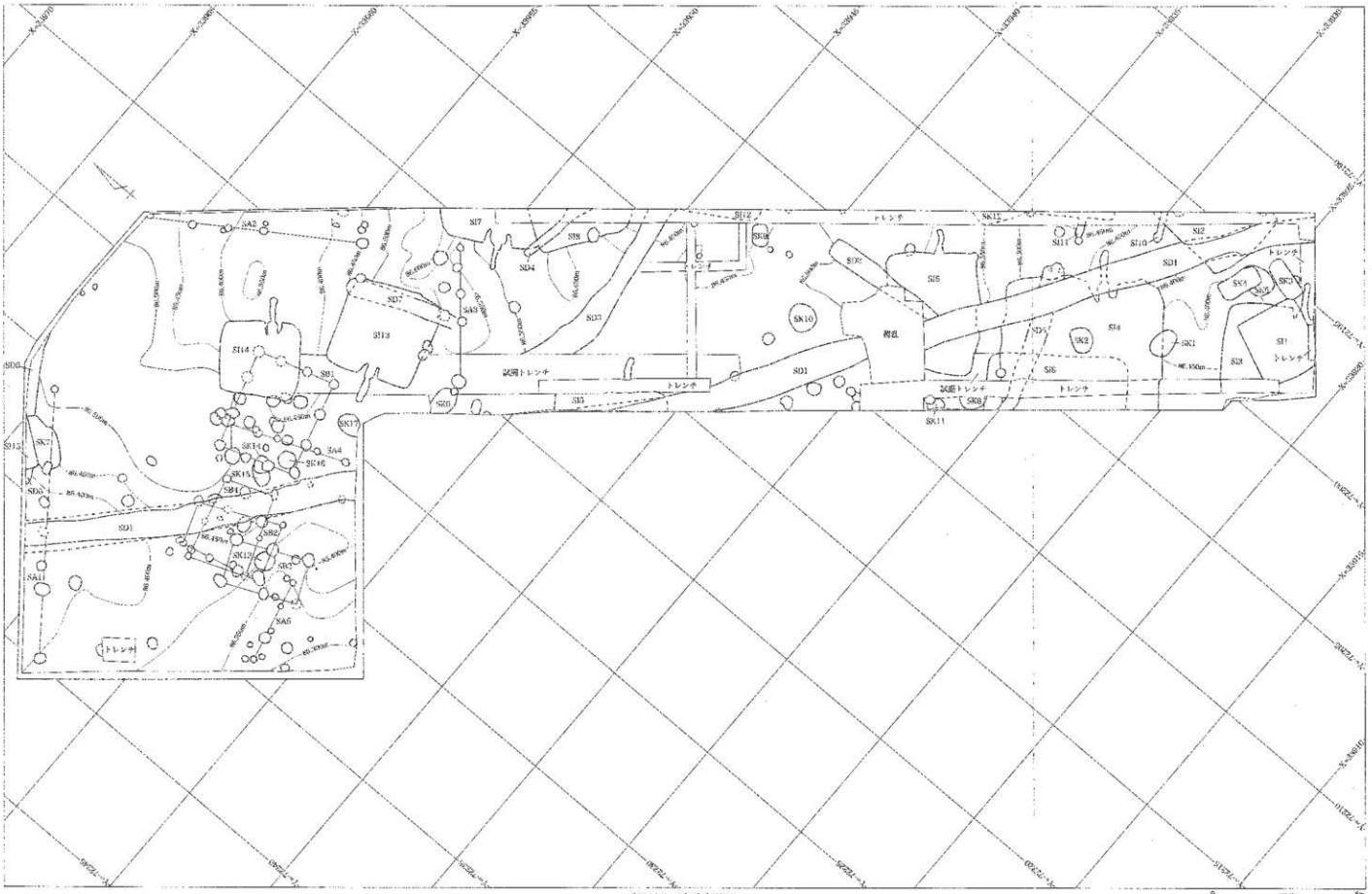
※ 水田は、市155集(1998)に準じた略号を使用した。C…As-C下、FA…Hr-FA下及び阿蘇下、FP…Hr-FP及び浅間下、B…As-B下、A…As-A下

第2表　周辺の遺跡一覧表（2）

No.	遺跡名	主な時代・遺構	参考文献
16	下佐野一本木遺跡	古代(住居・石組遺構・土坑)	市225集(2008)
17	寺領遺跡	古墳(住居・上坑・古墳)、平安(住居・土坑)、中近世(井戸・土坑)等	調埋文92集(1989)
18	上佐野舟橋遺跡Ⅰ～Ⅲ	古墳(住居・方形)、平安(住居)	市121集(1992)、調22・23集(1992)
19	新後閑寺橋遺跡	古墳(住居)、古代(住居)	市112集(1991)
20	城南小校庭遺跡	縄文(土器出土)、弥生(住居)等	市1集(1973)
21	和田多中遺跡	平安(B水田)	市93集(1989)
22	上位野橋崎遺跡	平安(B水田)、近世(A水田復旧畑)	群埋文300集(2002)
23	双葉町1遺跡	古墳(住居・溝)、平安(B水田)、近世(溝・竪穴状遺構)	調48集(1996)
24	高崎城馬場遺跡	弥生(十器出土)	『考古学』10巻10号、新編『高崎市史』資料編1原始古代1
25	上中居西屋敷遺跡Ⅰ～Ⅲ	古墳(C・FA・FP水田)、平安(B水田)、近世(A水田復旧畑)	調24・59・70集(1994・1997)
26	上中居荒神Ⅰ・Ⅱ遺跡	平安(B水田)	市158集(1998)、調62集(1996)
27	上中居平谷遺跡	古墳(溝・土坑)	市254集(2010)
28	上中居島栗畑遺跡	平安(B水田)	調68集(1997)
29	下中居坐見遺跡Ⅰ～Ⅲ	縄文(石囲)、古墳(住居・C水田)、平安(住居・B水田)、中近世(溝・竪穴状遺構)等	市145・159・183集(1996・1998・2003)
30	矢中村西遺跡	平安(B水田)	調44集(1999)
31	玉巻寺裏遺跡	縄文・平安(住居)、平安(B水田)、別名:矢中遺跡群Ⅳ	市43集(1983)
32	鼎殿前・村北遺跡	平安(住居)、平安(B水田)、別名:矢中遺跡群Ⅴ	市52集(1984)
33	村北C遺跡	平安(B水田)、中世(溝・城郭・墓)、別名:矢中遺跡群Ⅵ	調5集(1983)
34	下村北・鈴内遺跡	平安(B水田)、中世(墓)、別名:矢中遺跡群Ⅶ	市67集(1986)
35	村北A・大平前遺跡	平安(B水田)・溝、近世(A畑)等、別名:矢中遺跡群Ⅱ・Ⅲ	市35・40集(1982・1983)
36	西浦・宇人・坂子西遺跡	古墳(竪穴住居・溝・土坑)、平安(住居・溝)	市113・118集(1991・1992)
37	柴崎遺跡Ⅰ～Ⅲ	平安(B水田・畑)	市62・70・126集(1985・1986・1992)
38	鼎殿塚古墳	前方後円墳	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
39	蟻ヶ塚古墳	大型円墳(6世紀4/4～7世紀初頭)	『日本考古学年報』10　(1963)
40	御山古墳	前方後円墳(6世紀4/4～7世紀初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
41	長山古墳	前方後円墳(＝方墳地区4号古墳、群馬文書会)	群埋文77集(1989)
42	長者屋敷大宅山古墳	円墳又は張り出し付き円墳(＝I地区A区1号墳、前期末)	群埋文77集(1989)、新編『高崎市史』資料編1原始古代1
43	横中畑古墳	円墳(＝下佐野8号墳、群馬大調査、前期末～中期初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
44	人山古墳	円墳(＝下佐野9号墳、群馬大調査、前期末～中期初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
45	茶臼山古墳	円墳(＝下佐野13号墳、群馬大調査、前期末～中期初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
46	鐙塚山古墳	前方後円墳(中期初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
47	八幡巻古墳	前方後円墳(中期初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
48	小鶴巻古墳	前方後円墳(5世紀後半)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
49	一本杉古墳	円墳(7世紀中頃)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
50	宮薬寺古墳	円墳(7世紀末)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
51	長観寺山古墳	前方後円墳(古墳後期)	『東国史論』20号(2005)
52	越後塚古墳	前方後円墳	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
53	新後閑屋敷	16世紀、新後閑氏の単郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
54	佐野屋敷	室町時代、単郭か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
55	箱1屋敷	室町時代、福1氏の複郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
56	清水屋敷	室町時代、方形館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
57	少輔兵衛屋敷	室町時代、板碑。	新編『高崎市史』資料編3中世1
58	倉賀野新堀屋敷	室町時代、板碑か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
59	上福島曲輪屋敷	室町時代、単郭。	新編『高崎市史』資料編3中世1
60	永泉寺の砦	16世紀、単郭。	新編『高崎市史』資料編3中世1
61	倉賀野西城	室町時代、倉賀野氏の城か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
62	倉賀野城	室町時代、倉賀野氏の複郭式城郭。	新編『高崎市史』資料編3中世1
63	倉賀野要城	16世紀、単郭。	新編『高崎市史』資料編3中世1
64	木部北城	戦国時代、木部氏の単郭式城館か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
65	剣田下之城	16世紀後半、剣田氏の複郭式城郭。	新編『高崎市史』資料編3中世1
66	反町城	室町時代、反町氏の複郭式城郭。	新編『高崎市史』資料編3中世1
67	新堀砦	室町時代、板碑か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
68	平名富岡康盛屋敷	16世紀、堤氏などによる複郭式城館が想定されている。	新編『高崎市史』資料編3中世1
69	下中村新井屋敷	16世紀、新井氏による開郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
70	高尾屋敷	戦国時代、高尾氏による単郭か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
71	下中村福田屋敷	16世紀、福田氏による開郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
72	下中村佐藤屋敷	16世紀、佐藤氏による複郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
73	高橋屋敷	複郭。	新編『高崎市史』資料編3中世1
74	宗原屋敷	16世紀、宗原氏による複郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
75	下村上屋敷	16世紀、大沢氏・熊本氏による複郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
76	柴崎西浦遺跡	長井氏による方形館か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
77	高井屋敷	16世紀か。高井氏による複郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
78	柴崎後井屋敷	15世紀。後井氏による複郭式城館か。	新編『高崎市史』資料編3中世1

※ 参考文献は以下の略称を使用した。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団…群埋文、高崎市教育委員会…市、高崎市遺跡調査会…調

※ 水田は、市155集(1998)に準じた略号を使用した。C…As-C下、FA…Hr-FA下及び乾燕下、FP…Hr-FP及び乾燕下、B…As-B下、A…As-A下


SA2
SI7
SI8
SD4
SD7
SA3
SI13
SI14
SB1
SI3
SD6
SK7
SD3
SD1
SA1
SK17
SK14
SK15
SK16
SA4
SB4
SB2
SK12
SB3
SA6
トレンチ
試掘トレンチ
SD0
SK3
SK8
SK11
SK10
SK16
撹乱
SD5
SK2
SI6
SI5
SI4
SK1
SI2
SI1
SK4
SK5
SK6
SI10
SI11
SK15
SI12
SK18
SD1

第6図　遺構全体図

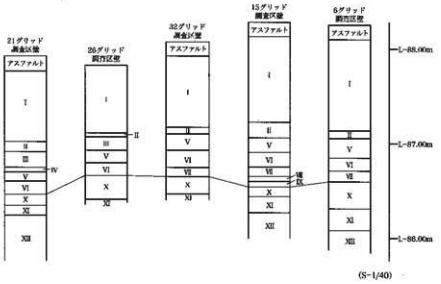
第Ⅳ章　基本層序

本遺跡では、Ⅰ～XⅢ層の基本土層を確認した。

Ⅰ層は、現代の砕石盛土層である。Ⅱ層は、耕作土でありグライ化している。Ⅲ層は、As-A が多量に混入した近世～近代の耕作土である。Ⅳ層は As-A の２次堆積層であり、調査区北部の南西部にのみ堆積している。Ⅴ・Ⅵ層は As-B が混入した耕作土である。Ⅴ層は若干攪拌されており、数量であるが As-A も混入している。Ⅵ層は As-B を多量に含み、As-B 降下後から As-A 降下以前に形成された土層である。下位に３～５cm 程度 As-B が集中して含まれる層が、断続的に確認できた。

Ⅶ～Ⅹ層は、古墳時代～古代に形成された土層で、Ⅵ層より上層と比較するとたいへん粘性が強くなる。Ⅶ層は褐色土層であるが、下部は色調がやや明るい。上部は部分的に攪拌され、As-B が混入する箇所がある。Ⅷ・Ⅹ層は白色粒が混入している黒褐色土であり、Ⅸ層が堆積していない箇所は両層の区別は困難である。Ⅸ層は酸化して褐色に変色している土層であり、主に遺構覆土の直上に堆積している。Ⅷ～Ⅹ層に混入している白色粒は Hr-FA もしくは As-C と考えられるが、肉眼では判別することは困難であった。

XⅠ層は小礫を多量に含むにぶい黄褐色土層、XⅡ・XⅢ層は高崎泥流層である。



基本土層

Ⅰ．砕石盛土層

Ⅱ．褐灰色（10YR4/1）	グライ化。As-A・As-B少量含。しまり強、粘性弱。
Ⅲ．褐色（10YR4/4）	As-A多量、炭化物微量含。しまりやや弱、粘性弱。
Ⅳ．暗灰黄色（2.5Y5/2）	As-A二体。2次堆積。しまり・粘性強。
Ⅴ．暗褐色（10YR3/4）	As-B中小多量、As-A微量含。しまり強、粘性弱。
Ⅵ．暗褐色（10YR3/3）	As-B中小多量含。しまり強、粘性弱。
Ⅶ．褐色（10YR4/4）	上部はAs-Bが部分的に混入している。下部は色調がやや明るい。しまりやや強、粘性強。
Ⅷ．黒褐色（10YR3/2）	褐色土粒少量、白色粒微量含。しまり強、粘性中程。
Ⅸ．褐色（7.5YR4/4）	酸化層。酸化粒多量、灯色粒微量含。しまり強、粘性やや強。
Ⅹ．黒褐色（10YR3/1）	小礫多量、灯色粒微量含む。しまり・粘性強。
XⅠ．にぶい黄褐色（10YR4/3）	小礫多量、1部5cm程度凸巻き土粒少量含。しまり・粘性強。
XⅡ．浅黄橙色（10YR8/3）	泥流層。しまり・粘性強。
XⅢ．黄褐色（10YR5/6）	泥流層。小礫多量、礫（こぶし大）少量含。しまり・粘性強。

第７図　基本土層柱状図

第Ⅴ章　検出された遺構と遺物

本遺跡で検出された遺構は、竪穴状遺構２基、竪穴住居跡13軒、掘立柱建物４棟、土坑17基、溝状遺構７条、柵状遺構５条、ピット81基である。遺構概察表・遺物観察表は、紙面の都合上、章末にまとめて掲載している。

第１節　竪穴状遺構・竪穴住居跡

竪穴状遺構は２基（SI1・2）、竪穴住居跡は13軒（SI3 ～ 15）検出された。竪穴状遺構は調査区壁面の断面観察からⅦ層から掘り込まれていることが確認され、覆土にAs-Bが含まれていることからAs-B降下（1108年）後に構築されたと考えられる。竪穴住居跡はⅩ層の上面から中位において検出されているが、調査区壁面の土層観察から、本来は全ての住居跡がⅩ層上面から掘り込まれていたとが考えられる。カマドをもつSI3 ～ 7・10・11・13・14に形状、覆土等が近似しているものは、全て竪穴住居跡として判断した。

SI1　（第８図　第７表　PL. 2・5）

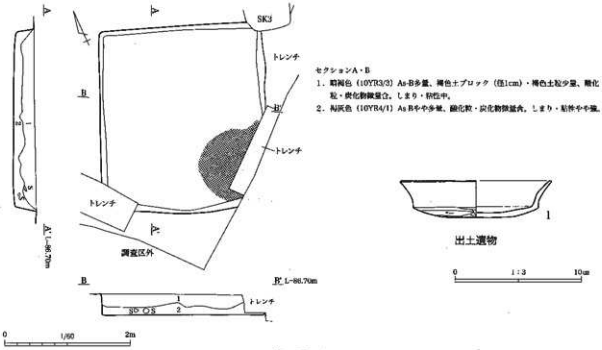
位　　置　２グリッドに位置する。SK3より古く、SI3より新しい。

形状・規模　平面形状は方形で、主軸方向N-21°-E、長軸（北東―南西）2.98 m、短軸（北西―南東）2.62 m を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、確認面からの深さは0.35 m程度、底面標高は86.20 m前後である。

覆　　土　As-Bを含む暗褐色土と褐灰色土を主体とし、自然堆積と思われる。南東隅の底面には、灰が薄く堆積していた。

遺　　物　図示した１は、覆土中から出土した土師器の坏である。この他に、６世紀末～７世紀初頭の様相を示す土師器片が多数（総量約700g）と須恵器片が２点出土している。

時　　期　覆土にAs-Bが含まれていることから、As-B降下後の構築である。



第８図　SI1

SI2 （第9図 PL. 2）

位　　置

5・6・9グリッドに位置する。全体の2/3程度が検出され、北東部は調査区外に位置する。SD1より古く、SI10、P139・140より新しい。

形状・規模

平面形状は長方形で、主軸方向N-5°-E、長軸（北一南）3.90 m以上、短軸（西一東）3.54 mを測る。壁は斜めに立ち上がり、Ⅶ層上面から底面までの深さは0.39 m程度、底面標高は86.25 m前後である。

覆　　土

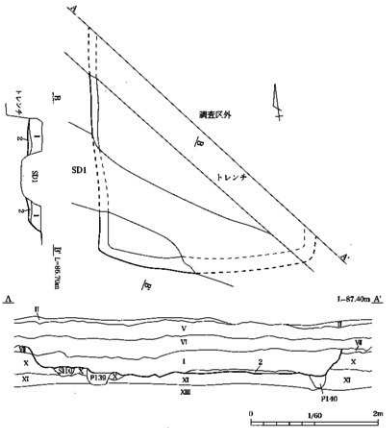
As-Bを多量に含む暗褐色土を主体とし、自然堆積と思われる。

遺　　物

出土していない。

時　　期

覆土にAs-Bが含まれていることから、As-B降下後の構築である。



セクションA・B
1．暗褐色（10YR3/3）As-B多量、酸化粒・炭化物微量含。しまりやや強、粘性弱。
2．褐灰色（10YR4/1）酸化粒・炭化物微量含。しまり・粘性やや強。

第9図　SI2

SI3 （第10・11図 第7表 PL. 2・5）

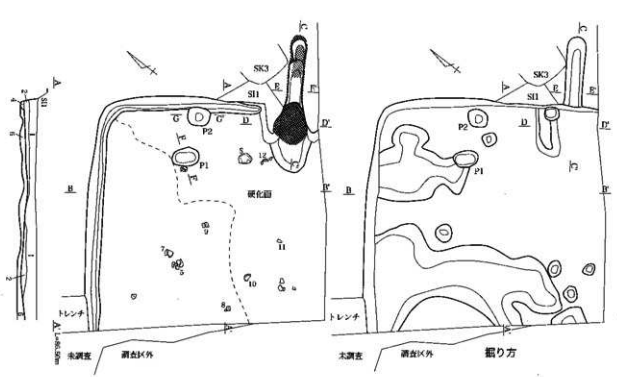
位　　置　1・2・3・5グリッドに位置する。住居全体の1/3程度が検出され、南部および西部は調査区外に位置する。SI1より古い。

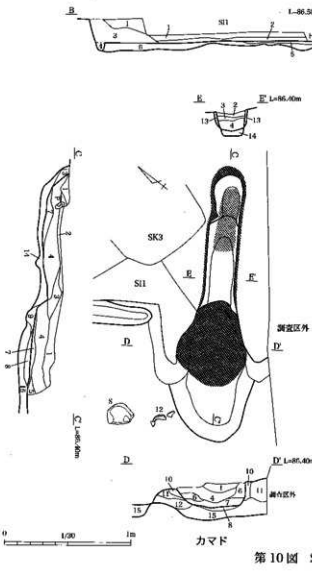
形状・規模　平面形状は方形または長方形で、主軸方向N-56°-E、長軸（北東一南西）3.76 m以上、短軸（北西一南東）3.77 m以上を測る。壁は急角度で立ち上がり、壁溝がある。確認面から床面までの深さは0.37 m程度、床面標高は86.25 m前後、床面から掘り方までの深さは0.05～0.10 m程度である。

覆　　土　黒色土と黒褐色土を主体とし、自然堆積と思われる。覆土上位にⅨ層は堆積していない。

柱　　穴　小型のピットが床面で2基検出されたが、位置に規格性が認められず柱穴と断定し難い。

カ マ ド　北東壁に構築され、燃焼部は壁内に位置する。袖は一部調査区外となるが、遺存状態は良好である。燃焼部は奥行0.65 m、幅0.40 m、焚口幅0.47 m、煙道部は長さ1.00 m、幅0.23 mを測る。火床面は比較的平坦で非常に焼け締まっており、直上には灰が堆積していた。袖は、にぶい黄褐色土を主体に構築されていた。奥壁は斜めに0.08 m程度立ち上がって煙道部へ繋がり、燃焼部及び煙道部の壁面は被熱により赤化していた。煙道部底面は比較的平坦であり、直上には灰が堆積していた。





セクションA・B

1. 黒色（10YR2/1）酸化鉄・小礫少量、炭化物微量、部分的に黄褐色土粒を斑に含。しまりやや弱、粘性やや強。
2. 黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～5cm）多量、小礫少量、炭化物微量含。しまり弱、粘性強。
3. 黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～5cm）やや多量、小礫少量、焼土・炭化物微量含。しまりやや弱、粘性強。
4. 黒褐色（10YR3/1）灰黄、小礫少量、炭化物微量含。しまり弱、粘性強。
5. 明褐色（7.5YR5/6）粘り床。酸化し、部分的に上部に薄く灰が堆積している。しまり非常に強、粘性強。
6. にぶい黄褐色（10YR4/3）掘り方。黄褐色土粒多量含。しまり強、粘性中。

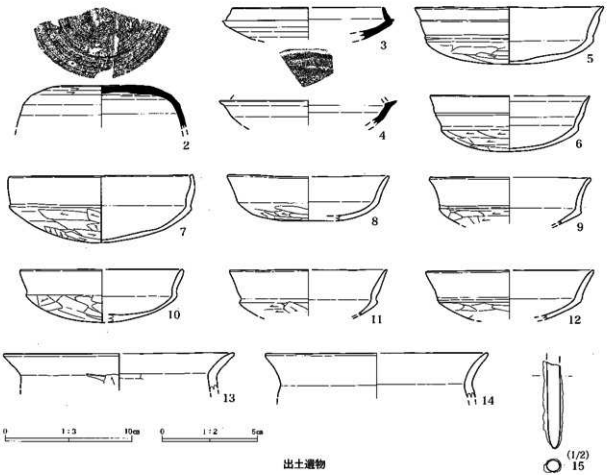
カマド　セクションC～E

1. 暗褐色（10YR3/3）黄褐色土ブロック（径1～10cm）多量、焼土ブロック（径0.5～1cm）・炭化物少量含。しまり強、粘性中。
2. にぶい赤褐色（5YR5/4）焼土ブロック（径0.5～3cm）多量含。しまり・粘性中。
3. にぶい黄褐色（10YR4/3）黄褐色土ブロック（径1～3cm）少量、焼土粒・灰微量含。しまり強、粘性中。
4. 黒褐色（10YR3/1）焼土ブロック（径0.5～3cm）・焼土粒やや多量含。しまり弱、粘性やや強。
5. にぶい黄褐色（10YR5/4）黄褐色土粒・焼土粒多量含。しまりや、粘性やや強。
6. 赤褐色（10R5/4）焼土・炭多量、黄褐色土粒少量含。しまりや、粘性やや強。
7. 灰色（N5/）炭、炭化物多量。しまり弱、粘性強。
8. 明赤褐色（2.5YR5/6）焼土。しまり赤弱に強、粘性弱。
9. 黒褐色（10YR3/1）焼土ブロック（径0.5～3cm）・焼土粒やや多量含。しまり弱、粘性やや強。
10. 明赤褐色（2.5YR5/6）被、被熱部。焼土。しまり強、粘性や。
11. にぶい黄褐色（10YR4/3）被、黄褐色土粒多量含。しまり強、粘性や。
12. 褐色（10YR4/1）被、黄褐色土粒微量含。しまり・粘性強。
13. 暗赤褐色（2.5YR3/4）被熱部。焼土。しまりやや強、粘性強。
14. 暗褐色（10YR3/3）黄褐色土粒・焼土粒・炭化物微量含。しまり強、粘性中。
15. セクションA・B層と同一。

P1・2　セクションF・G

1. 黒色（10YR2/1）黄褐色土粒微量含。しまり弱、粘性強。

第10図　SI3（1）



第11図　SI3（2）

遺　　物　図示したのは須恵器の坏蓋1点（2）、坏身2点（3・4）、土師器の坏8点（5～12）、甕2点（13・14）、紡錘車の芯と推定される鉄製の棒1点（15）である。10は床面で出土した。この他に、土師器片が多数（総量約1,800g）と須恵器片が9点出土している。

時　　期　出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭に属すと考えられる。

SI4（第12～15図　第7・8表　PL. 2・6）

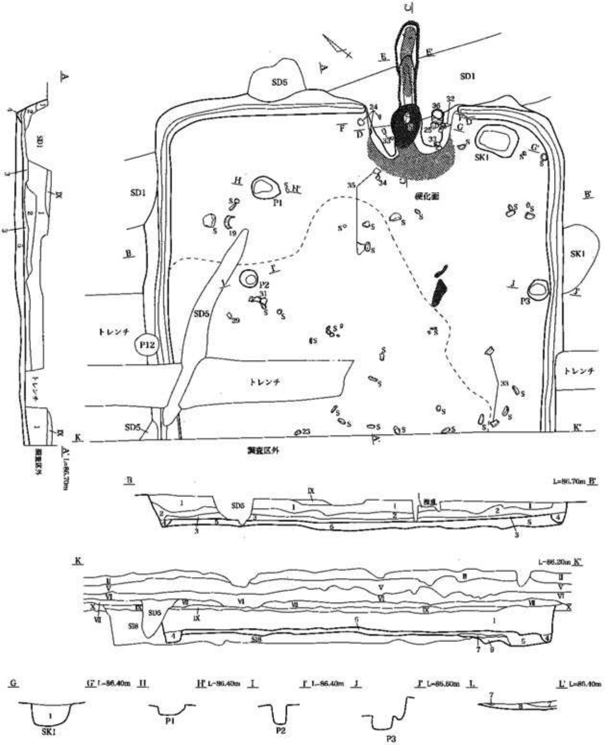
位　　置　4・5・7～9グリッドに位置する。住居全体の4/5程度が検出され、南西壁は調査区外に位置する。SD1・5、SK1・2、P12より古く、SI8より新しい。

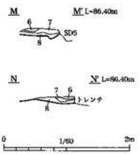
形状・規模　平面形状は方形または長方形で、主軸方向N-51°-E、長軸（北東－南西）5.55 m以上、短軸（北西－南東）6.61 mを測る。壁は急角度で立ち上がり、壁溝がある。X層上面から床面までの深さは0.42 m程度、床面標高は86.10～86.20 m前後、床面から掘り方までの深さは0.10～0.20 m程度である。

覆　　土　黒色土と黒褐色土を主体とし、自然堆積と思われる。覆土上位に区層が堆積している。掘り方でまとまって検出された焼土は、SI8のカマドに伴うものと推定される。

柱　　穴　小型のピットが床面で3基検出されたが、位置に規格性が認められず柱穴と断定し難い。

カ　マ　ド　北東壁のやや東寄りに構築され、燃焼部は壁内に位置する。SD1によって燃焼部から煙道部の上部が一部破壊されていたが、遺存状態は比較的良好である。燃焼部は奥行0.83 m、幅0.35 m、





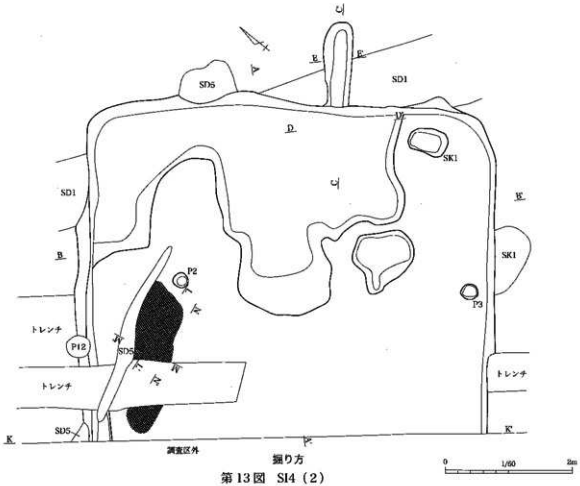
セクションA・B・K～N

1．黒色（10YR2/1）酸化粒・小礫少量、炭化物微量含。しまり強、粘性中。
2．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～3cm）・黄褐色土粒やや多量、酸化粒・小礫・炭化物少量含。しまり強、粘性中。
3．褐灰色（10YR4/1）黄褐色土ブロック（径0.5～2cm）少量含。しまり弱、粘性強。
4．黒色（10YR2/1）周溝。酸化粒・小礫少量、炭化物微量含。しまり強、粘性強。
5．にぶい黄褐色（10YR4/3）掘り方。黄褐色土ブロック（径1～5cm）多量含。しまり・粘性強。
6．黒色（10YR2/1）掘り方。炭化物。しまり弱、粘性強。
7．にぶい赤褐色（2.5YR5/4）掘り方。焼土ブロック（径0.5～1cm）・焼土粒多量含。しまり弱、粘性強。
8．褐灰色（10YR4/1）掘り方。にぶい黄褐色土粒・炭化物少量、焼土粒微量含。しまり弱、粘性強。
9．にぶい黄褐色（10YR4/3）掘り方。黄褐色土ブロック（径1～5cm）多量含。しまり、粘性強。

SK1　セクションG

1．黒色（10YR2/1）小礫多量、黄褐色土粒少量、焼土粒・炭化物微量含。しまりやや強、粘性強。

第12図　SI4（1）



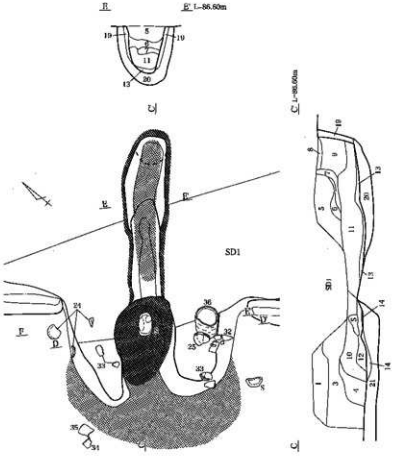
第13図　SI4（2）

焚口幅 0.30 m、煙道部は長さ 1.27 m、幅 0.32 mを測る。火床面は比較的平坦であり、検出された径 10cm 程度の礫は支脚と考えられる。袖は黒褐色土と明黄褐色土を主体に構築されており、右袖には土師器の坏（25）、甕（32・36）が構築材として埋設されていた。長胴甕の36は芯材として正位の状態で立てられており、下部から灰層（カマド 18 層）が検出された。崩落したカマド構築土中から出土した土師器の坏（24）も、構築材として利用されていた可能性が高い。奥壁は斜めに 0.03 m程度立ち上がって煙道部へ繋がり、燃焼部及び煙道部の壁面は被熱により赤化していた。煙道部底面は比較的平坦であり、直上には灰が堆積していた。煙道部における被熱土（カマド 7 層）の堆積から、先端の煙出しが復元できる。同様の堆積は、SI14 でも観察できる。

貯　蔵　穴　住居東隅に位置し、平面形状は楕円形、断面形状は台形状である。規模は長軸 0.64 m、短軸 0.47 m、床面からの深さは 0.35 mを測る。

遺　　物　図示したのは須恵器の坏蓋 1 点（16）、坏身 1 点（17）、高坏 1 点（18）、甕 3 点（19 ～ 21）、土師器の坏 6 点（22 ～ 27）、底部全孔の甑 1 点（28）、甕 11 点（29 ～ 39）である。23・29・31 は床面、17・21 は煙道部、16・18・26 は掘り方から出土した。33・35 は破片が住居内に散在して出土しており、35 は SI5 の覆土から出土した破片とも接合している。24・25・32・36 は、前述したようにカマド構築材に転用されていた。図示した遺物の他には、土師器片が多数（総量約 4,400g）、須恵器片が 5 点、黒曜石の剥片が 1 点出土している。

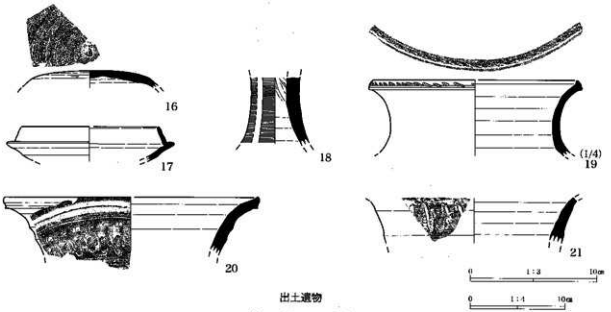
時　　期　出土遺物から、6 世紀末～ 7 世紀初頭に属すと考えられる。



カマド　セクションC～E

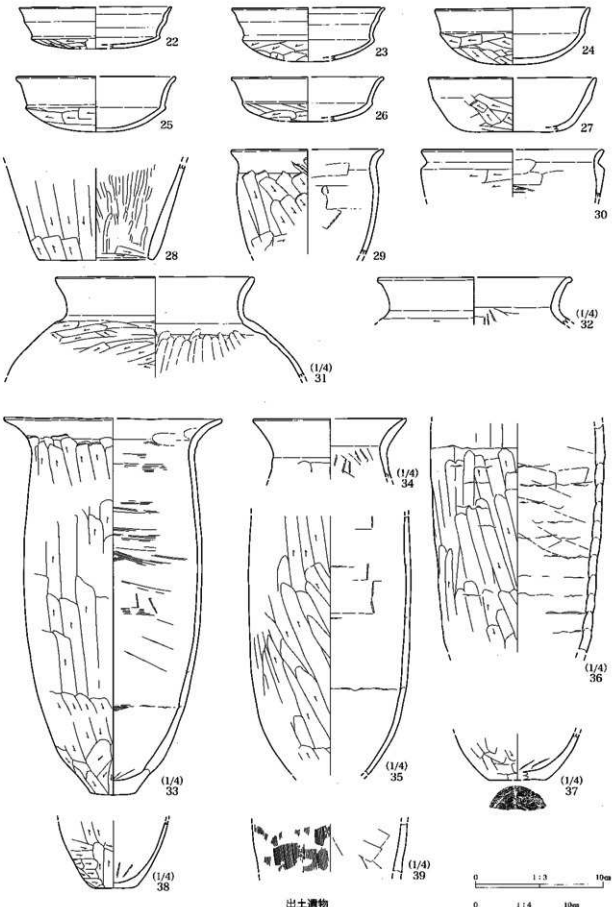
1. セクションA・B・K～N1層と同一。
2. セクションA・B・K～N2層と同一。
3. 暗褐色（10YR3/3）黄褐色土ブロック（径0.5～3cm）・黄褐色土粒やや多量、小礫少量、焼土ブロック（径0.5～1cm）・焼土粒・炭化物微量含、しまり強、粘性中。
4. 明黄褐色（10YR6/6）焼土粒・炭少量含、しまり・粘性強。
5. 黒褐色（10YR3/1）褐色土粒・焼土粒微量含。しまり強、粘性弱。
6. 褐灰色（10YR4/1）焼土粒・炭やや多量含。しまりやや強、粘性中。
7. 暗赤褐色（2.5YR3/4）被熱層、焼土。しまり・粘性強。
8. 褐色（10YR4/4）炭褐色土粒やや多量含。しまり強、粘性中。
9. 褐灰色（10YR4/1）焼土粒・炭やや多量含。しまり弱、粘性強。
10. 褐灰色（10YR4/1）焼土ブロック（径0.5～5cm）・焼土粒・炭非常に多量含。しまりやや強、粘性弱。
11. 黒灰色（10YR4/1）焼土粒・炭やや多量含。しまりやや強、粘性強。
12. 灰色（N5/）炭、焼土やや多量含、しまり弱、粘性強。
13. 灰色（N5/）炭。しまり弱、粘性強。
14. 明赤褐色（2.5YR5/6）焼土。しまりやや強、粘性強。
15. 明赤褐色（2.5YR5/6）焼、被熱層、焼土。しまり強、粘性中。
16. 明黄褐色（10YR6/6）焼。しまり・粘性強。
17. 黒褐色（10YR3/2）焼、黄褐色土ブロック（径0.5～2cm）・黄褐色土粒・焼土粒・炭化物少量含。しまり・粘性強。
18. 灰色（N5/）焼、炭生様、炭化物多量、焼土ブロック（径0.5～3cm）・焼土粒少量含。しまり弱、粘性強。
19. 暗赤褐色（2.5YR3/4）被熱層、焼十。しまりやや強、粘性強。
20. にぶい黄褐色（10YR4/3）焼土粒・炭・炭化物少量含。しまり弱、粘性弱。
21. セクションA・B・K～N5層と同一。

カマド



出土遺物

第14図　SI4（3）



出土遺物

第15図　SI4（4）

SI5 （第16～18図　第8・9表　PL. 2・3・7）

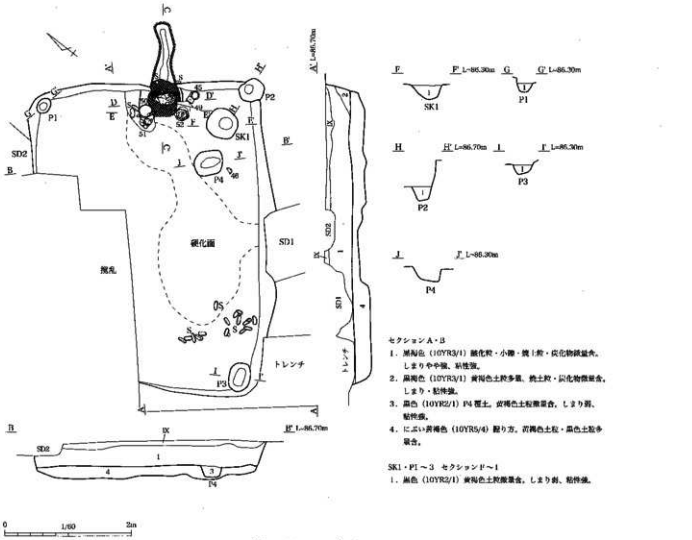
位　　置　7・8・11・12グリッドに位置し、攪乱によって北西部が破壊されている。SD1・2より古く、P31より新しい。

形状・規模　平面形状は長方形で、主軸方向N-50°-E、長軸（北東一南西）5.00 m、短軸（北西一南東）3.81 mを測る。壁は急角度で立ち上がり、確認面から床面までの深さは0.40 m程度、床面標高は86.15 m前後、床面から掘り方までの深さは0.10～0.20 m程度である。

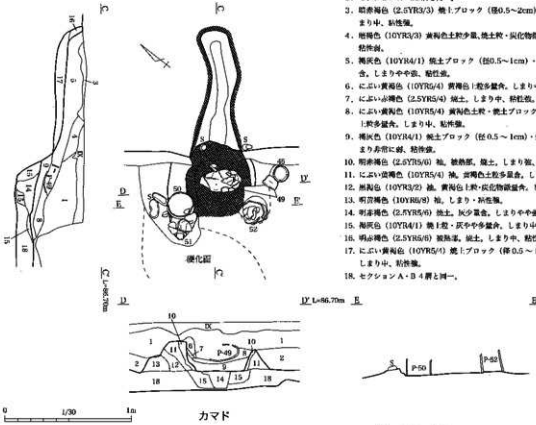
覆　　土　黒褐色土を主体とし、自然堆積と思われる。覆土上位にIX層が堆積している。

柱　　穴　住居隅で柱穴と考えられるピットが、3基検出された。貼模は径0.30～0.40 m、床面からの深さは0.15～0.20 m程度を測る。P4は位置に規格性が認められず、柱穴と断定し難い。

カ　マ　ド　北東壁のほぼ中央に構築され、燃焼部は壁内に位置する。遺存状態は良好であり、燃焼部は奥行0.76 m、幅0.37 m、焚口幅0.35 m、煙道部は長さ0.87 m、幅0.19 mを測る。火床面は、奥壁から焚口に向って緩やかに傾斜する。袖は黒褐色土と黄褐色土で構築されており、左袖には50・51、右袖には52がそれぞれ構築材として埋設されていた。50～52は全て長胴甕で、50・52は芯材として逆位の状態で立てられていた。奥壁は斜めに0.09 m立ち上がって煙道部へ繋がり、燃焼部及び煙道部の壁面は被熱により赤化していた。煙道部の底面は、先端から燃焼部奥壁に向って緩やかに傾斜する。



第16図　SI5（1）



第17図　SI5（2）

貯　蔵　穴

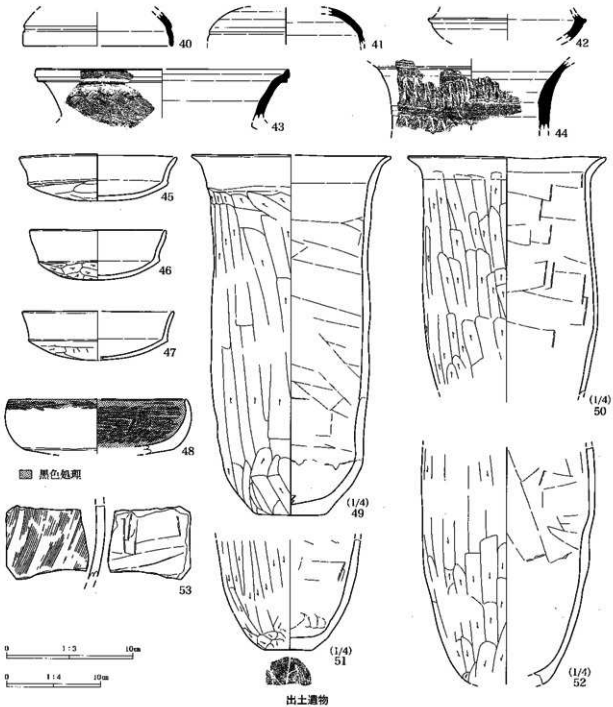
住居東隅に位置し、平面形状は円形、断面形状はU字状である。規模は径0.50m、床面からの深さは0.24mを測る。

遺　　物

図示したのは須恵器の坏蓋2点（40・41）、坏身1点（42）、甕2点（43・44）、土師器の坏4点（45～48）、甕5点（49～53）である。カマド横から出土した45とカマド燃焼部の灰層直上から出土した49は、カマド廃絶時に廃棄された遺物と考えられる。50～52は、カマド構築材として転用されたものである。43・48は住居の一部を破壊している撹乱の中から出土した。この他に、土師器片が多数（総量約1,900g）と須恵器片が6点出土している。

時　　期

出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭に属すと考えられる。



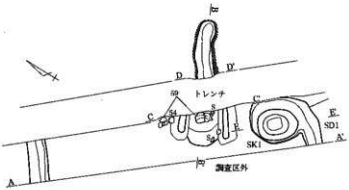
第18図 SI5（3）

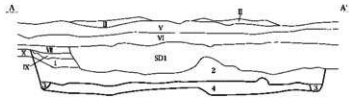
SI6 （第19・20図 第9表 PL. 3・7・8）

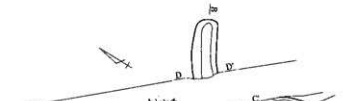
位　　置　13・14グリッドに位置する。カマドを含む住居北東部が検出され、他は調査区外に位置する。SD1より古い。

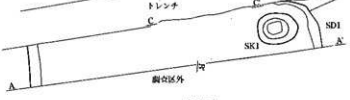
形状・規模　平面形状は方形または長方形と推定され、主軸方向N-55°-E、短軸（北西―南東）4.62 mを測る。壁は急角度で立ち上がり、壁溝がある。X層上面から床面までの深さは0.54 m程度、床面標高は86.10 m前後、床面から掘り方までの深さは0.10～0.20 m程度である。

覆　　土　黒色土を主体とし、自然堆積と思われる。覆土上位にIX層が堆積している。









セクションA

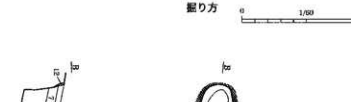
1. 黒褐色（10YR3/1）黄褐色上粒少量。酸化粒・炭化物微量含。しまり強、粘性弱。
2. 黒色（10YR2/1）黄褐色土粒・焼土粒・炭化物微量含。しまり強、粘性やや強。
3. 黒色（10YR2/1）周溝。黄褐色土粒少量、褐土粒・炭化物微量含。しまりやや強、粘性強。
4. 黄褐色（10YR5/6）掘り方。黒色土粒多量含。しまり・粘性強。

SK1　セクションE

1. 黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～1cm）・酸化粒・焼土粒・炭化物微量含。しまり・粘性強。

カマド　セクションB～D

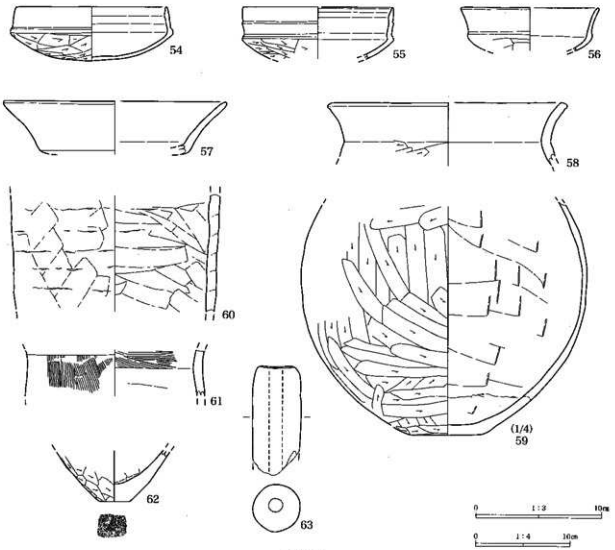
1. セクションA2層と同一。
2. 灰黄褐色（10YR2/1）褐色土粒多量、炭化物微量含。しまり・粘性強。
3. 褐灰色（10YR4/1）焼土粒・灰多量含。しまり弱、粘性強。
4. 褐灰色（10YR4/1）褐色土粒多量、焼土粒・炭化物少量含。しまり強、粘性強。
5. 褐灰色（10YR4/1）褐土粒やや多量、灰・炭化物少量含。しまり弱、粘性強。
6. 暗褐色（10YR3/3）褐色土粒多量、焼土粒・灰多量、炭化物少量含。しまりやや弱、粘性強。
7. 褐灰色（10YR4/1）焼土粒・灰多量含。しまり弱、粘性強。
8. 褐灰色（10YR4/1）灰多量、黄褐色土ブロック（径0.5～1cm）・焼土少量含。しまり弱、粘性強。
9. にぶい黄褐色（10YR5/4）袖、小礫少量含。しまり・粘性強。
10. 黒褐色（10YR3/2）褐土多量、黄褐色土粒少量、炭化物微量含。しまり強、粘性強。
11. セクションA4層と同一。
12. 暗赤褐色（2.5YR3/4）被熱部。焼土。しまり強、粘性やや強。



掘り方　0　1/60　2m

0　1/30　1m

第19図　SI6（1）



出土遺物

第20図　SI6（2）

カ　マ　ド　北東壁のやや東寄りに構築され、燃焼部は壁内に位置する。トレンチによって一部破壊してしまったが、他の遺存状態は比較的良好であった。燃焼部は奥行0.51 m以上、幅0.46 m、焚口幅0.49 m、煙道部は長さ0.92 m以上、幅0.28 mを測る。火床面は床面より0.08 m程度低くなり、袖はにぶい黄褐色土を主体に構築されていた。燃焼部はあまり被熱しておらず壁面が僅かに赤化する程度であった。煙道部底面は先端に向って傾斜しており、壁面は被熱により赤化していた。

貯　蔵　穴　住居東隅を0.15 m程度段状に掘り下げた中に位置し、平面形状は楕円形、断面形状はU字状である。規模は長軸0.63 m、短軸0.49 m、床面からの深さは0.53 mを測る。

遺　　物　図示したのは土師器の坏3点（54～56）、高坏1点（57）、甕5点（58～62）、土錘1点（63）である。カマドおよびその脇から出土した54・59は、カマド廃絶時に廃棄された遺物と考えられる。60は煙道部、63はカマド掘り方から出土している。この他に、土師器片が多数（総量約1,350g）と須恵器片が4点出土している。

時　　期　出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭に属すと考えられる。

SI7（第21・22図　第9表　PL. 3・8）

位　　置　9・20・25グリッドに位置する。カマドを含む南西部が検出され、他は調査区外に位置する。SI9、SD4より古い。

形状・規模　平面形状は方形または長方形で、主軸方向N-120°-W、長軸（北東―南西）1.69 m以上、短軸（北西―南東）4.25 m以上を測る。壁は斜めに立ち上がり、壁溝がある。X層上面から床面までの深さは0.43 m程度、床面標高は86.23 m前後、床面から掘り方までの深さは0.10～0.15 m程度である。

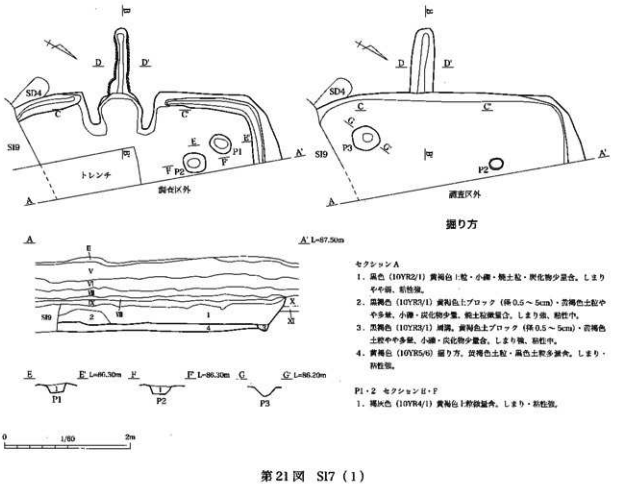
覆　　土　黒色土を主体とし、自然堆積と思われる。覆土上位にIX層が堆積している。

柱　　穴　小型のピットが床面で2基、掘り方で1基検出されたが、位置に規格性が認められず柱穴と断定し難い。

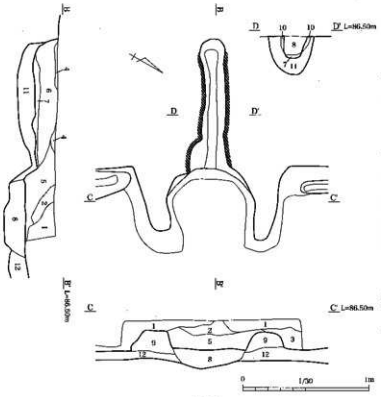
カ　マ　ド　南西壁に構築され、燃焼部は壁内に位置する。遺存状態は良好であり、燃焼部は奥行0.66 m以上、幅0.57 m、焚口幅0.48 m、煙道部は長さ1.03 m以上、幅0.18 mを測る。火床面は比較的平坦であり、袖は黒褐色土を主体に構築されていた。燃焼部はあまり被熱しておらず壁面が僅かに赤化する程度であり、奥壁は斜めに0.10 m程度立ち上がって煙道部へ繋がる。煙道部底面は平坦であり、壁面は被熱により赤化していた。

遺　　物　図示したのは土師器の坏2点（64・65）、長胴甕2点（66・67）である。この他に、土師器片が18点出土している。

時　　期　出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭に属すと考えられる。



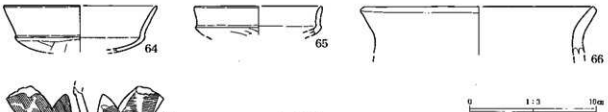
第21図　SI7（1）



カマド　セクションB～D

1. セクションA1層と同一。
2. 黒褐色（10YR3/1）に赤い黄褐色土ブロック（径1～3cm）・黄褐色土粒多量含。しまり強、粘性弱。
3. 黒褐色（10YR3/1）炭化物多量、焼土粒少量含。しまり弱、粘性強。
4. 褐灰色（10YR4/1）焼土ブロック（径0.5～1cm）・焼土粒やや多量、炭化物微量含。しまり弱、粘性強。
5. 黒褐色（10YR3/1）酸化粒・焼土粒・炭化物微量含。しまり中、粘性強。
6. 黒褐色（10YR3/1）酸化粒・焼土粒・炭化物微量含。しまり中、粘性強。
7. 暗赤褐色（2.5YR3/3）焼土粒多量含。しまり弱、粘性強。
8. 褐灰色（10YR4/1）焼土粒・灰・炭化物少量含。しまり弱、粘性強。
9. 黒褐色（10YR3/2）焼、黄褐色土ブロック（径0.5～1cm）少量、焼土粒・炭化物微量含。しまり強、粘性弱。
10. 明赤褐色（2.5YR5/6）被熱面。焼土。しまり中、粘性やや強。
11. 黒褐色（10YR3/2）黄褐色土粒多量、焼土粒・灰・炭化物少量含。しまり中、粘性やや強。
12. セクションA4層と同一。

カマド



出土遺物

第22図　SI7（2）

SI8（第23図　第9表　Pl.3・8）

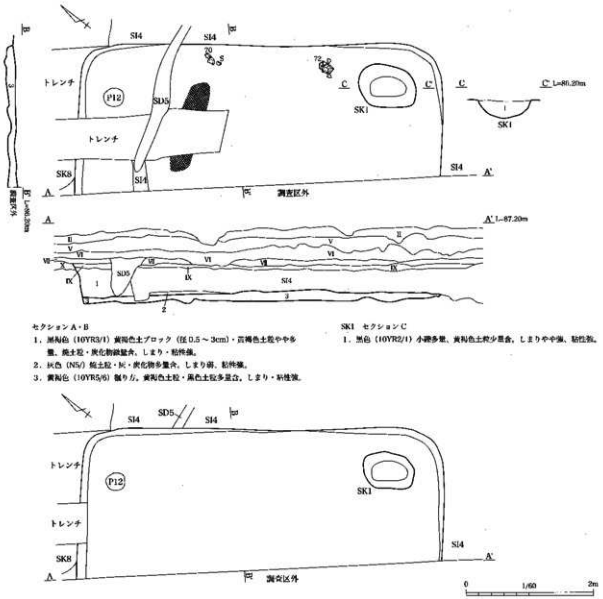
位　　置　4・7・8グリッドに位置する。住居のI/2程度が検出され、他は調査区外に位置する。SI4、SK8、P12より古い。重複するSI4に、大半を床面直上まで削平されていた。

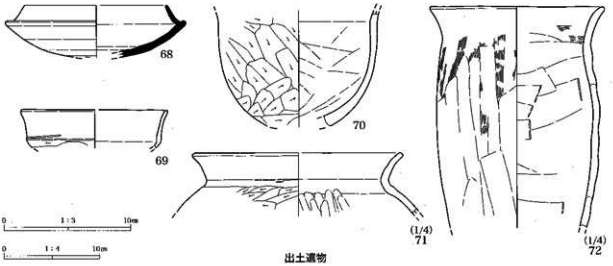
形状・規模　平面形状は方形または長方形で、主軸方向N-53°-E、長軸（北東―南西）2.38 m以上、短軸（北西―南東）5.75 mを測る。遺存している北西壁はほぼ垂直に立ち上がり、X層上面から床面までの深さは0.48 m程度、床面標高は86.10 m前後、床面から掘り方までの深さは0.10～0.15 m程度である。

覆　　土　黄褐色土ブロックをやや多く含む黒褐色土を主体とし、人為的埋土の可能性がある。覆土上位にIX層が堆積している。

カ マ ド　検出されていない。SI4の掘り方で集中して検出された焼土が本跡のカマドに伴うと推定されることと、貯蔵穴が住居東隅に検出されたことから北東壁に構築されていた可能性がある。

貯 蔵 穴　住居東隅に位置し、平面形状は楕円形、断面形状はU字状である。規模は長軸0.88 m、短軸0.67 m、床面からの深さは0.29 mを測る。





出土遺物

第 23 図　SI8

遺　　物　図示したのは須恵器の坏身1点（68）、土師器の坏1点（69）、甑1点（70）、甕2点（71・72）である。68・70・72は床面から出土した。この他に土師器片が19点出土している。

時　　期　出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭に属すと考えられる。

SI9（第24図　第10表　PL. 3・8）

位　　置　20グリッドに位置し、西部のみ検出され大半が調査区外となる。SD4、P16より古く、SI7より新しい。

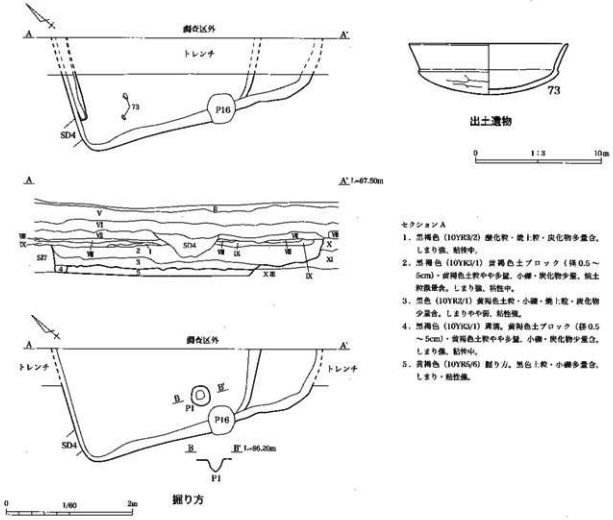
形状・規模　平面形状は方形または長方形で、主軸方向N-33°-E、長軸（北東一南西）1.96 m以上、短軸（北西一南東）4.12 mを測る。西壁はほぼ垂直に立ち上がり、北西壁際に壁溝がある。X層上面から床面までの深さは0.37 m程度、床面標高は86.15 m前後、床面から掘り方までの深さは0.10～0.15 m程度である。

覆　　土　黒褐色土と黒色土を主体とし、自然堆積と思われる。覆土上位にIX層が堆積している。

柱　　穴　掘り方で小型のピットが1基検出されたが、位置に規格性が認められず柱穴と断定し難い。

遺　　物　図示した73は、床面から出土した土師器の坏である。この他に土師器片が14点、須恵器片が1点出土している。

時　　期　出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭に属すと考えられる。



セクションA

1. 黒褐色（10YR3/2）粘化粒・粘土粒・炭化物多量含。しまり強、粘性中。
2. 黒褐色（10YR2/1）黄褐色土ブロック（径0.5～5cm）・黄褐色土粒やや多量、小礫・炭化物少量、粘土粒散在含。しまり強、粘性中。
3. 黒色（10YR2/1）黄褐色土粒・小礫・粘土粒・炭化物少量含。しまりやや弱、粘性強。
4. 黒褐色（10YR3/1）黒褐、黄褐色土ブロック（径0.5～5cm）・黄褐色土粒やや多量、小礫・炭化物少量含。しまり強、粘性中。
5. 黄褐色（10YR5/6）掘り方。黒色土粒・小礫多量含。しまり・粘性強。

第24図　SI9

SI10 （第25図　第10表　PL. 3・8）

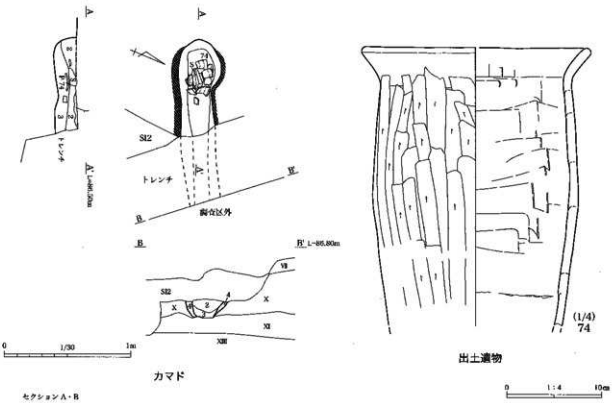
位　　置　5・9グリッドに位置する。カマド煙道部のみ検出され、他は全て調査区外に位置する。SI2より古い。

形状・規模　平面形状は不明、カマド煙道部の主軸方向はN-115°-Wを示す。

カ マ ド　南西壁に構築されたと推定され、煙道部のみ検出された。トレンチによって一部破壊されているが、遺存状態は良好である。煙道部は長さ1.32 m以上、幅0.25 mを測る。煙道部の壁面は被熱により赤化しており、煙道部先端から土師器の長胴甕（74）がまとまって出土した。

遺　　物　図示した74は、煙道部先端からまとまって出土した土師器の甕である。この他に、74と別個体と思われる土師器片が1点出土している。

時　　期　出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭に属すと考えられる。



セクションA・B
1．明赤褐色（2.5YR5/6）粘土。しまり中、粘性やや強。
2．黒褐色（10YR3/1）粘土多量、黄褐色土粒少量含む、焼土。しまり中、粘性やや強。
3．灰色（N5/）灰・炭化物多量含。しまり中、粘性強。
4．にぶい赤褐色（2.5YR5/4）被熱層。粘土。しまり中、粘性やや強。

第25図　SI10

SI11 （第26図　第10表　PL. 4・8）

位　　置　9グリッドに位置する。カマド煙道部を検出した他、調査区壁で断面を確認した。SK12、P18より古く、P33より新しい。

形状・規模　平面形状は不明、カマド煙道部の主軸方向N-115°-W、短軸推定3.59 mを測る。断面観察では壁は急角度に立ち上がり、X層上面から床面までの深さは0.38 m程度、床面標高は86.20 m前後、床面から掘り方までの深さは0.25 m程度である。

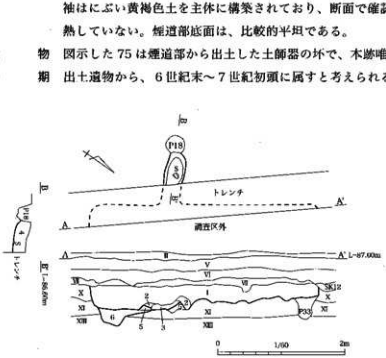
覆　　土　黒褐色土を主体とし、自然堆積と思われる。覆土上位にIX層は堆積していない。

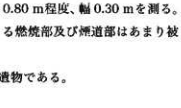
柱　　穴　検出されていない。

カ　マ　ド　南西壁に構築され、煙道部と燃焼部の断面のみ検出された。トレンチによって破壊されているため、遺存状態は悪い。燃焼部は幅 0.25 m、煙道部は長さ推定 0.80 m程度、幅 0.30 mを測る。袖はにぶい黄褐色土を主体に構築されており、断面で確認できる燃焼部及び煙道部はあまり被熱していない。煙道部底面は、比較的平坦である。

遺　　物　図示した 75 は煙道部から出土した土師器の坏で、本跡唯一の遺物である。

時　　期　出土遺物から、6 世紀末～7 世紀初頭に属すと考えられる。





SI11　セクションA・B

1. 黒褐色（10YR3/1）小礫やや多量、黄褐色土粒・焼土粒・炭化物微量含。しまり・粘性やや強。
2. にぶい黄褐色（10YR5/4）小礫多量、黒色土粒少量、炭化物微量含。しまり強、粘性弱。
3. 灰色（N4/）焼土・炭多量、炭化物少量含。しまり弱、粘性強。
4. 黒色（10YR2/1）黄褐色土粒・焼土粒・炭化物微量含。しまり強、粘性弱。
5. にぶい黄褐色（10YR5/4）焼、黄褐色土粒多量、炭化物微量含。しまり中、粘性やや強。
6. 灰黄褐色（10YR4/2）割り方。小礫少量、炭化物微量含。しまり・粘性強。

第 26 図　SI11

SI12　（第 27 図　PL. 4）

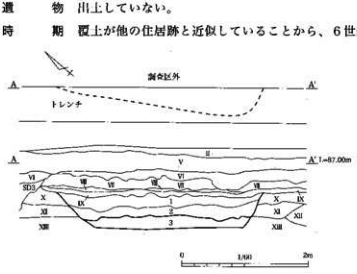
位　　置　15・20 グリッドに位置し、調査区壁面で断面が検出された。

形状・規模　不明である。断面観察では壁は急角度に立ち上がり、X層上面～床面までの深さは 0.40 m程度、床面標高は 86.14 m前後、床面から掘り方までの深さは 0.10 ～ 0.20 m程度である。

覆　　土　黒褐色土と黒色土を主体とし、自然堆積と思われる。覆上上位にIX層が堆積している。

遺　　物　出土していない。

時　　期　覆上が他の住居跡と近似していることから、6 世紀末～7 世紀初頭に属す可能性がある。



SI12　セクションA

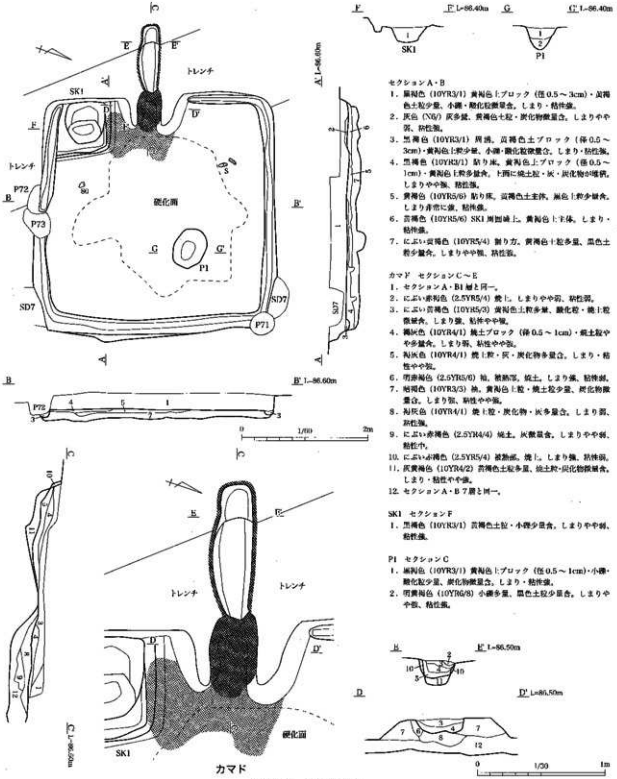
1. 黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒・小礫少量、焼化粒・炭化物微量含。しまり強、粘性やや強。
2. 黒色（10YR2/1）黄褐色土粒・小礫少量、焼土粒・炭化物微量含。しまり強、粘性やや強。
3. 黄褐色（10YR5/6）割り方。黄褐色土粒・黒色土粒・小礫多量含。しまり・粘性強。

第 27 図　SI12

SI13 （第28・29図　第10表　PL. 4・8）

位　　置　18・19・24・25グリッドに位置する。SD7、P71～73より古い。

形状・規模　平面形状は方形で、主軸方向N-110°-W、長軸（北東一南西）3.88 m、短軸（北西一南東）3.84 mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝はカマドと貯蔵穴付近を除き全周する。確認面から床面までの深さは0.28 m、床面標高は86.20 m前後、床面から掘り方までの深さは0.10～0.20 m程度である。



セクションA・B

1. 黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～3cm）・黄褐色土粒少量、小礫・焼化粒微量含。しまり・粘性強。
2. 灰色（N6/）灰多量、黄褐色土粒・炭化物微量含。しまりやや弱、粘性強。
3. 黒褐色（10YR3/1）褐色、黄褐色土ブロック（径0.5～3cm）・黄褐色土粒少量、小礫・焼化粒微量含。しまり・粘性強。
4. 黒褐色（10YR3/1）粘り強。黄褐色土ブロック（径0.5～1cm）・黄褐色土粒多量含、土器に焼土粒・炭・炭化物が混入。しまりやや強、粘性強。
5. 黄褐色（10YR5/6）粘り床、黄褐色土主体、黒色土粒少量含。しまり非常に強、粘性強。
6. 黄褐色（10YR5/6）SK1周囲崩土。黄褐色土主体。しまり・粘性強。
7. にぶい黄褐色（10YR5/4）割り方。黄褐色土粒多量、黒色土粒少量含。しまりやや強、粘性強。

カマド　セクションC～E

1. セクションA・B層と同一。
2. にぶい橙褐色（2.5YR5/4）焼土。しまりやや弱、粘性弱。
3. にぶい黄褐色（10YR5/3）黄褐色土粒多量、礫化粒・焼土粒微量含。しまり強、粘性やや強。
4. 褐灰色（10YR4/1）焼土ブロック（径0.5～1cm）・焼土粒やや多量含。しまり弱、粘性やや強。
5. 褐灰色（10YR4/1）焼土粒・炭・炭化物多量含。しまり・粘性やや弱。
6. 明赤褐色（2.5YR5/6）袖、被熱部。焼土。しまり強、粘性弱。
7. 暗褐色（10YR3/3）袖、黄褐色土粒・焼土粒少量、炭化物微量含。しまり強、粘性やや強。
8. 褐灰色（10YR4/1）焼土粒・炭化物・炭多量含。しまり弱、粘性強。
9. にぶい赤褐色（2.5YR4/4）焼土。炭微量含。しまりやや弱、粘性中。
10. にぶい赤褐色（2.5YR5/4）被熱部。焼土。しまり強、粘性弱。
11. 灰黄褐色（10YR4/2）黄褐色土粒多量、焼土粒・炭化物微量含。しまり・粘性やや強。
12. セクションA・B7層と同一。

SK1　セクションF

1. 黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒・小礫少量含。しまりやや弱、粘性強。

P1　セクションC

1. 褐灰色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～1cm）・小礫・焼化粒少量、炭化物微量含。しまり・粘性強。
2. 明黄褐色（10YR6/8）小礫多量、黒色土粒少量含。しまりやや弱、粘性強。

第28図　SI13（1）

覆　　土

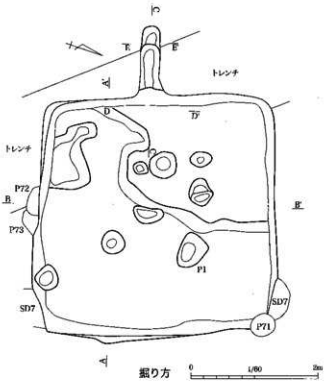
黒褐色土を主体とし、自然堆積と思われる。覆土上位にIX層は堆積していない。

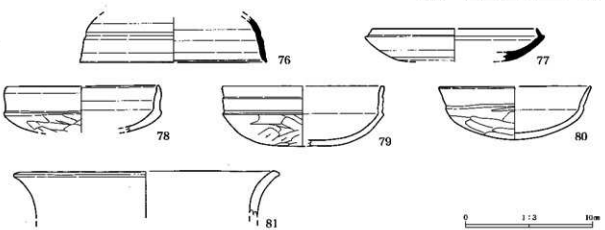
柱　　穴

ピットが床面で1基検出されたが、位置に規格性が認められず柱穴と断定し難い。

カ　マ　ド

南西壁に構築され、燃焼部は壁内に位置する。遺存状態は良好であり、燃焼部は奥行0.61 m、幅0.20 m、焚口幅0.30 m、煙道部は長さ1.07 m、幅0.31 mを測る。火床面は比較的平坦であり、袖は暗褐色土を主体に構築されていた。奥壁は斜めに0.04 m程度立ち上がって煙道部へ繋がり、燃焼部及び煙道部の壁面は被熱により赤化していた。煙道部底面は比較的平坦である。





出土遺物

第29図　SI13（2）

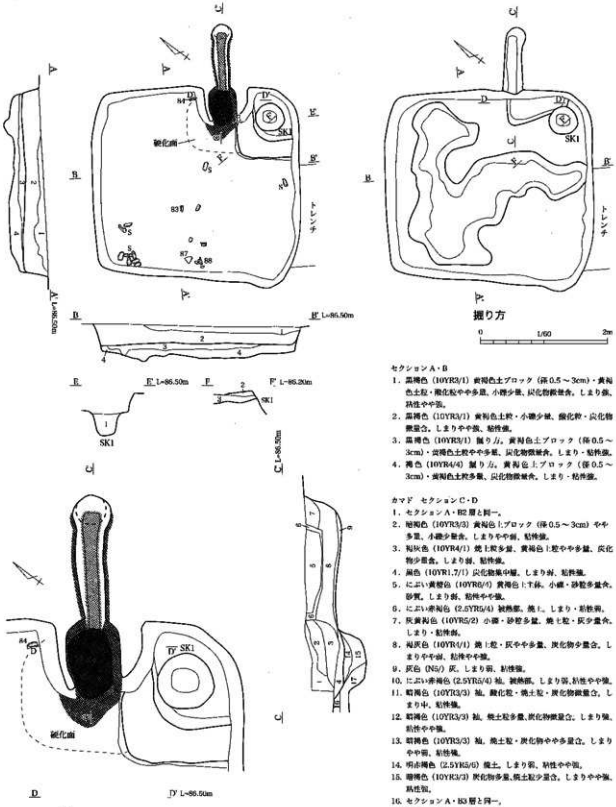
貯　蔵　穴　住居南隅に検出され、平面形状は方形、断面形状は階段状である。規模は長軸0.65 m、短軸0.63 m、床面からの深さは0.23 mを測る。貯蔵穴の周りは、幅0.14～0.18 m、高さ0.03 mの盛土でL字状に区画されている。

遺　　物　図示したのは須恵器の坏蓋1点（76）、坏身1点（77）、土師器の坏3点（78～80）、甕1点（81）であり、80は床面から出土した。この他に、土師器片が多数（総量約500g）と、須恵器片が1点出土している。

時　　期　出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭に属すと考えられる。

SI14（第30・31図　第10表　PL. 4・8・9）

位　　置　23・24・28・29グリッドに位置する。P99・100・126より新しい。



セクションA・B

1. 黒褐色（10YR3/1）炭褐色土ブロック（径0.5～3cm）・黄褐色土粒・微化粒中や多量、小礫少量、炭化物微量含。しまり強、粘性やや強。
2. 黒褐色（10YR3/1）炭褐色土粒・小礫少量、微化粒・炭化物微量含。しまりやや強、粘性強。
3. 黒褐色（10YR3/1）掘り方。黄褐色土ブロック（径0.5～3cm）・炭褐色土粒やや多量、炭化物微量含。しまり・粘性強。
4. 褐色（10YR4/4）掘り方。黄褐色土ブロック（径0.5～3cm）・炭褐色土粒多量、炭化物微量含。しまり・粘性強。

カマド　セクションC・D

1. セクションA・B2層と同一。
2. 暗褐色（10YR3/3）黄褐色土ブロック（径0.5～3cm）やや多量、小礫少量含。しまりやや弱、粘性強。
3. 褐灰色（10YR4/1）焼土粒多量、黄褐色土粒やや多量、炭化物少量含。しまり弱、粘性強。
4. 黒色（10YR1.7/1）炭化物集中層。しまり弱、粘性強。
5. にぶい黄橙色（10YR6/4）黄褐色土下層。小礫・砂粒多量含。砂質。しまり弱、粘性やや強。
6. にぶい赤褐色（2.5YR5/4）被熱部。焼土。しまり・粘性弱。
7. 灰黄褐色（10YR5/2）小礫・砂粒多量、焼土粒・炭少量含。しまり・粘性弱。
8. 褐灰色（10YR4/1）焼土粒・炭やや少量、炭化物少量含。しまりやや弱、粘性やや強。
9. 灰色（N5/）灰。しまり弱、粘性強。
10. にぶい赤褐色（2.5YR5/4）被熱部。しまり弱、粘性やや強。
11. 暗褐色（10YR3/3）被。微化粒・焼土粒・炭化物微量含。しまり中、粘性強。
12. 暗褐色（10YR3/3）被。焼土粒多量、炭化物微量含。しまり強、粘性やや強。
13. 暗褐色（10YR3/3）被。焼土粒・炭化物やや多量含。しまりやや弱、粘性強。
14. 明赤褐色（2.5YR3/6）焼土。しまり弱、粘性やや強。
15. 暗褐色（10YR3/3）炭化物多量、焼土粒少量含。しまりやや強、粘性強。
16. セクションA・B3層と同一。
17. セクションA・B4層と同一。

SK1　セクションE・F

1. 黒色（10YR2/1）小礫少量、黄褐色土粒微量含。しまりやや弱、粘性強。
2. 明褐色（7.5YR5/6）SK1周囲盛土。明褐色土粒多量、褐灰色土粒やや多量含。しまり・粘性強。
3. セクションA・B4層と同一。

第30図　SI14（1）

形状・規模　平面形状は方形で、主軸方向N-53°-E、長軸（北西－南東）3.27 m、短軸（北東－南西）3.10 mを測る。壁は急角度で立ち上がり、確認面から床面までの深さは0.37 m程度、床面標高は86.10 m前後、床面から掘り方までの深さは0.15～0.20 m程度である。

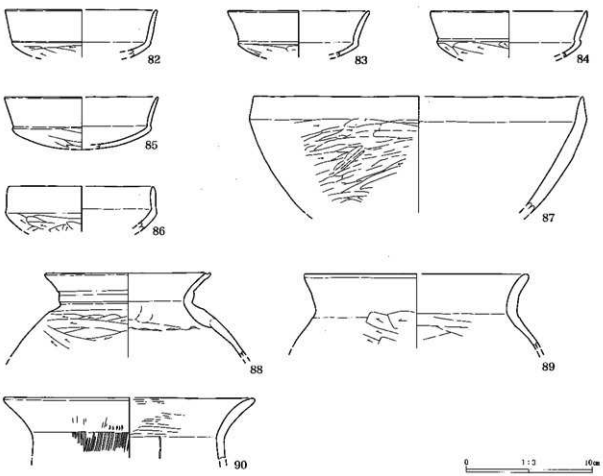
覆　　土　黒褐色土を主体とし、自然堆積と思われる。覆土上位にIX層は堆積していない。

カ マ ド　北東壁のほぼ中央に構築され、燃焼部は壁内に位置する。遺存状態は良好であり、燃焼部は奥行0.53 m、幅0.32 m、焚口幅0.24 m、煙道部は長さ1.05 m、幅0.22 mを測る。火床面は床面より0.08 m程度低くなり、直上には炭化物が集中していた。袖は暗褐色土を主体に構築されていた。奥壁は斜めに0.04 m程度立ち上がって煙道部へ繋がり、燃焼部及び煙道部の壁面は被熱により赤化していた。煙道部底面は平坦であり、直上には灰が堆積していた。煙道部の天井構築土であるにぶい黄褐色土（カマド5層）とその被熱土（カマド6層）の堆積状況から、先端の煙出しが復元できる。同様の堆積は、SI4でも観察できる。

貯 蔵 穴　住居東隅に検出され、平面形状は円形、断面形状はU字状である。規模は径0.44 m、床面からの深さは0.37 mである。幅0.38 m、高さ0.06 mの盛土でL字状に区画されている。

遺　　物　図示したのは土師器の坏5点（82～86）、鉢1点（87）、甕3点（88～90）である。84はカマドの横から出土した。この他に、土師器片が多数（総重約600g）と、須恵器片が1点出土している。

時　　期　出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭に属すと考えられる。



出土遺物

第31図　SI14（2）

SI15 （第32図　第10表　PL. 4・9）

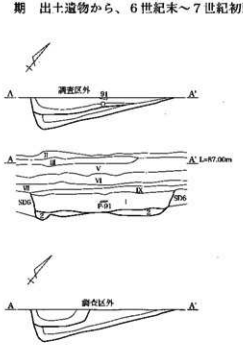
位　　置　27グリッドに位置する。南東隅が検出され、他は調査区外に位置する。SK7、SD6より新しい。

形状・規模　不明である。断面観察では壁は急角度に立ち上がり、X層上面から床面までの深さは0.10 m、床面標高は86.22 m前後、床面から掘り方までの深さは0.10 m程度である。

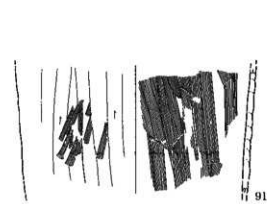
覆　　土　黒色土を主体とし、自然堆積と思われる。覆土上位にIX層が堆積している。

遺　　物　図示した91は、覆土中から出土した土師器の甕である。この他に土師器片が6点、須恵器片が1点出土している。

時　　期　出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭に属すと考えられる。



掘り方



出土遺物

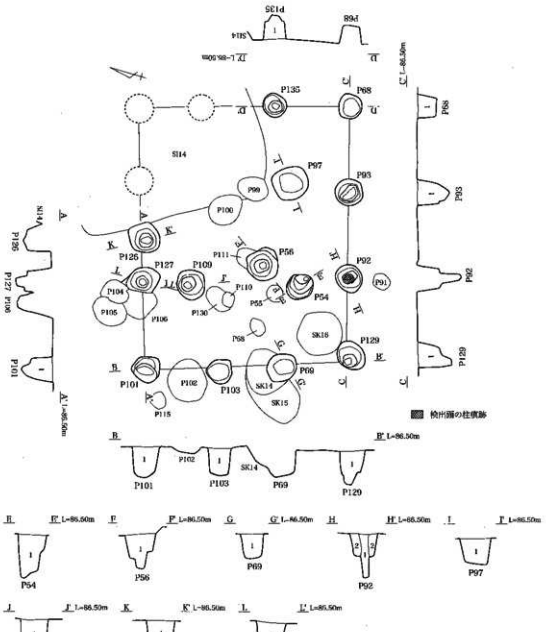
第32図　SI15

第2節　掘立柱建物

掘立柱建物は、4棟（SB1～4）検出された。掘立柱建物を構成するピットは、全て個別に調査している。遺構の検出は確認面を下げながら行っており、その際に削平されたピットがある可能性を考慮して掘立柱建物を抽出した。個々のピットについては、第5・6表に形状・規模を記載した。

SB1　（第33図　第5・6・10表　PL. 4・5・9）

位　　置　17・23・24グリッドに位置する9基のピット（P68・69・92・93・101・103・127・129・135）で構成される。このほか、5基のピット（P54・56・97・109・126）が、本跡と関連する可能性があるため同時に報告する。調査所見ではSI14より古いが、SI14の覆土掘削の際ピットを破壊した可能性があるため、新旧関係は不明である。



P54　1．褐灰色（10YR4/1）砂粒少量、茶褐色土粒・酸化粒微量含。しまりや、粘性強。
P56　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒所に、酸化粒微量含。しまりやや弱、粘性強。
P68　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～3cm）・炭褐色土粒やや多量含。しまり強、粘性やや強。
P69　1．黒褐色（10YR3/1）炭褐色土粒少量、黄褐色土ブロック（径0.5～3cm）・酸化粒微量含。しまり弱、粘性強。
P92　1．褐灰色（10YR4/1）径炭粒、黄褐色土粒微量含。しまり非常に弱、粘性やや強。
　　2．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒・酸化粒微量含。しまりやや弱、粘性強。
P93　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒少量、酸化粒・炭化物微量含。しまり・粘性やや強。
P97　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒少量、黄褐色土ブロック（径0.5～1cm）微量含。しまりやや弱、粘性強。
P101　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒・酸化粒微量含。しまり・粘性やや強。
P103　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒・炭粒少量含。しまりやや弱、粘性やや強。
P109　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～2cm）・黄褐色土粒少量、酸化粒微量含。しまり強、粘性やや強。
P126　1．黒褐色（10YR2/2）黄褐色土ブロック（径0.5～2cm）・黄褐色土粒微量含。しまりや、粘性強。
P127　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒少量、酸化粒・焼土粒・炭化物微量含。しまり弱、粘性強。
P129　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～2cm）やや多量、黄褐色土粒少量含。しまりやや弱、粘性強。
P135　1．黒褐色（10YR2/2）黄褐色土粒少量、酸化粒微量含。しまりや、粘性強。

出土遺物

0 1:3 10cm

第33図　SB1

形状・規模　桁行3間、梁行3間の側柱建物として報告する。若干柱筋はずれるが、P54・97・109を含めて総柱建物である可能性もある。棟方向はN-73°-Eを示し、桁行は4.02 m、梁行は3.24 mを測る。桁行の柱間寸法はP127—101が1.38 m、P68—93が1.38 m、P93—92が1.38 m、P92—129が1.33 mを測る。梁行の柱間寸法は、P101—103が1.21 m、P103—69が1.03 m、P69—129が1.00 m、P135—68が1.16 mである。P126は柱筋に位置することから、補助的な柱穴と考える。全体の面積は、推定13.53㎡である。

柱　　穴　P54・56・92・93・109・101・126・127・129・135は、明瞭な柱痕跡が確認できた。

遺　　物　側柱建物を構成する9基のピットからは、出土していない。図示した92は、P97から出土した土師器の坏である。この他に、P54からは土師器小片4点、P126からは土師器小片3点が出土している。

時　　期　覆土にAs-Bが含まれていないことから、As-B降下より前の構築である。出土遺物と棟方向が竪穴住居跡の主軸方向とほぼ一致することから、6世紀末～7世紀初頭に属す可能性がある。

SB2（第34図　第5・6・10表　PL. 5・9）

位　　置　16・17・22・23グリッドに位置する8基のピット（P53・57・61・76・107・119・122・124）で構成される。SD1より古い。

形状・規模　桁行3間、梁行1間の側柱式建物で、棟方向はN-20°-Wを示す。桁行は3.50 m、梁行は2.51 mを測る。桁行の柱間寸法はP124—119が1.23 m、P119—122が1.23 m、P122—61が1.02 m、P107—76が1.22 m、P76—57が1.50 m、P57—53が0.85 mを測る。梁行の柱間寸法は、P61—53が2.51 m、P124—107が1.78 mである。全体の面積は、7.54㎡である。

柱　　穴　P122・124は、明瞭な柱痕跡が確認できた。

遺　　物　図示した93は、P 61から出土した土師器の坏である。この他に、遺物は出土していない。

時　　期　覆土にAs-Bが含まれていないことから、As-B降下より前の構築である。出土遺物と棟方向が竪穴住居跡の主軸方向とほぼ一致することから、6世紀末～7世紀初頭に属す可能性がある。

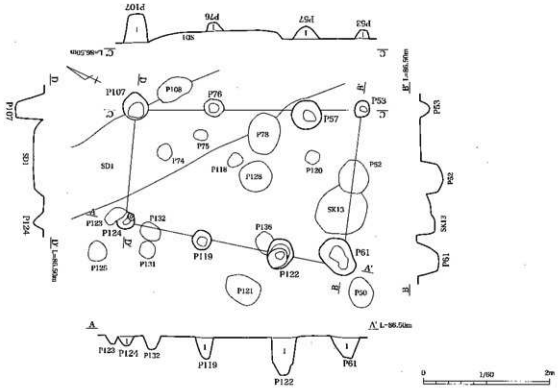
SB3（第34図　第5・6表　PL. 5）

位　　置　16・17・22グリッドに位置する5基のピット（P50・52・59・121・128）で構成される。

形状・規模　桁行2間、梁行1間の側柱式建物で、棟方向はN-24°-Wを示す。桁行は3.15 m、梁行は1.82 mを測る。桁行の柱間寸法はP121—50が1.76 m、P128—52が1.60 m、P52—59が1.55 mを測る。梁行の柱間寸法は、P121—128が1.82 mである。全体の面積は、推定5.76㎡である。

遺　　物　出土していない。

時　　期　覆土にAs-Bが含まれていないことから、As-B降下より前の構築である。棟方向が竪穴住居跡の主軸方向とほぼ一致することから、6世紀末～7世紀初頭に属す可能性がある。



SB2

P53　1．褐灰色（10YR4/1）黄褐色土粒・小礫少量。炭化物微量含。しまり・粘性強。

P57　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒少量。酸化粒・炭化物微量含。しまり・粘性やや強。

P61　1．黒褐色（10YR3/1）砂粒少量。黄褐色土粒・酸化粒微量含。しまり・粘性強。

P76　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒・酸化粒微量含。しまり弱。粘性強。

P107　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～1cm）・酸化粒微量含。しまりやや、粘性強。

P119　1．黒褐色（10YR3/1）酸化粒少量、黄褐色土粒微量含。しまりやや弱、粘性強。

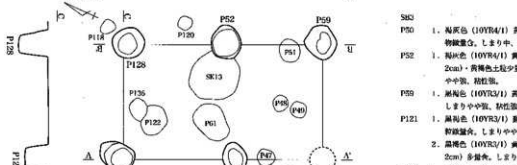
P122　1．黒褐色（10YR3/1）酸化粒少量、黄褐色土ブロック（径0.5～1cm）・黄褐色土粒微量含。しまりやや弱、粘性強。

P124　1．黒褐色（10YR3/1）酸化粒少量、黄褐色土粒微量含。しまり・粘性やや強。

SB2

出土遺物

0　1:3　10cm



SB3

P50　1．褐灰色（10YR4/1）黄褐色土粒・酸化粒・炭化物微量含。しまり中、粘性強。

P52　1．褐灰色（10YR4/1）黄褐色土ブロック（径0.5～2cm）・黄褐色土粒少量、酸化粒微量含。しまりやや強、粘性強。

P59　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒・酸化粒微量含。しまりやや強、粘性強。

P121　1．黒褐色（10YR3/1）酸化粒やや多量、黄褐色土粒微量含。しまりやや弱、粘性強。
2．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～2cm）多量含。しまりやや、粘性強。

P128　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～5cm）やや多量含。しまり・粘性強。

第34図　SB2・3

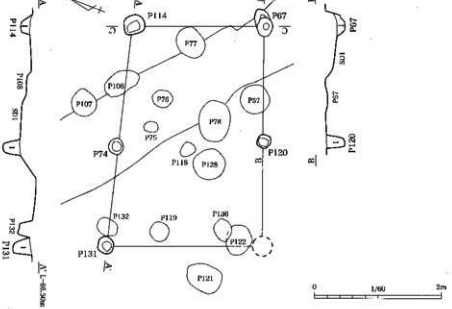
SB4 （第35図　第5・6表　PL. 5）

位　　置　16・22・23グリッドに位置する5基のピット（P67・74・114・120・131）で構成される。

形状・規模　桁行2間、梁行1間の側柱式建物で、棟方向はN-70°-Eを示す。桁行は3.50 m、梁行は2.10 mを測る。桁行の柱間寸法はP114—74が1.90 m、P74—131が1.60 m、P67—120が1.83 mを測る。梁行の柱間寸法は、P114—67が2.10 mである。全体の面積は、推定8.15㎡である。

遺　　物　出土していない。

時　　期　覆土にAs-Bが含まれていないことから、As-B降下より前の構築である。棟方向が竪穴住居跡の主軸方向とほぼ一致することから、6世紀末～7世紀初頭に属す可能性がある。

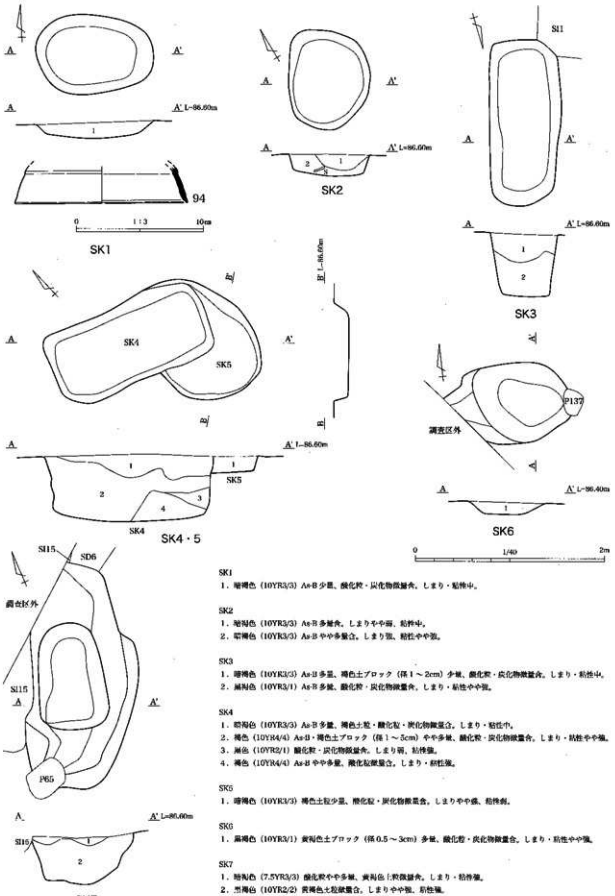


P67　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒少量、酸化粒微量含。しまり弱、粘性強。
P74　1．黒褐色（10YR3/1）酸化粒微量含。しまり・粘性弱。
P114　1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒微量含。しまりやや強、粘性中。
P120　1．黒褐色（10YR3/1）酸化粒少量、黄褐色土粒微量含。しまりやや強、粘性弱。
P131　1．黒褐色（10YR3/1）酸化粒少量、黄褐色土粒微量含。しまり・粘性やや強。

第35図　SB4

第3節　土坑（第36～38図　第3・10表　PL. 9）

土坑は、17基検出され、覆土中のAs-Bの有無で二大別される。As-Bが含まれる6基（SK1～4・8・12）はAs-B降下後、含まれない11基（SK5～7・9～11・13～17）はAs-B降下前に属す。出土した遺物は少量であり、6世紀末～7世紀初頭の様相を示す。図示した遺物はSK1から出土した須恵器の坏蓋(94)、SK10から出土した須恵器の壺（95）である。SK3・4は、主軸方向が90°近く異なるものの、形状・規模が非常に近似していることから同時期の可能性がある。As-B降下前に属す土坑のうち、SK7はSI15より古いが、その他は住居跡との重複がないため、これ以上詳細な年代を特定するのは困難である。



SK1

1．暗褐色（10YR3/3）As-B少量、酸化粒・炭化物微量含。しまり・粘性中。

SK2

1．暗褐色（10YR3/3）As-B多量含。しまりやや弱、粘性中。
2．暗褐色（10YR3/3）As-Bやや多量含。しまり強、粘性やや強。

SK3

1．暗褐色（10YR3/3）As-B多量、褐色土ブロック（径1～2cm）少量、酸化粒・炭化物微量含。しまり・粘性中。
2．黒褐色（10YR3/1）As-B多量、酸化粒・炭化物微量含。しまり・粘性やや強。

SK4

1．暗褐色（10YR3/3）As-B多量、褐色土粒・酸化粒・炭化物微量含。しまり・粘性中。
2．褐色（10YR4/4）As-B・褐色土ブロック（径1～5cm）やや多量、酸化粒・炭化物微量含。しまり・粘性やや強。
3．黒色（10YR2/1）酸化粒・炭化物微量含。しまり弱、粘性強。
4．褐色（10YR4/4）As-Bやや多量、酸化粒微量含。しまり・粘性強。

SK5

1．暗褐色（10YR3/3）褐色土粒少量、酸化粒・炭化物微量含。しまりやや強、粘性有。

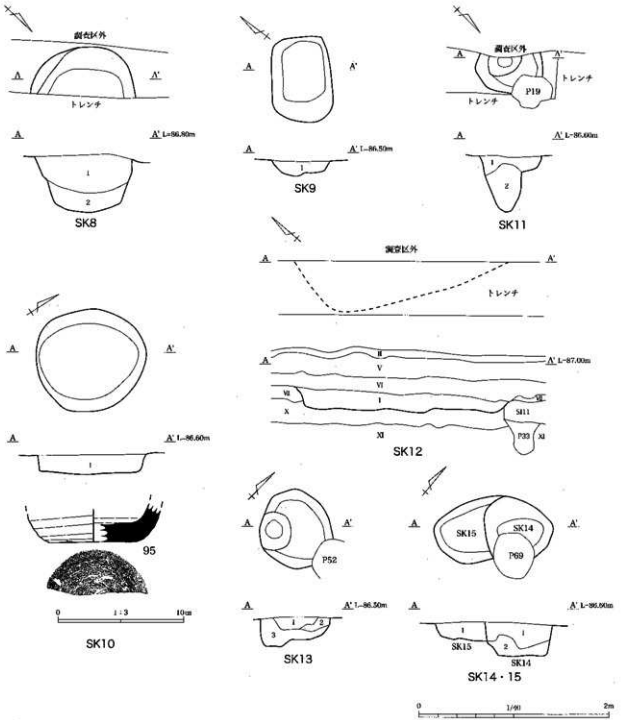
SK6

1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土ブロック（径0.5～3cm）多量、酸化粒・炭化物微量含。しまり・粘性やや強。

SK7

1．暗褐色（7.5YR3/3）酸化粒やや多量、黄褐色土粒微量含。しまり・粘性強。
2．黒褐色（10YR2/2）黄褐色土粒微量含。しまりやや強、粘性強。

第36図　SK1～7



SK8

1．暗褐色（10YR3/3）As-B多量含。しまり・粘性弱。

2．黒褐色（10YR3/2）As-B中や多量、酸化粒量含。しまりやや強、粘性弱。

SK9

1．灰黄褐色（10YR4/2）黄褐色土粒やや多量、小礫少量含。しまりやや強、粘性弱。

SK10

1．黒色（10YR2/1）上部酸化。にぶい黄褐色1粒少量含。しまりやや弱、粘性やや強。

SK11

1．暗褐色（10YR3/3）黄褐色土粒少量、酸化粒微量含。しまり中、粘性強。

2．黒色（10YR2/1）黄褐色ブロック（径0.5～1cm）やや多量、酸化粒微量含。しまり・粘性強。

SK12

1．暗褐色（10YR3/3）As-B多量、酸化粒・微1粒微量含。しまり中、粘性弱。

SK13

1．褐色（10YR4/4）白色粒微量含。しまり強、粘性中。

2．黒色（10YR2/1）炭化物非常に多量含。しまりやや強、粘性中。

3．黒褐色（10YR3/2）黄褐色土粒・砂粒・酸化粒微量含。しまりやや強、粘性強。

SK14

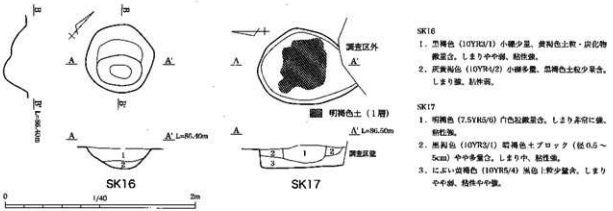
1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒・酸化粒微量含。

2．にぶい黄褐色（10YR5/4）黄褐色土粒・小礫多量含。しまり・粘性強。

SK15

1．黒褐色（10YR3/1）黄褐色土粒・酸化粒少量、炭化物微量含。しまり強、粘性やや強。

第37図　SK8～15

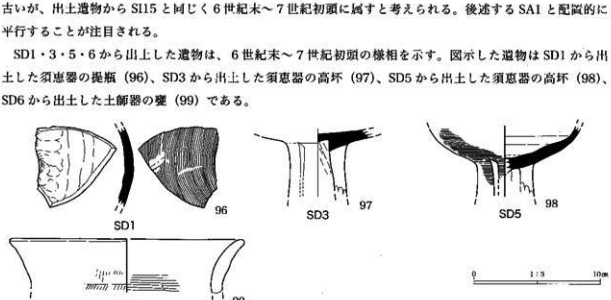


第38図　SK16・17

第4節　溝状遺構（第39～41図　第4・10・11表　PL. 9）

溝状遺構は、7条検出された。覆土にAs-Bが含まれる6条（SD1～5・7）は、As-B降下後に属す。SD1は北西から南東に調査区を縦断し、検出長54.78mを測る。底面は北西端部で標高86.16m、南東端部で86.17mであり、ほぼ平坦である。SD1は、延長上北西約100mに流れる粕沢川、南東約100mに流れる五貫堀川に繋がる可能性があり、取水または排水に利用されていたと推定される。他の溝状遺構は一部のみの検出であり、遺構の性格を把握することは難しい。覆土にAs-Bが含まれていないSD6は、SI15より古いが、出土遺物からSI15と同じく6世紀末～7世紀初頭に属すと考えられる。後述するSA1と配置的に平行することが注目される。

SD1・3・5・6から出土した遺物は、6世紀末～7世紀初頭の様相を示す。図示した遺物はSD1から出土した須恵器の提瓶（96）、SD3から出土した須恵器の高坏（97）、SD5から出土した須恵器の高坏（98）、SD6から出土した土師器の甕（99）である。

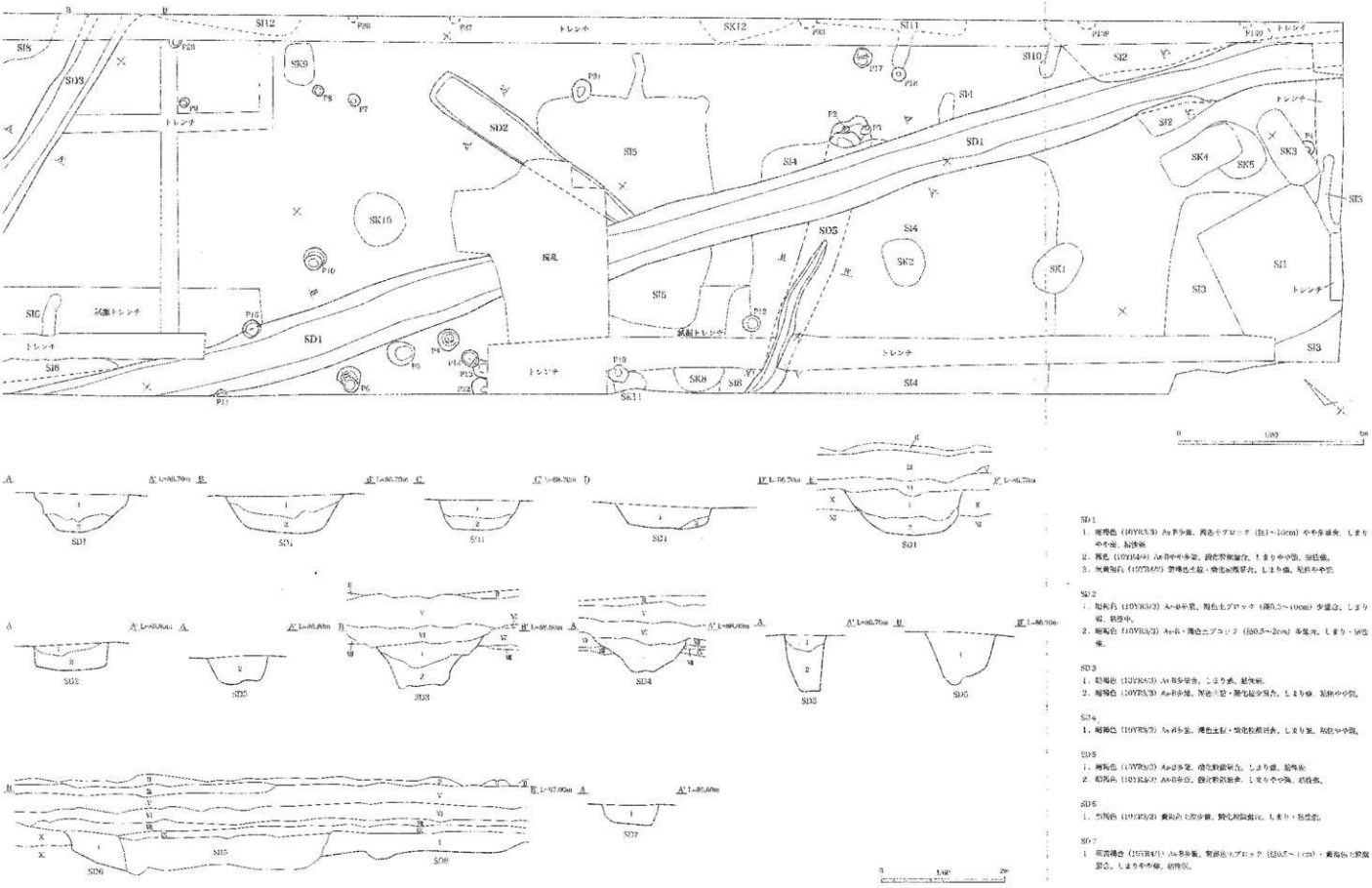


第39図　溝状遺構出土遺物

第5節　柵状遺構（第41・42図　第5・6・11表　PL. 9）

直線上に4基以上並ぶピットの列を、柵状遺構として報告する。柵状遺構は、5条検出された。遺構の検出は確認面を下げながら行っているため、中には削平されたピットがある可能性を考慮して、間隔が離れていても同一ライン上にピットが並ぶ場合は同遺構と判断している。個々のピットについては、第5・6表に形状・規模を記載した。

SA1は、7基のピット（P34・36・65・66・70・112・113）で構成される。検出長は11.00mを測り、



第40図 SD・P（1）

SD1

1. 暗褐色（10YR3/3）Au B多量、褐色土ブロック（径1～10cm）やや多混合、しまりやや強、粘性強
2. 褐色（10YR4/4）Au B中々多量、鉄化粒多混合、しまりやや強、粘性強。
3. 灰黄褐色（10YR4/2）黄褐色土粒・鉄化物多量含、しまり強、粘性やや弱

SD2

1. 暗褐色（10YR3/3）Au B多量、褐色土ブロック（径0.5～10cm）少量含、しまり弱、粘性中。
2. 暗褐色（10YR3/3）Au B・褐色土ブロック（径0.5～2cm）多量含、しまり・粘性強。

SD3

1. 暗褐色（10YR3/3）Au B多量含、しまり強、粘性強。
2. 暗褐色（10YR3/3）Au B多量、褐色土粒・鉄化粒少量含、しまり強、粘性やや弱。

SD4

1. 暗褐色（10YR3/3）Au B多量、褐色土粒・鉄化粒混合、しまり強、粘性やや弱。

SD5

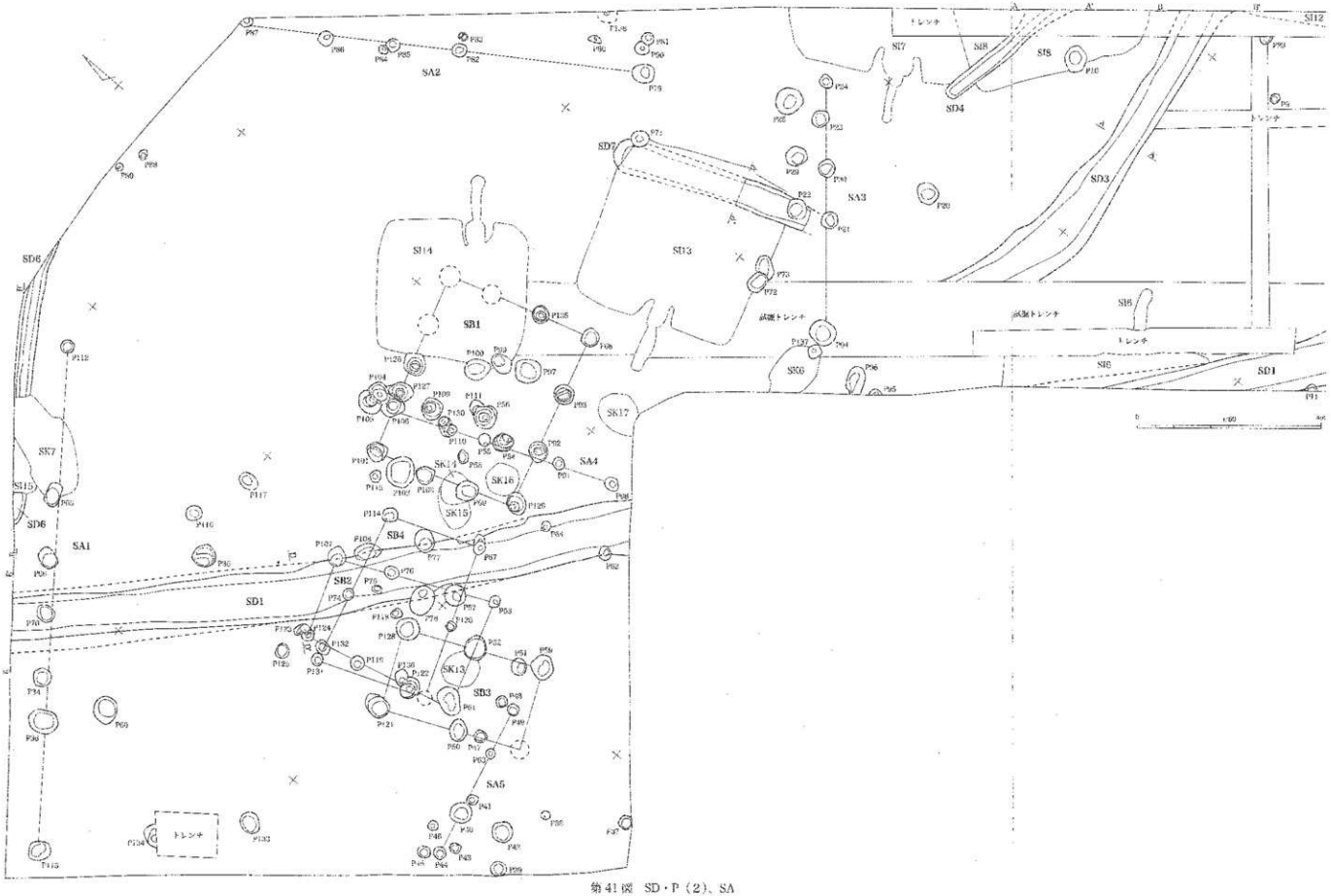
1. 暗褐色（10YR3/3）Au B多量、鉄化物多量含、しまり強、粘性強
2. 暗褐色（10YR3/3）Au B多量、褐炭粒多混合、しまりやや強、粘性強。

SD6

1. 黒褐色（10YR3/2）腐植物土粒少量、鉄化物微量含、しまり・粘性強。

SD7

1. 灰黄褐色（10YR4/1）Au B多量、黄褐色土ブロック（径0.5～1cm）・黄褐色土粒微量含、しまりやや強、粘性弱。


SA2
SA3
SA4
SA5
SA1
SD1
SD2
SD3
SD4
SD6
SD7
SB1
SB2
SB3
SB4
SK13
SK14
SK15
SK16
SK17
SK7
SH13
SH14
SH15
SH16
SH17
SH18
SH12
トレンチ
試掘トレンチ

第41図 SD・P（2）、SA

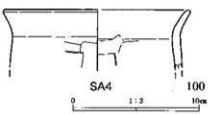
主軸はN-53°-Eを示す。両端のP112・113は隣のピットとそれぞれ3.00m程度離れているが、他のピットの間隔は0.90～1.40m程度である。遺物は、出土していない。

SA2は5基のピット（P79・82・85～87）で構成される。検出長は8.76mを測り、主軸はN-34°-Wを示す。南東端のP79は4.16m離れているが、他のピットの間隔は1.50～1.70m程度である。遺物は、出土していない。

SA3は5基のピット（P21・23・24・30・94）で構成される。検出長は5.48mを測り、主軸はN-49°-Eを示す。南西端のP94は2.50m離れているが、他のピットの間隔は0.80～1.00m程度である。P30は、断面に柱痕跡が確認できる。SA3に平行して並ぶ3基のピット（P22・25・29）も、柵状遺構の可能性がある。

SA4は6基のピット（P55・91・98・105・106・110）で構成される。検出長は5.55mを測り、主軸はN-21°-Wを示す。ピットの間隔は0.50～1.40m程度とばらつきがある。P105・106は、底面に柱痕跡が確認できる。遺物はP105から土師器が2点出土し、この内土師器の甕1点（100）を図示した。

SA5は4基のピット（P40・44・49・63）で構成される。検出長は3.50mを測り、主軸はN-76°-Eを示す。ピットの間隔は1.00～1.50m程度である。SA5に平行して並ぶ3基のピット（P47・48・51）も、柵状遺構の可能性がある。遺物は、出土していない。

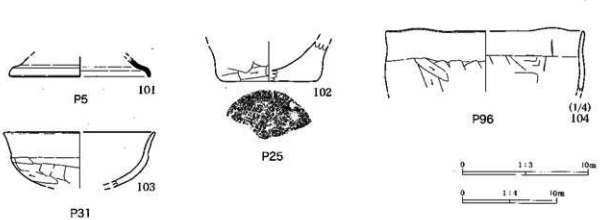


第42図　柵状遺構出土遺物

第6節　ピット（第40・41・43図　第5・6・11表　Pl.. 9）

調査段階でピットは、140基検出された。個別の形状・規模等は、第5・6表に記載してある。規模・配置・底面の標高等から検討した結果、59基を掘立柱建物（第2節）及び柵状遺構（第5節）として抽出することができた。残りの81基（P1～20・22・25～29・31～33・35・37～39・41～43・45～48・51・58・60・62・64・71～73・75・77・78・80・81・83・84・88～90・95・96・99・100・102・104・108・111・115～118・123・125・130・132～134・136～140）は、単独ピットとして報告する。

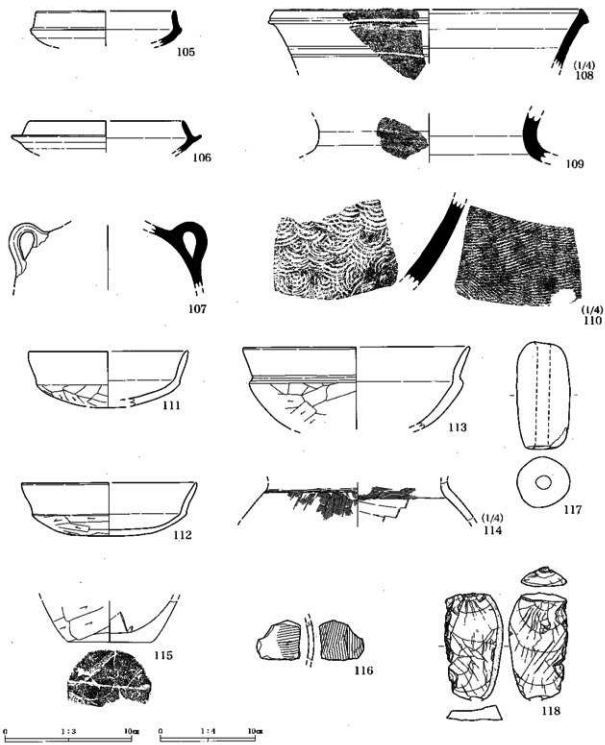
覆土にAs-Bが含まれているP138だけがAs-B降下後に属し、底面に柱痕跡が確認できる。その他のピット80基はAs-B降下前に属し、竪穴住居跡・竪穴状遺構が多く検出された南東部より、北西部に多く分布する。特に4棟の掘立柱建物が位置する16・17・22～24グリッドに集中する傾向がある。P104・123は、底面に柱痕跡が確認できるが掘立柱建物及び柵状遺構に抽出できなかった。出土した遺物は少量であり、6世紀末～7世紀初頭の様相を示す。図示した遺物はP5から出土した須恵器の高坏（101）、P25から出土した土師器の甕（102）、P31から出土した土師器の坏（103）、P96から出土した土師器の甑（104）である。



第43図　ピット出土遺物

第７節　遺構外出土遺物（第44図　第11表　PL. 9）

図示したのは須恵器の坏２点（105・106）、提瓶１点（107）、甕３点（108～110）、土師器の坏３点（111～113）、甕３点（114～116）、土錘１点（117）、石器のスクレイパー１点（118）である。105・108・109はⅠ～Ⅶ層（表土）から、他の遺物は遺構検出のため確認面をグリッドごとに下げた際にⅧ層中からⅩ層上位にかけて出土した遺物である。



第44図　遺構外出土遺物

第3表　土坑観察表

No.	グリッド	平面形状	断面形状	規模（m） 長軸	短軸	深さ	底面標高（m）	長軸方向	掲載遺物	掲載外出土遺物	重複関係・備考
1	4・5	楕円形	弧状	1.23	0.82	0.17	86.32	N-88°W	94	土師器小片7点	SI4より新しい。覆土にAs-Bを含む。
2	4	楕円形	台形状	1.04	0.86	0.23	86.34	N-36°E	—	土師器小片8点	SI4より新しい。覆土にAs-Bを含む。
3	2・3・5・6	長方形	台形状	1.75	0.75	0.66	85.87	N-15°E	—	土師器小片3点	SI1・P1より新しい。覆土にAs-Bを含む。
4	5	長方形	箱状	1.72	0.82	0.71	85.83	N-70°W	—	土師器小片7点	SK5より新しい。覆土にAs-Bを含む。
5	2・5	楕円形	台形状	1.49	1.07	0.17	86.34	N-10°W	—	土師器小片3点	SK4より古い。
6	18	楕円形	弧状	1.22以上	0.85	0.14	85.17	N-88°E	—	—	P137より古い。
7	27	楕円形	階段状	2.38	1.12以上	0.54	85.92	N-22°E	—	—	SI15・P65より古く、SD6より新しい。
8	7	推定円形	U字状	0.83以上	0.82以上	0.60	86.02	—	—	—	SI8より新しい。覆土にAs-Bを含む。
9	15	長方形	台形状	0.91	0.63	0.16	86.24	N-51°E	—	—	—
10	11	円形	台形状	1.16	1.07	0.21	86.25	—	95	土師器小破片4点	—
11	7	楕円形	箱状	0.66	0.48以上	0.60	85.82	N-43°W	—	土師器小破片1点	P19より古い。
12	8・9・12	不明	台形状	2.25	—	0.21	86.48	—	—	—	SI11・P33より新しい。覆土にAs-Bを含む。
13	16	円形	弧状	0.78以上	0.75	0.31	86.10	—	—	—	P52と重複、新旧関係は不明。
14	23	円形	台形状	0.72	0.65以上	0.36	86.10	—	—	—	P69より古く、SK15より新しい。
15	23	楕円形	弧状	0.88以上	0.65	0.20	86.27	N-35°E	—	—	SK14より古い。
16	23	円形	弧状	0.72	0.71	0.24	86.08	—	—	—	—
17	18・24	楕円形	台形状	0.95以上	0.80	0.23	86.15	N-5°W	—	—	—

第4表　溝状遺構観察表

No.	グリッド	断面形状	走行方向	規模（m） 検出長	幅	深さ	底面標高（m）	掲載遺物	掲載外出土遺物	重複関係・備考
1	3～11・13・14・17・21～23・26・27	台形状	北西－南東（N-55°-W）	54.78	0.88～1.33	0.32～0.48	86.16～86.21	96	須恵器小片2点、土師器小片83点	SI2・4・5・6、SD5、P11・15・57・62・64・67・70・74～76・107・108より新しい。
2	7・11	箱状	北－南（N-6°-W）	5.04	0.81	0.28	86.36	—	—	SI5より新しい。
3	13・14・19・20	台形状	東－西（N-82°-E）	7.67	0.68～1.14	0.30～0.54	86.18	97	須恵器小片1点	—
4	20	台形状	東－西（N-80°-W）	2.92	0.35～0.51	0.38	86.34	—	—	SI7・9より新しい。
5	4・7・8	V字状	北東－南西（N-68°-E）	6.45	0.52～0.79	0.60	86.00～86.07	98	須恵器小片1点、土師器小片21点	SD1より古く、SI4・8、P2・3より新しい。
6	27・30・31	階段状	北東－南西（N-56°-E）	6.29	0.41以上	0.44	86.16	99	土師器小片5点	SI15、SK7より古い。
7	19・24・25	台形状	北－南（N-22°-W）	4.46	0.65	0.21	86.26	—	—	SI13、P22・71より新しい。

第5表　ピット規模表（1）

（）は推定及び推定値

No.	グリッド	平面形状	断面形状	規模（m） 長軸	短軸	深さ	底面標高（m）	遺構名	特殊穴	掘戻遺物	掘戻外出土遺物	重複関係・備考
1	3	（円形）	V字状	0.32	0.16以上	0.18	86.18	—	—			SK3より古い。
2	8	円形	U字状	0.15	0.12	0.35以上	85.98	—	—	—	—	SD5より古い。
3	8	楕円形	U字状	0.25	0.18	0.52	85.94	—	—	—	—	SD5より古い。
4	10-11	円形	台形状	0.46	0.44	0.32	86.09	—	—	—	土師器小片2点	—
5	10	楕円形	U字状	0.59	0.52	0.42	85.97			101	土師器小片1点	—
6	10	楕円形	階段状	0.56	0.52	0.46	85.93	—	—	—	—	—
7	15	円形	半円状	0.28	0.24	0.14	86.28	—	—	—	—	—
8	15	円形	台形状	0.24	0.23	0.15	86.27	—	—			
9	15	円形	U字状	0.23	0.19	0.30	86.12	—	—	—	—	—
10	10	円形	階段状	0.49	0.47	0.51	85.95	—	—	—	—	—
11	10	（円形）	U字状	0.29	0.14以上	0.50	86.03	—	—	—	—	SD1より古い。
12	7	円形	台形状	0.39	0.35	0.25以上	85.89	—	—	—	—	S14・8より新しい。S8焼土遺構を時間確認。
13	7	（楕円形）	V字状	0.33以上	0.36	0.24	86.17	—	—	—	—	P14より古い。
14	7・10・11	円形	U字状	0.39	0.34	0.38	86.03	—	—	—	—	P13より新しい。
15	10	円形	台形状	0.39	0.35	0.22	86.21			—	—	SD1より古い。
16	20	楕円形	U字状	0.58	0.48	0.34	85.67	—	—	—	—	S19より新しい。
17	9	円形	階段状	0.43	0.40	0.27	86.17	—	—	—	土師器小片3点	—
18	9	円形	U字状	0.29	0.29	0.22	86.22					SH11より新しい。
19	7	（円形）	U字状	0.43	0.36	0.57	85.78	—	—	—	—	SK11より新しい。
20	19	円形	台形状	0.49	0.43	0.19	86.13	—	—	—	—	—
21	19	円形	平底	0.37	0.36	0.35	85.99	SA3				
22	19	円形	U字状	0.47	0.43	0.44	85.91	—	—	—	—	SD7より古い。
23	25	円形	U字状	0.40	0.35	0.39	85.97	SA3	—	—	—	—
24	25	円形	U字状	0.30	0.26	0.32	86.00	SA3				
25	25	円形	U字状	0.60	0.57	0.25	86.03	—	—	102	土師器小片1点	—
26	15	（円形）	U字状	0.19	—	0.44	86.12	—	—	—	—	—
27	15	（円形）	U字状	0.24	—	0.51	86.04					
28	15	（円形）	U字状	0.17以上	0.29	0.25	86.16	—	—	—	土師器小片2点	—
29	25	円形	台形状	0.47	0.42	0.31	86.07	—	—	—	—	—
30	19	円形	U字状	0.27	0.27	0.36	85.99	SA3	断面			
31	12	楕円形	台形状	0.51	0.41	0.66	85.91	—	—	103	—	SI5より古い。
32	7	（円形）	台形状	0.35以上	0.32以上	0.43	86.00	—	—	—	—	—
33	9	（円形）	箱状	0.38	—	0.35	86.05					SH11・SK12より古い。
34	26	円形	半円状	0.41	0.41	0.24	86.12	SA1	—	—	—	—
35	22	円形	階段状	0.51	0.47	0.24	86.20	—	—	—	—	—
36	21・26	楕円形	弧状	0.65	0.50	0.14	86.25	SA1				
37	16	円形	U字状	0.28	0.27	0.31	86.05	—	—	—	—	—
38	16	円形	V字状	0.22	0.20	0.20	86.11	—	—	—	—	—
39	16	円形	台形状	0.36	0.31	0.27	86.06					—
40	16	円形	台形状	0.49	0.44	0.20	86.14	SA5	—	—	—	—
41	16	円形	U字状	0.24	0.22	0.24	86.10	—	—	—	—	—
42	16	円形	台形状	0.45	0.45	0.23	86.06					—
43	16	円形	U字状	0.24	0.22	0.15	86.17	—	—	—	—	—
44	16	円形	U字状	0.28	0.27	0.26	86.06	SA5	—	—	—	—
45	16	円形	U字状	0.29	0.26	0.31	86.02				—	—
46	16	円形	半円状	0.22	0.22	0.11	86.24	—	—	—	—	—
47	16	円形	弧状	0.29	0.26	0.09	86.26	—	—	—	—	—
48	16	円形	U字状	0.26	0.24	0.12	86.22					—
49	16	円形	U字状	0.25	0.24	0.25	86.10	SA5	—	—	—	—
50	16	楕円形	台形状	0.49	0.38	0.24	86.12	SB3	—	—	—	—
51	16・17	円形	U字状	0.38	0.33	0.23	86.10				—	—
52	16・17	円形	U字状	0.55	0.47	0.36	85.96	SB3	—	—	—	SK13と重複。新旧関係は不明。
53	17	円形	V字状	0.28	0.25	0.15	86.18	SB2	—	—	—	—
54	23	円形	階段状	0.45	0.41	0.57	85.74	SB1関連	底面		土師器小片4点	—
55	23	円形	V字状	0.28	0.26	0.21	86.10	SA4	—	—	—	—
56	23	円形	階段状	0.53	0.52	0.56	85.78	SB1関連	施溝		—	P111より新しい。
57	17・23	円形	U字状	0.46	0.45	0.33	86.12	SB2	—	—	—	SD1より古い。
58	23	楕円形	台形状	0.31	0.22	0.20	86.09	—	—	—	—	—
59	17	円形	台形状	0.55	0.50	0.32	86.05	SB3	—	—	—	—
60	21	円形	台形状	0.60	0.50	0.15	86.28	—	—	—	—	—
61	16	楕円形	台形状	0.64	0.47	0.39	86.04	SB2	—	93	—	—
62	17	円形	U字状	0.31	0.27	0.42	86.02	—	—	—	—	SD1より古い。
63	16	円形	台形状	0.22	0.21	0.13	86.29	SA5	—	—	—	—
64	17	円形	U字状	0.23	0.20	0.17	86.08	—	—	—	—	SD1より古い。
65	27	楕円形	台形状	0.50	0.31	0.39	86.02	SA1	—	—	—	SK7より新しい。
66	27	楕円形	台形状	0.45	0.37	0.37	86.02	SA1	—	—	—	—
67	23	楕円形	階段状	0.45	0.25	0.34	86.02	SB4	—	—	—	SD1より古い。
68	24	円形	台形状	0.38	0.36	0.31	86.04	SB1	—	—	—	—
69	23	円形	U字状	0.51	0.43	0.39	85.94	SB1	—	—	—	SK14より新しい。
70	26	円形	台形状	0.42	0.34	0.18	86.01	SA1	—	—	—	SD1より古い。
71	25	円形	台形状	0.39	0.34	0.60	85.88	—	—	—	—	SD7より古く、S13より新しい。
72	18・19	楕円形	台形状	0.50	0.35	0.30	86.11			—	—	S13・P73より新しい。
73	18・19	楕円形	台形状	-0.52	0.38	0.42	86.09	—	—	—	—	P72より古く、S13より新しい。
74	22	円形	U字状	0.27	0.23	0.20	85.93	SB4	—	—	—	SD1より古い。

第6表　ピット観察表（2）

（）は推定及び推定値

No.	グリッド	平面形状	断面形状	規模（m） 長軸	短軸	深さ	底面標高（m）	遺物名	柱痕跡	掘戻跡	掘戻外出土遺物	重複関係・備考
75	22	円形	U字状	0.22	0.16	0.19	86.05	—	—	—	—	SD1より古い。
76	22	円形	平円状	0.32	0.27	0.14	86.08	SB2			—	SD1より古い。
77	23	楕円形	台形状	0.51	0.41	0.53	85.90	—	—	—	—	SD1より古い。
78	22-23	楕円形	V字状	0.64	0.50	0.48	86.00	—	—	—	—	SD1より古い。
79	25	円形	U字状	0.48	0.40	0.36	86.10	SA2	—	—		
80	29	楕円形	V字状	0.27	0.15	0.12	86.23	—	—	—	—	—
81	25	円形	台形状	0.26	0.20	0.37	86.03	—	—	—	—	P90より新しい。
82	29	円形	U字状	0.31	0.28	0.43	85.95	SA2	—	—	—	
83	29	円形	階段状	0.20	0.18	0.16	86.17				—	—
84	29	円形	V字状	0.22	0.19	0.20	86.14	—	—	—	—	—
85	29	円形	U字状	0.28	0.28	0.40	85.95	SA2	—	—	—	
86	29-32	円形	U字状	0.32	0.31	0.37	85.99	SA2				—
87	32	（円形）	U字状	0.20以上	0.21以上	0.45	86.19	SA2	—	—	—	—
88	31	円形	U字状	0.23	0.19	0.15	86.21	—	—	—	—	—
89	31	円形	台形状	0.17	0.17	0.21	86.16	—	—	—		—
90	25	円形	V字状	0.32	0.29	0.50	85.96				—	P81より古い。
91	17-23	円形	台形状	0.28	0.24	0.38	85.96	SA4	—	—		—
92	23	円形	階段状	0.46	0.40	0.70	85.64	SB1	遺・厨間	—		—
93	24	円形	階段状	0.43	0.43	0.50	85.85	SB1	底面		—	—
94	18-19	円形	弧状	0.58	0.49	0.09	86.16	SA3	—	—	—	—
95	18	（方形）	台形状	0.25以上	0.16以上	0.18	86.20	—	—	—	—	
96	18	楕円形	台形状	0.60以上	0.36	0.16	86.19			104		—
97	23-24	円形	台形状	0.54	0.51	0.42	85.85	SB1間遺	—	92	—	—
98	17	円形	台形状	0.34	0.28	0.42	85.96	SA4	—	—	—	
99	23-24	円形	台形状	0.48	0.37	0.54	85.87				—	SE14より古い。
100	23	楕円形	台形状	0.57	0.45	0.49	85.93	—	—	—	—	SE14より古い。
101	23	円形	階段状	0.43	0.43	0.48	85.90	SB1	底面	—	—	
102	23	円形	箱状	0.67	0.61	0.10	86.28				—	—
103	23	円形	箱状	0.41	0.39	0.43	85.94	SB1	—	—	—	—
104	23	楕円形	階段状	0.51	0.38	0.55	85.83	—	底面	—	—	P105・106・127より新しい。
105	23	楕円形	階段状	0.55	0.38以上	0.52	85.85	SA4	底面	100	上師器小片1点	P104より古く、106・127より新しい。
106	23	円形	U字状	0.55	0.49	0.54	85.82	SA4	底面	—	—	P104・105より古く、127より新しい。
107	22	円形	U字状	0.44	0.39	0.47	85.94	SB2	—	—	—	SD1より古い。
108	22-23	楕円形	弧状	0.58	0.32以上	0.11	86.30		—	—	—	SD1より古い。
109	23	円形	階段状	0.49	0.47	0.64	85.73	SB1間遺	底面	—	—	—
110	23	円形	U字状	0.29	0.24	0.24	86.11	SA4	—	—	—	P130より新しい。
111	23	（円形）	台形状	0.26以上	0.31	0.27	86.19	—	—	—	—	P56より古い。
112	27	円形	台形状	0.30	0.29	0.11	86.29	SA1	—	—		—
113	21	円形	U字状	0.50	0.44	0.47	85.89	SA1	—	—	—	
114	23	円形	U字状	0.32	0.30	0.17	86.23	SB4	—	—		—
115	23	円形	U字状	0.27	0.25	0.25	86.17	—	—	—	—	—
116	27	円形	平円状	0.36	0.34	0.16	86.23	—	—	—	—	
117	22-27	楕円形	弧状	0.44	0.33	0.09	86.32	—	—	—	—	—
118	22	円形	U字状	0.24	0.21	0.50	85.86	—	—	—	—	
119	22	円形	U字状	0.31	0.29	0.34	86.02	SB2	—	—	—	
120	16	円形	U字状	0.21	0.20	0.29	86.05	SB4	—	—		—
121	16	楕円形	台形状	0.58	0.41	0.37	85.99	SB3	—	—	—	—
122	16	円形	階段状	0.48	0.41	0.61	85.77	SB2	底面	—	—	P136より新しい。
123	22	楕円形	階段状	0.36	0.20	0.26	86.13	—	底面	—	—	P124より新しい。
124	22	円形	階段状	0.29	0.18以上	0.28	86.10	SB2	底面	—	—	P123より古い。
125	22	円形	箱状	0.32	0.30	0.49	85.91	—	—	—	—	—
126	23	円形	階段状	0.47	0.46	0.48	85.89	SB1間遺	底面	—	上師器小片3点	SE14より古い。
127	23	楕円形	階段状	0.55	0.43	0.53	85.81	SB1	底面	—	—	P104・105・106より古い。
128	22	円形	箱状	0.50	0.48	0.46	85.90	SB3	—			—
129	17-23	円形	階段状	0.50	0.40	0.55	85.79	SB1	底面	—	—	—
130	23	楕円形	階段状	0.46	0.29	0.33	86.03	—	—	—	—	P110より古い。
131	22	円形	U字状	0.28	0.26	0.29	86.10	SB4				—
132	22	円形	台形状	0.34	0.27	0.21	86.17	—	—	—	—	—
133	16-21	円形	箱状	0.49	0.41	0.40	85.86	—	—	—	—	—
134	21	（円形）	U字状	0.29以上	0.48以上	0.42	85.72					—
135	24	円形	階段状	0.38	0.37	0.40	85.88	SB1	底面	—	—	—
136	16	（円形）	U字状	0.32以上	0.28	0.39	85.97	—	—	—	—	P122より古い。
137	18	円形	V字状	0.28	0.27	0.16	86.00					SK5より新しい。
138	29	（円形）	階段状	0.25以上	0.43	0.52	86.33	—	底面	—	—	黒ボクAを含む。
139	5	—	台形状	0.40	—	0.26	86.10	—	—	—	—	SE2より古い。
140	6	—	U字状	0.27	—	0.21	86.05					SE2より古い。

第７表　山土遺物観察表（１）

（）は推定及び残存値

No.	器別 器種	遺構	出土位置	法量（cm・g） 残存 色調／焼成	胎土	特徴・調整・文様等
1	土師器 坏	SI1	覆土	口：(11.8)　高：2.9　底：9.8　最大径：— 口縁部～底部1/3残 橙色／やや良好	長石 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
2	須恵器 坏蓋	SI3	覆土	口：—　高：(3.5)　底：　最大径： 天井部～体部1/3残 灰色／良好	長石 黒色粒 砂粒	ロクロ成形、天井部回転ヘラケズリ（右）。
3	須恵器 坏身	SI3	覆土	口：(11.8)　高：(2.6)　底：—　最大径：— 口縁部～底部破片 灰色／良好	長石 黒色粒 砂粒	ロクロ成形。底部回転ヘラケズリ。 外面底部自然釉付着。
4	須恵器 坏身	SI3	覆土	口：(14.0)　高：(1.8)　底：—　最大径：— 口縁部破片 灰色／良好	長石 石英 砂粒	ロクロ成形。
5	土師器 坏	SI3	覆土下層	口：14.7　高：4.6　底：—　最大径：— 歪完形 橙色／やや良好	長石 赤色 砂粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
6	土師器 坏	SI3	覆土	口：(12.4)　高：4.4　底：—　最大径：— 口縁部～底部1/3残 にぶい褐色／良好	長石 石英 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。 外面煤付着。
7	土師器 坏	SI3	覆土下層	口：14.4　高：5.3　底：—　最大径：— 口縁部～底部1/2残 橙色／良好	長石 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
8	土師器 坏	SI3	覆土下層	口：(12.6)　高：(3.6)　底：—　最大径：— 口縁部～底部1/4残 橙色／やや良好	長石 赤色粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
9	土師器 坏	SI3	覆土下層	口：(12.5)　高：(3.7)　底：—　最大径：— 口縁部～底部1/3残 にぶい黄橙色／良好	長石 雲母 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
10	土師器 坏	SI3	床面	口：(12.7)　高：4.2　底：—　最大径：— 口縁部～底部1/3残 橙色／不良	長石 赤色粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
11	土師器 坏	SI3	覆土下層	口：(12.3)　高：(3.7)　底：—　最大径：— 口縁部～体部破片 橙色／やや良好	長石 赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。
12	土師器 坏	SI3	カマド前方	口：(13.0)　高：(3.9)　底：—　最大径：— 口縁部～底部1/5残 橙色／不良	長石 赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。
13	土師器 甕	SI3	覆土	口：(18.2)　高：(5.1)　底：—　最大径：— 口縁部～胴部上端破片 橙色／やや良好	長石 赤色粒 雲母 結晶片岩 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。
14	土師器 甕	SI3	覆土	口：(17.4)　高：(3.6)　底：—　最大径：— 口縁部破片 外面赤褐色、内面褐色／やや良好	長石 雲母 角閃石 小礫 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。 内：口縁部ヨコナデ。
15	鉄製品 鞭	SI3	覆土	長：(4.5)　幅：0.7　厚：0.6　重：(5.8) 先端部		推定筋状束の芯。
16	須恵器 坏蓋	SI4	掘り方	口：　高：(1.4)　底：—　最大径：— 天井部破片 灰色／良好	長石 砂粒	ロクロ成形、天井部回転ヘラケズリ（右）。
17	須恵器 坏身	SI4	カマド焚道	口：(10.9)　高：(2.7)　底：—　最大径：— 口縁部～体部破片 灰色／良好	長石 石英 砂粒	ロクロ成形、底部回転ヘラケズリ。
18	須恵器 高坏	SI4	掘り方	口：　高：(5.2)　底：　最大径：— 脚部破片 黄灰色／良好	長石 砂粒	ロクロ成形、カキメ。内面絞り痕有。 脚部2方に逆孔残存（推定3方）。
19	須恵器 甕	SI4	覆土下層	口：(21.4)　高：(8.0)　底：　最大径：— 口縁部1/3残 外面黄灰色、内面にぶい橙色／不良	長石 雲母 砂粒	ロクロ成形。 口唇部沈線1条、櫛描状1具による刺突文。
20	須恵器 甕	SI4	覆土	口：(20.0)　高：(4.6)　底：　最大径：— 口縁部破片 灰白色／やや良好	長石 雲母 角閃石 黒色粒 砂粒	ロクロ成形。口縁部沈線2条、櫛描波状文。
21	須恵器 甕	SI4	カマド焚道 掘り方	口：—　高：(3.6)　底：—　最大径：— 口縁部破片 灰白色／やや良好	長石 角閃石 砂粒	ロクロ成形。口縁部カキメ後、櫛描波状文。
22	土師器 坏	SI4	覆土	口：(11.8)　高：(3.3)　底：—　最大径：— 口縁部～底部1/3残 橙色／やや良好	赤色粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
23	土師器 坏	SI4	床面	口：(11.8)　高：(4.2)　底：—　最大径：— 口縁部～底部1/3残 外面橙色、内面にぶい黄褐色／やや良好	長石 石英 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
24	土師器 坏	SI4	カマド崩落上 袖内	口：(12.0)　高：4.5　底：—　最大径： 口縁部～底部3/4残 橙色／やや良好	長石 赤色粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。

第8表　出土遺物観察表（2）

（）は推定及び残存値

No.	種別 器種	遺構	出土位置	法量（cm・g） 残存 色調／胎成	胎土	特徴・調整・文様等
25	土師器 坏	SI4	袖内	口：(12.4) 高：4.4　底：—　最大径：— 口縁部～胴部1/3残 橙色／やや良好	長石 赤色粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
26	土師器 坏	SI4	掘り方 南壁トレンチ	口：(11.8) 高：(3.5) 底：—　最大径：— 口縁部～底部1/3残 にぶい橙色／良好	長石 赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
27	土師器 坏	SI4	覆土	口：(13.0) 高：(4.3) 底：(8.2) 最大径：— 口縁部～体部破片 にぶい黄橙色／やや良好	長石 赤色粒 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内面煤付着。
28	土師器 甕	SI4	覆土	口：—　高：(7.6) 底：(8.9) 最大径：— 胴部～底部破片 橙色／やや良好	長石 赤色粒 雲母 砂粒	外：胴部ヘラケズリ。 内：胴部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ。 底部全孔。
29	土師器 甕	SI4	床面	口：(11.8) 高：(8.3) 底：　最大径：— 口縁部～胴部破片 明赤褐色／やや良好	長石 雲母 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
30	土師器 甕	SI4	覆土	口：(14.0) 高：(3.8) 底：　最大径：— 口縁部～胴部破片 橙色／やや良好	赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。
31	土師器 甕	SI4	床面 覆土	口：(20.4) 高：(10.6) 底：—　最大径：— 口縁部～胴部 橙色／やや良好	長石 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部指ナデ。
32	土師器 甕	SI4	袖内	口：(20.2) 高：(5.1) 底：—　最大径：— 口縁部破片 橙色／良好	長石 雲母 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。 外面煤薄有。
33	土師器 甕	SI4	カマド内 床面 覆土	口：22.8　高：(30.7) 底：4.7　最大径：— 口縁部～底部1/3残 橙色／やや良好	長石 チャート 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。
34	土師器 甕	SI4	覆土下層	口：(16.0) 高：(6.3) 底：—　最大径：— 口縁部～胴部破片 外面黒色、内面橙色／やや良好	赤色粒 雲母 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
35	土師器 甕	SI4	床面 覆土 SI5覆土	口：—　高：(27.3) 底：—　最大径：— 胴部1/4残 橙色／やや良好	長石 チャート 結晶片岩 砂粒	外：胴部ヘラケズリ。 内：胴部ヘラナデ。
36	土師器 甕	SI4	袖内	口：—　高：(24.1) 底：—　最大径：— 胴部1/2残 橙色／やや良好	長石 角閃石 チャート 砂粒	外：胴部ヘラケズリ。 内：胴部ヘラナデ。
37	土師器 甕	SI4	掘り方 覆土	口：—　高：(4.9) 底：(5.0) 最大径：— 胴部下位～底部破片 外面にぶい橙色、内面明赤褐色／良好	長石 赤色粒 砂粒	外：胴部ヘラケズリ。底部不明瞭。 内：胴部～底部ヘラナデ。 摩滅。
38	土師器 甕	SI4	覆土	口：—　高：(7.1) 底：—　最大径：— 胴部下位～底部破片 外面黒褐色、内面にぶい褐色／やや良好	長石 石英 雲母 砂粒	外：胴部～底部ヘラケズリ。 内：胴部～底部ヘラナデ。 外面煤薄有。
39	土師器 甕	SI4	覆土	口：—　高：(5.1) 底：—　最大径：— 胴部破片 橙色／やや良好	赤色粒 角閃石 砂粒	外：胴部ヘケズ。 内：胴部ヘラナデ。
40	須恵器 坏蓋	SI5	覆土	口：(11.6) 高：(3.7) 底：　最大径：— 口縁部～体部破片 灰色／良好	黒色粒 白色粒	ロクロ成形。
41	須恵器 坏蓋	SI5	覆土	口：—　高：(2.9) 底：　最大径：— 体部～天井部破片 灰色／良好	長石 黒色粒 白色粒	ロクロ成形。天井部回転ヘラケズリ。
42	須恵器 坏身	SI5	覆土	口：—　高：(2.1) 底：　最大径：— 体部破片 灰色／良好	長石 砂粒	ロクロ成形。
43	須恵器 甕	SI5	SI5内覆土	口：(16.7) 高：(4.0) 底：—　最大径：— 口縁部破片 灰色／良好	長石 砂粒	ロクロ成形。口唇部・口縁端部波状文。
44	須恵器 甕	SI5	覆土 8グリッド	口：—　高：(5.4) 底：—　最大径：— 口縁部破片 灰黄色／やや良好	長石 黒色粒 砂粒	ロクロ成形。櫛描波状文（2段）。
45	土師器 坏	SI5	カマド横	口：(12.3　高：3.7　底：—　最大径：— 完形 外面橙色、内面明赤褐色／不良	赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。 内外面摩滅。
46	土師器 坏	SI5	覆土	口：10.6　高：4.0　底：—　最大径：— 口縁完形 橙色／不良	長石 赤色粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。 内外面摩滅。
47	土師器 坏	SI5	覆土	口：(11.8) 高：(3.9) 底：—　最大径：— 口縁部～底部破片 橙色／やや良好	赤色粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
48	土師器 坏	SI5	SI5内覆土	口：(14.0) 高：(4.3) 底：—　最大径：— 口縁部～底部破片 外面橙色、内面黒色／良好	石英 赤色粒 雲母 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ。体部～底部摩滅。 内：口縁部～底部ヘラミガキ。 外面口縁部～内面黒色処理。

第９表　出土遺物観察表（３）

（）は推定及び残存値

No.	器別 部位	遺構	出土位置	法量（cm・g） 残存 色調／焼成	胎土	特徴・調整・文様等
49	土師器 甕	SI5	カマド内 カマド横	口：(20.6) 高：37.9 底：7.4 最大径：— 口縁部～底部1/2残 灰黄褐色／やや良好	長石 チャート 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。
50	土師器 甕	SI5	袖内 袖内	口：(20.7) 高：(25.0) 底：— 最大径：— 口縁部～胴部1/2残 外面赤褐色、内面明赤褐色／やや良好	長石 チャート 雲母 結晶片岩 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。 外面煤減。
51	土師器 坩	SI5	袖上 袖内	口：— 高：(11.6) 底：(5.0) 最大径：— 胴下位～底部 赤褐色／やや良好	長石 チャート 角閃石 砂粒	外：胴部ヘラケズリ。底部未調整。 内：胴部ヘラナデ。胴下端部圧痕。底部ナデ。
52	土師器 坩	SI5	袖内	口：— 高：(25.0) 底：— 最大径：— 胴部1/2残 にぶい黄褐色／やや良好	長石 石英 赤色粒 チャート 砂粒	外：胴部ヘラケズリ。 内：胴部ヘラナデ。
53	土師器 甕	SI5	カマド内	口：— 高：(5.3) 底：— 最大径：— 胴部破片 橙色／良好	長石 赤色粒 砂粒	外：胴部ハケ。 内：胴部ヘラナデ。
54	土師器 坏	SI6	覆土 カマド内	口：11.7 高：4.3 底：— 最大径：— 口縁部～底部1/2残 にぶい褐色／良好	石英 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。 外面煤付着。
55	土師器 坏	SI6	覆土下層	口：(11.8) 高：(4.1) 底：— 最大径： 口縁部～体部破片 外面にぶい赤褐色、内面にぶい橙色／良好	長石 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。
56	土師器 坏	SI6	覆土下層	口：(10.9) 高：(3.4) 底：— 最大径： 口縁部～体部破片 橙色／不良	長石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。
57	土師器 高坏	SI6	覆土下層	口：(17.4) 高：(4.2) 底：— 最大径： 坏部破片 橙色／不良	長石 赤色粒 雲母 砂粒	内外面摩滅のため調整不明瞭。
58	土師器 甕	SI6	覆土下層	口：(18.2) 高：(5.0) 底：— 最大径： 口縁部～胴部上端破片 橙色／良好	長石 雲母 結晶片岩 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口縁部～胴部ナデ。
59	土師器 甕	SI6	カマド内 カマド横	口：— 高：(25.0) 底：7.8 最大径： 胴部～底部1/6残 外面赤褐色、内面にぶい赤褐色／やや良好	長石 チャート 角閃石 結晶片岩 砂粒	外：胴部ヘラケズリ。 内：胴部ヘラナデ。ナデ。
60	土師器 甕	SI6	カマド開口内	口：— 高：(5.2) 底：— 最大径： 胴部破片 にぶい橙色／良好	長石 雲母 結晶片岩 礫	外：胴部ナデ。 内：胴部ナデ。
61	土師器 甕	SI6	覆土下層	口：— 高：(3.7) 底：— 最大径： 胴部破片 橙色／良好	石英 赤色粒 角閃石 砂粒	外：胴部ハケ。 内：胴部ハケ後ヘラナデ。
62	土師器 甕	SI6	覆土下層 覆土	口：— 高：(4.1) 底：2.3 最大径： 胴部下位～底部1/2残 外面灰黄褐色、内面橙色／良好	長石 雲母 結晶片岩 砂粒	外：胴部ヘラケズリ。 内：胴部ナデ。 底部方形。
63	土製品 土鈴	SI6	カマド掘り方	長：(8.6) 径：3.8 最穴径：1.1 2/3残 黄灰色／良好	角閃石 白色粒 砂粒	手捏ね成形。
64	土師器 坏	SI7	覆土	口：(12.0) 高：(3.8) 底：— 最大径： 口縁部～体部破片 橙色／不良	長石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。
65	土師器 坏	SI7	覆土	口：(10.0) 高：(2.3) 底：— 最大径： 口縁部～体部破片 橙色／不良	赤色粒 雲母 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。
66	土師器 甕	SI7	覆土	口：(18.0) 高：(3.8) 底：— 最大径： 口縁部～胴部上端破片 外面にぶい褐色、内面にぶい赤褐色／良好	長石 赤色粒 雲母 角閃石 砂粒	外：口縁部～胴部ヨコナデ。 内：口縁部～胴部ヨコナデ。
67	土師器 甕	SI7	覆土	口：— 高：(3.0) 底：— 最大径：— 胴部破片 外面明赤褐色、内面橙色／良好	長石 赤色粒 角閃石 砂粒	外：胴部ハケ。 内：胴部ハケ。
68	須恵器 坏蓋	SI8	床面 掘り方	口：(11.2) 高：(4.2) 底：— 最大径： 口縁部～底部破片 外面黄灰色、内面灰色／良好	長石 黒色粒 白色粒 砂粒	ロクロ成形。底部回転ヘラケズリ。 外胴自然釉付着。
69	土師器 坏	SI8	覆土	口：(11.5) 高：(3.0) 底：— 最大径：— 口縁部～体部1/5残 橙色／不良	赤色粒 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。
70	土師器 甕	SI8	床面	口：— 高：(9.1) 底：— 最大径：— 胴部1/3残 外面橙色、内面明赤褐色／良好	長石 チャート 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。 底部輪成後穿孔。外面黒斑有。
71	土師器 甕	SI8	覆土	口：(21.6) 高：(6.7) 底：— 最大径：— 口縁部～胴部破片 橙色／良好	長石 赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。
72	土師器 甕	SI8	床面	口：18.2 高：(23.4) 底：— 最大径：— 口縁部～胴部1/3残 橙色／やや良好	長石 赤色粒 雲母 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ後ヘラナデ。 内：口縁部ハケメ後ヨコナデ。胴部ヘラナデ。

第10表　出土遺物観察表（4）

（）は推定及び残存値

No.	種別 器種	遺構	出土位置	法量（cm・g） 残存 色調／焼成	胎土	特徴・調整・文様等
73	土師器 坏	S19	炉面 埋土	口:12.5　高:4.0　底:—　最大径:— 口縁部～底部1/2残 橙色／不良	長石 赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ，底部ナデ。
74	土師器 甕	S110	カマド煙道	口:（23.3）高:（29.3）底:—　最大径:— 口縁部～胴部1/4残 にぶい橙色／良好	長石 赤色粒 チャート 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。 外面黒斑有。
75	土師器 坏	S111	カマド煙道	口:（12.0）高:（3.5）底:—　最大径:— 口縁部～体部破片 外面橙色，内面にぶい橙色／不良	赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ，体部ナデ。 内面摩滅。
76	須恵器 坏蓋	S113	覆土	口:（14.6）高:（3.6）底:—　最大径:— 口縁部～体部破片 外面褐灰色，内面灰色／良好	長石 砂粒	ロクロ成形。
77	須恵器 坏身	S113	覆土	口:（13.0）高:（2.6）底:—　最大径:— 口縁部～体部破片 灰白色／不良	長石 砂粒	ロクロ成形，底部回転ヘラケズリ。
78	土師器 坏	S113	覆上	口:（12.0）高:（3.7）底:—　最大径:— 口縁部～体部破片 外面にぶい黄橙色，内面にぶい橙色／良好	赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ，体部ナデ。
79	土師器 坏	S113	覆上	口:（12.7）高:（4.8）底:—　最大径:— 口縁部～底部1/8残 赤灰色／良好	長石 赤色粒 雲母 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ，底部ナデ。
80	土師器 坏	S113	床面	口:（11.9）高:4.2　底:—　最大径:— 口縁部～底部1/4残 橙色／不良	長石 赤色粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ，底部ナデ。
81	土師器 甕	S113	覆上	口:（19.7）高:（3.7）底:—　最大径:— 口縁部破片 橙色／不良	長石 チャート 角閃石 結晶片岩 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。 内：口縁部ヨコナデ。
82	土師器 坏	S114	覆上	口:（12.0）高:（3.7）底:—　最大径:— 口縁部～体部1/7残 明黄褐色／やや良好	長石 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ナデ。
83	土師器 坏	S114	覆上	口:（11.1）高:（3.6）底:—　最大径:— 口縁部～体部1/5残 橙色／不良	長石 赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ，体部ナデ。
84	土師器 坏	S114	カマド横	口:（12.4）高:（3.7）底:—　最大径:— 口縁部～体部1/5残 にぶい黄橙色／良好	長石 雲母	外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ナデ。下具痕有。
85	土師器 坏	S114	覆上	口:（12.0）高:（4.2）底:—　最大径:— 口縁部～底部破片 にぶい橙色／不良	黒色粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ，底部ナデ。
86	土師器 坏	S114	覆上	口:（11.4）高:（3.6）底:—　最大径:— 口縁部～体部1/8残 橙色／やや良好	長石 褐色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。
87	土師器 坏	S114	覆上	口:（26.0）高:（9.2）底:—　最大径:— 口縁部～体部破片 橙色／良好	長石 赤色粒 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ， 体部ヘラケズリ後ミガキ状のナデ。 内：口縁部ヨコナデ，体部ナデ。
88	土師器 甕	S114	覆上	口:13.1　高:（6.5）底:—　最大径:— 口縁部～胴部上位1/5残 にぶい黄橙色／良好	長石 角閃石 黒色粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。
89	土師器 甕	S114	覆上	口:（17.8）高:（5.9）底:—　最大径:— 口縁部～胴部破片 外面明黄褐色，内面にぶい橙色／やや良好	長石 チャート 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ，胴部ナデ。
90	土師器 甕	S114	覆上	口:（19.6）高:（4.8）底:—　最大径:— 口縁部～胴部上端破片 橙色／良好	長石 赤色粒 砂粒	外：口縁部ハケメ後ヨコナデ，胴部ハケメ。 内：口縁部ハケメ後ヨコナデ，胴部ヘラナデ。
91	土師器 甕	S115	覆上	口:—　高:（10.1）底:—　最大径:— 胴部破片 外面にぶい橙色，内面橙色／やや良好	赤色粒 黒色粒 雲母 砂粒	外：胴部ハケメ，ヘラケズリ。 内：胴部ハケメ。
92	土師器 坏	SB1	P97覆土	口:（12.8）高:（3.3）底:—　最大径:— 口縁部～体部1/4残 橙色／不良	雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ，体部ナデ。
93	土師器 坏	SB2	P61覆土	口:（12.2）高:（3.2）底:—　最大径:— 口縁部～体部破片 橙色／やや良好	長石 赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。
94	須恵器 坏蓋	SK1	覆土	口:（13.5）高:（3.0）底:—　最大径:— 口縁部～体部破片 灰色／良好	長石 黒色粒 砂粒	ロクロ成形。
95	須恵器 壺	SK10	覆土	口:—　高:（3.0）底:（7.0）最大径:— 底部1/2残 灰色／良好	長石 黒色粒 砂粒	ロクロ成形。底部回転ヘラケズリ（右）。
96	須恵器 提瓶	SD1	覆上	口:—　高:（5.2）底:—　最大径:— 体部破片 灰色／良好	長石 砂粒	ロクロ成形。外面カキメ，内面絞り痕有。

第11表　出土遺物観察表（5）

（）は推定及び残存値

№	種別 器種	遺構	川土位置	法量（cm・g） 残存 色調／焼成	胎土	特徴・技術・文様等
97	須恵器 高坏	SD3	覆土	口：— 高：(5.4) 底：— 最大径：— 脚部破片 灰色／やや良好	長石 砂粒	ロクロ成形。坏部ナデ。脚部ナデ。 脚部力に歪む。
98	須恵器 高坏	SD5	覆土	口：— 高：(5.5) 底：— 最大径：— 坏部～脚部上位破片 灰色／良好	白色粒 砂粒	ロクロ成形。カキメ。 脚部1方に歪み残存。
99	土師器 甕	SD6	覆土	口：(18.1) 高：(4.2) 底：— 最大径：— 口縁部～胴部上端破片 にぶい黄橙色／やや良好	長石 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。
100	土師器 甕	SA4	P105覆土	口：(14.5) 高：(4.6) 底：— 最大径：— 口縁部～胴部上位破片 にぶい赤褐色／良好	雲母 角閃石 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
101	須恵器 高坏	P5	覆土	口：— 高：(1.6) 底：(11.0) 最大径：— 脚部破片 灰色／良好	長石 黒色粒 砂粒	ロクロ成形。
102	土師器 壺	P25	覆土	口：— 高：(7.4) 底：(3.1) 最大径： 胴部下位～底部破片 外面にぶい橙色、内面灰黄色／やや良好	長石 チャート 結晶片岩 砂粒	外：胴部～底部ヘラケズリ。底部一部布目痕有。 内：胴部～底部ナデ。
103	土師器 坏	P31	覆土	口：(11.8) 高：(4.4) 底：　最大径： 口縁部～底部破片 橙色／やや良好	長石 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
104	土師器 甕	P96	覆土	口：(10.8) 高：(6.8) 底：　最大径：— 口縁部～胴部上位破片 外面明黄褐色、内面にぶい橙色／やや良好	長石 赤色粒 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：口縁部ヨコナデ、ヘラナデ。胴部ヘラナデ。
105	須恵器 坏身		Ⅰ～Ⅶ層 （表土）	口：(10.0) 高：(2.5) 底：　最大径：— 口縁部～体部破片 灰白色／不良	砂粒	ロクロ成形。
106	須恵器 坏身		4グリッド Ⅷ～Ⅸ層	口：(12.0) 高：(2.5) 底：　最大径：— 口縁部～体部破片 灰色／良好	石英 白色粒 砂粒	ロクロ成形。
107	須恵器 提瓶		8グリッド Ⅷ～Ⅸ層	口：— 高：(5.0) 底：　最大径：— 耳部（現状） 灰色／良好	白色粒 砂粒	ロクロ成形。外面カキメ。
108	須恵器 壺		Ⅰ～Ⅶ層 （表土）	口：(32.1) 高：(6.3) 底：　最大径： 口縁部破片 灰白色／やや良好	長石 黒色粒 砂粒	ロクロ成形。口均部洗練1条カキメ。 口部部像痕文後洗練2条。
109	須恵器 壺		Ⅰ～Ⅶ層 （表土）	口：— 高：(3.8) 底：　最大径：— 口縁部～頸部破片 灰色／良好	長石 白色粒 砂粒	ロクロ成形。口縁部櫛描波状文。
110	須恵器 壺		11グリッド Ⅷ～Ⅸ層	口：— 高：(6.2) 底：— 最大径： 胴部破片 灰白色／やや良好	長石 砂粒	外：平行タタキ。 内：同心円状当具痕。
111	土師器 坏		18グリッド Ⅷ～Ⅸ層	口：(12.5) 高：(4.4) 底：　最大径： 口縁部～底部1/4残 外面灰黄褐色、内面にぶい黄橙色／やや良好	石英 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
112	土師器 坏		南壁トレンチ Ⅷ～Ⅸ層	口：(13.8) 高：4.5 底：— 最大径： 口縁部～底部1/3残 橙色／やや良好	長石 雲母 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。
113	土師器 坏		8グリッド Ⅷ～Ⅸ層	口：(17.8) 高：(5.5) 底：— 最大径： 口縁部～体部1/4残 橙色／やや良好	長石 白色粒 砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。
114	土師器 壺		12グリッド Ⅷ～Ⅸ層	口：— 高：(4.2) 底：— 最大径： 胴部～胴部上位破片　外面にぶい褐色 内面にぶい赤褐色／やや良好	石英 雲母 角閃石 砂粒	外：胴部ヨコナデ。胴部ハケメ。 内：胴部ハケメ。胴部ヘラナデ。
115	土師器 壺		北壁トレンチ Ⅷ～Ⅸ層	口：— 高：(3.3) 底：6.6 最大径： 底部1/2残 外面にぶい褐色、内面にぶい橙色／良好	長石 雲母 砂粒	外：胴部ヘラケズリ。底部木葉痕。 内：胴部～底部ヘラナデ。ナデ。
116	土師器 壺		4グリッド Ⅷ～Ⅸ層	口：— 高：(2.5) 底：— 最大径： 胴部破片 外面にぶい褐色、内面にぶい橙色／やや良好	長石 砂粒	外：ハケメ。 内：ハケメ。
117	土製品 上錘		12グリッド Ⅷ～Ⅸ層	長：8.5 幅：4.1 厚穴径：1.0 完形 にぶい黄橙色／良好	長石 石英 角閃石 砂粒	手捏ね成形。
118	石器 スクレイパー		4グリッド Ⅷ～Ⅸ層	長：8.4 幅：4.7 厚：1.3 重：64.1 一部欠損。		石材：頁岩。縄文時代か。

第Ⅵ章　倉賀野西上正六遺跡の火山灰分析

第１節　はじめに

関東地方北西部に位置する高崎市とその周辺には、浅間、榛名、北八ヶ岳など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログなどに収録されており、遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

倉賀野西上正六遺跡の発掘調査区でも、層位や年代が不明なテフラや土層が認められたことから、地質調査を実施して土層やテフラの記載を行うとともに、採取した試料を対象にテフラ分析を行って、土層の層序や層位さらに年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、南地点および中央地点の２地点である。また、発掘調査担当によって採取された試料についても、分析を実施した。

第２節　土層の層序

（１）南地点

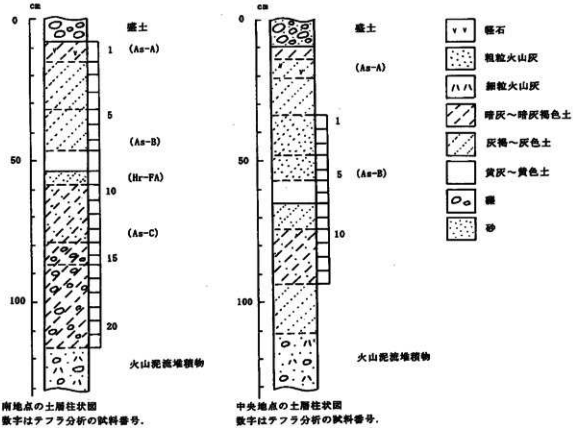
南地点では、下位より亜円礫混じり黄色泥流堆積物（層厚 15cm，礫の最大径 48mm）、亜円礫を多く含む暗灰褐色土（層厚 29cm，礫の最大径 35mm）、亜円礫を比較的多く含む暗灰褐色土（層厚８cm，礫の最大径 22mm）、亜円礫混じりで暗灰褐色土（層厚 20cm，礫の最大径 23mm）、赤みをおびた暗灰褐色土（層厚４cm）、黄灰色土（層厚７cm）、砂を多く含み褐色をおびた灰色土（層厚 13cm）、砂混じりで若干黄色をおびた灰色土（層厚 16cm）、砂混じり暗灰色土（層厚７cm）、砂混じり亜円礫層（層厚 85cm，盛土）、アスファルト層（層厚８cm，道路）が認められる（第 45 図）。

これらのうち、最下位の泥流堆積物については、層相から（早田，1990）と同一の火山泥流と推定されている高崎泥流（中村，2003）に同定される可能性が高い。

（２）中央地点

中央地点では、下位より亜円礫混じり黄色泥流堆積物（層厚 20cm 以上，礫の最大径 42mm）、灰褐色土（層厚 18cm）、暗灰褐色土（層厚 19cm）、灰褐色土（層厚９cm）、黄灰色土（層厚８cm）、やや黄色がかった灰色土（層厚９cm）、わずかに褐色がかった灰色土（層厚 14cm）、若干黄色がかった灰色土（層厚 13cm）、発泡の良い白色軽石混じり灰色土（層厚７cm，軽石の最大径４mm）、発泡の良い白色軽石混じり暗灰色土（層厚４cm，軽石の最大径７mm）、砂混じり亜円礫層（層厚 75cm，盛土）、アスファルト層（層厚８cm，道路）が認められる（第 45 図）。

これらのうち、最下位の泥流堆積物については、層相から高崎泥流に同定される可能性が高い。また、土層最上部に認められる発泡の良い白色軽石については、層位や岩相などから、1783（天明３）年に浅間火山から噴出した浅間Ａ軽石（As-A，荒牧，1968，新井，1979）に由来すると考えられる。



第45図　土層柱状図

第3節　テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

南地点および中央地点の土層断面において、上層の層界をまたがないように基本的に5cmごとに設定採取された試料および発掘調査担当者により採取された合計21試料を対象に、テフラ粒子の相対的な特徴を把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

1）試料12gを秤量。

2）超音波洗浄装置を用いながら、ていねいに泥分を除去。

3）80℃で恒温乾燥。

4）実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や色調などを観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第12表に示す。南地点では、試料10と試料8で、スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石（最大径3.1mm）を検出できた。試料7より上位には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径6.8mm）が比較的多く認められる。さらに、試料1には、光沢をもつ白色軽石（最大径4.8mm）が少量含まれている。これらの軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

火山ガラスは、いずれの試料にも含まれている。そのうち、試料13から試料8にかけては、灰白色軽石の細粒物である灰白色軽石型ガラスが認められる。また、試料9および試料8には、さほど発泡が良くない白色軽石型ガラスが少量含まれている。これらの層準では、少量ながら角閃石も認められる。試料7より上

位では淡褐色軽石の細粒物の淡褐色軽石型ガラスが多く含まれており、試料1ではほかに白色軽石の細粒物の白色軽石型ガラスも認められる。

中央地点では、試料13にスポンジ状に良く発泡した灰白色軽石（最大径2.2mm）が含まれている。試料7から試料3にかけては、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径2.9mm）が認められる。火山ガラスは、やはりいずれの試料にも含まれている。そのうち、試料13から試料8にかけては、灰白色軽石の細粒物である灰白色軽石型ガラスが認められる。また、同じ層準でほかに、さほど発泡が良くない白色軽石型ガラスが少量含まれている。これらの層準では、少量ながら角閃石も認められる。試料7より上位では、淡褐色軽石の細粒物の淡褐色軽石型ガラスが含まれている。

発掘調査担当者により採取された試料のうち、試料Aには光沢をもつ白色軽石（最大径7.1mm）や、その細粒物の白色軽石型ガラスが多く含まれている。また、試料Bにも光沢をもつ白色軽石（最大径5.9mm）や、その細粒物の白色軽石型ガラスが多く含まれている。

第12表　テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
南地点	1	**	淡褐>白（光沢）	6.8,4.8	***	pm	淡褐,白
	3	**	淡褐	2.6	***	pm	淡褐
	5	**	淡褐	3.1	***	pm	淡褐
	7	**	淡褐	2.2	***	pm	淡褐
	8	*	灰白	3.1	*	pm	灰白,白
	9				*	pm	灰白>白
	10	*	灰白	2.2	***	pm	灰白
	11				**	pm	灰白
	13				*	pm,md	灰白,灰
	15				*	md	灰,灰白,透明
	17				**	md	灰,灰白,透明
中央地点	3	**	淡褐	2.9	***	pm	淡褐
	5	*	淡褐	2.2	*	pm	淡褐
	7	*	淡褐	2.2	*	pm	淡褐
	8				*	pm	灰白,白
	9				*	pm	灰白,白
	10				*	pm	灰白,白
	11				*	pm	灰白,白
	13	*	灰白	2.2	*	pm	灰白,白
送付試料	A	***	白（光沢）	7.1	***	pm	白
	B	***	白（光沢）	5.9	***	pm	白

****：とくに多い，***：多い，**：中程度，*：少ない，最大径の単位はmm，bw：バブル型，pm：軽石型，md：中間型．

第4節　屈折率測定

（1）測定試料と測定方法

南地点の試料10と試料7に含まれる軽石について、それぞれ実体顕微鏡下で予選し、軽く粉砕した後に、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製 MAIOT）を使用して、火山ガラスの屈折率測定を実施した。

（2）測定結果

屈折率測定の結果を第13表に示す。試料10に含まれる軽石の火山ガラス（30粒子）の屈折率（n）は、

1.514-1.520である。一方、試料7に含まれる軽石の火山ガラス（32粒子）の屈折率（n）は、1.525-1.532である。

第13表　屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラスの屈折率（n）	測定粒子数
南地点	7	1.525-1.532	32
南地点	10	1.514-1.520	30

測定は，温度変化型屈折率測定装置（MAIOT）による。

第5節　考察

テフラ検出分析の結果、南地点では、試料13より試料8にかけて両輝石型重鉱物組成をもつ灰白の軽石や火山ガラス、試料9および試料8で白色軽石型ガラスや角閃石、試料7より上位で両輝石型重鉱物組成をもつ淡褐色の軽石や火山ガラス、そして試料1で両輝石型重鉱物組成をもち光沢をもつ白色の軽石や火山ガラスで特徴づけられるテフラが認められる。これらのうち、最下位のテフラは、その特徴や火山ガラスの屈折率などから、4世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石（As-C，荒牧，1968，新井，1979，友廣，1988，若狭，2000）と考えられる。

その上位のテフラとの層位関係、火山ガラスの岩相や屈折率などから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，新井，1979，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，1992）に由来する可能性が高いと考えられる。

さらに上位にあるテフラは、軽石や火山ガラスの岩相、重鉱物組成、さらに火山ガラスの屈折率などから、1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B，荒牧，1968，新井，1979）に由来すると考えられる。そして、最上位のテフラは、As-Bより上位にあること、軽石や火山ガラスの岩相などから、1783（天明3）年に浅間火山から噴出した浅間A軽石（As-A，荒牧，1968，新井，1979など）に由来すると考えられる。

以上のことから、南地点では、試料15より上位の土層がAs-C降灰後に形成された土層で、試料9付近にHr-FAの降灰層準があると考えられる。また、試料7より上位の土層がAs-B降灰後に形成された土層で、試料1付近にAs-Aの降灰層準があると考えられる。

これらのテフラ同定結果をもとに中央地点の土層の層位を考えると、少なくとも試料13より上位の土層はHr-FA降灰後に、そして試料7より上位がAs-B降灰後に形成されたものと推定される。また、軽石の岩相からこの地点の上層の最上部にはAs-Aが混在すると考えられる。

なお、発掘調査担当者により採取された2点の試料に特徴的多く含まれるテフラ粒子は、As-Aの可能性が高い。

第6節　まとめ

倉賀野西上正六遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、高崎泥流堆積物の上位の土層から、浅間C軽石（4世紀初頭）、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，6世紀初頭）、浅間Bテフラ（As-B，1108年）、浅間A軽石（As-A，1783年）などのテフラ粒子を検出し、土層の層位に関する資料を収集できた。

引用・参考文献

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no.157，p.41-52.

荒牧重雄（1968）浅間火山の地質．地団研専報，no.45，p.65

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，p.276

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．東京大学出版会，p.336

中村正芳（2005）高崎の台地をつくる地層．高崎市史編さん委員会編「新編　高崎市史　通史編１　原始古代」，p.73-101.

坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源 FA・FP 層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p.103-119.

早川　勉（1989）６世紀における榛名火山の２回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p.297-312.

早田　勉（1990）群馬県の自然と風土．群馬県史編さん委員会編「群馬県史　通史編１　原始古代１」，p.37-129.

友廣哲也（1988）古式土師器出現期の様相と浅間山Ｃ軽石．群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」，p.325-336.

若狭　徹（2000）群馬の弥生土器が終わるとき．かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く－古墳が成立する頃の土器の交流－」，p.41-43.

第Ⅶ章　まとめ

倉賀野西上正六遺跡で検出された遺構

倉賀野西上正六遺跡では、竪穴状遺構２基、竪穴住居跡13軒、掘立柱建物４棟、土坑17基、溝状遺構７条、柵状遺構５条、ピット81基が調査された。これらは、覆土中のAs-Bの有無で二大別される。

覆土中にAs-Bが含まれる遺構は、竪穴状遺構２基（SI1・2）、土坑６基（SK1～4・8・12）、溝６条（SD1～5・7）、ピット１基（P138）がある。これらはAs-Bが降下した1108年以降に属し、As-Aを含まない覆土の上位にⅥ層（As-B混土）が堆積していることから、As-Aが降下した1783年よりも前に埋没したと考えられる。木遺跡では、中近世の遺物は遺構内・外ともに全く出土していないことから、これ以上の詳細な時期は判断できない。[21]

覆土中にAs-Bが含まれない遺構は、竪穴住居跡13軒（SI3～15）、掘立柱建物４棟（SB1～4）、土坑11基（SK5～7・9～11・13～17）、溝状遺構１条（SD6）、柵状遺構５条（SA1～5）、ピット80基がある。竪穴住居跡は、帯状に分布し、棟方向は全て北東に傾く。北東壁又は南西壁に構築されたカマドが、SI3～7・10・11・13・14で検出された。燃焼部は壁内に位置し、袖が比較的良好に残存しており、SI4・5では土器が構築材として転用されていた。煙道部は１m前後と長く、SI4・14は先端の煙出しが復元できた。柱穴は、SI5の住居隅に検出されたが、その他は検出されなかった。出土遺物は、全て６世紀末～７世紀初頭の様相を示す。従って、本遺跡で調査された集落は、古墳時代後期の限定された時期に形成され、その後存続せず移動したと考える。

掘立柱建物・溝状遺構・柵状遺構は、遺跡全体の出土遺物から、集落と同時期と考える。これらは、竪穴住居跡と主軸方向が概ね同一であり、基本的には竪穴住居跡と分布域が異なっていることから、同時に存在した可能性がある。また主軸がやや異なるものの、SA1～3によって区画された空間内に掘立柱建物が存在していた可能性も考えられる。この場合は、集落と同時には存在しないが、遺跡全体の出土遺物から近い時期ではあると推定される。

本遺跡から出土した須恵器・土師器について

木遺跡から出土した須恵器・土師器は、６世紀末～７世紀初頭の様相を示す。須恵器は全て破片資料であり、土師器と比べると出土数が少ない。坏蓋６点（２・16・40・41・76・94）、坏身８点（３・４・17・42・68・77・105・106）、高坏４点（18・97・98・101）、提瓶２点（96・107）、壺１点（95）、甕８点（19～21・43・44・108～110）を図示した。

上師器は坏・甕が主体であり、少数だが高坏・鉢・甑も出土している。図示した坏は、27と48を除き、全て丸底で外稜のある、いわゆる模倣坏である。模倣坏は、焼成が硬質で色調が比較的暗いものと、焼成が軟質で色調が比較的明るいものに大別できる。[22] 前者は本遺跡で少数しか出土しておらず、４点（６・54・55・79）を図示した。この４点は、器壁が薄く稜がシャープである等作りが丁寧で、他の模倣坏と明瞭な差がある。54は須恵器坏身の模倣で、54・55・79は口縁部に稜をもつ坏蓋の模倣である。後者は、35点を図示した。色調は橙色系と黄色系があるが、ともに軟質に焼成されているためここでは一括に取り扱う。橙色系のものは、器面に触れると指先に胎土が付着するものが多い。口縁部に稜をもつのは５・22・23であり、５は比較的焼成が良く、22・23は口縁部が二重に外反することで口縁部中位に緩やかな稜が出来ている。他は、全て口縁部に稜をもたない模倣坏である。このうち、口縁部が外反し大きく開く形態が最も多く、この模倣坏が本遺跡出土の土師器坏の中で主体を占める。この他、口縁端部が短く内湾する７・78、口縁部がほぼ直立する65、口縁部が僅かに内傾する86がある。模倣坏ではないSI4から出土した27は、

胎土・焼成が他の模倣坏と差がないが平底であり、SI 5から出土した48は、口縁部外面と内面全体が黒色処理され丁寧に磨かれている丸底気味の平底である。甕は長胴、丸胴、小型の3種が出土している。長胴甕は、26点を図示した。胴部が膨型のものと胴部上～中位が僅かに膨らむものがあり、何れも最大径は口縁部にあるが胴部最大径と僅差である。丸胴甕は、8点（31・32・58・59・71・88・89・114）を図示した。何れも大きく胴部が張り、胴部上位には横方向のヘラケズリが施される。小型甕は、2点（29・30）を図示した。甕には外面にハケメが施されるものが少数だがみられ、10点（39・53・61・67・72・90・91・99・114・116）を図示した。この他、高坏1点（57）、鉢1点（87）、甑3点（28・70・104）を図示した。

倉賀野西上正六遺跡で出土した須恵器・土師器を佐野・倉賀野地域の中で位置づけるために、周辺地域で出土した古墳時代後期の土器の簡単な変遷を示した（第46・47図）。6世紀前半に位置づけられる土器は、本遺跡周辺では出土していないが[注3]、6世紀後半に属する土器の出土数は多い。7世紀は、須恵器の出土が少ないため、土師器の坏の形態で大別した。7世紀前半では稜をもたない口縁部が大きく開く形態の土師器の模倣坏が主体となり、後半ではこの模倣坏に加えて丸底で口縁部が内屈・内湾する半球形の坏、いわゆる「北武蔵型坏」が共伴してくる。甕は長胴甕から、薄い「く」の字の甕、いわゆる「武蔵型甕」に転換してゆく。

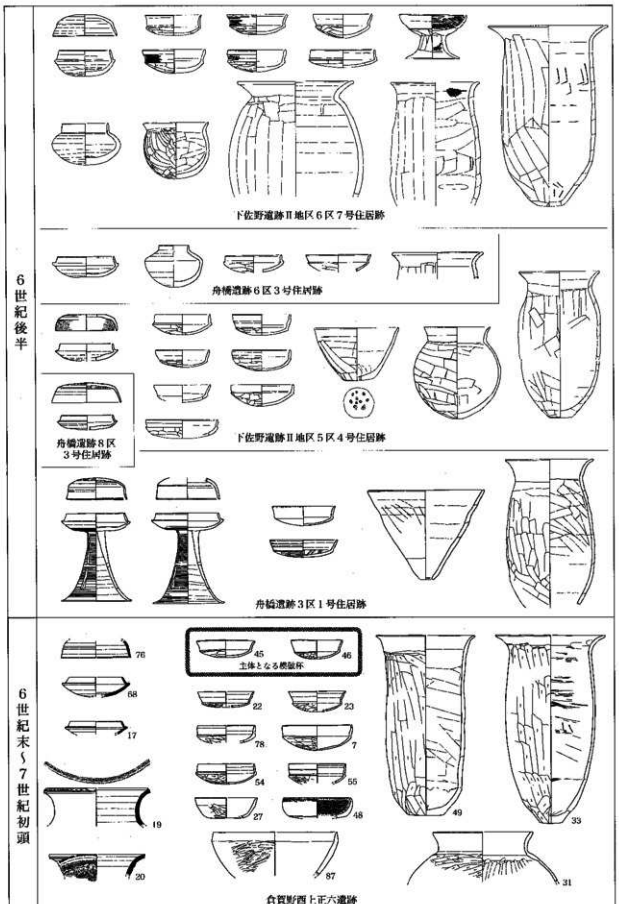
周辺遺跡の中での倉賀野西上正六遺跡の集落

以上の時期的な変遷を踏まえ、管見の限りではあるが現時点までの発掘調査事例をもとに、佐野・倉賀野地域の古墳時代の集落を概観してみる。本地域は、古墳時代前期から新たな生活域として開拓され、[注4]烏川左岸の段丘上に比較的大きな集落が形成されていた。中期になると、前期と比べるとかなり減少しており、集落の縮小あるいは移動があったと推定される。[注5]続く5世紀後葉から6世紀前半にかけては住居跡の調査例がなく、集落の動向が不明瞭になる。6世紀後半になると、烏川左岸の段丘上は再び集落域として利用され始め、下佐野遺跡で16軒、舟橋遺跡で5軒等が調査されている。7世紀代の住居跡は、下佐野遺跡で12軒、舟橋遺跡で5軒、双葉町1遺跡で2軒、下之城村前Ⅳ遺跡で2軒、倉賀野中里前遺跡で7軒が調査されている。下佐野遺跡・舟橋遺跡のように6世紀後半から継続する集落の他に、従来居住域として利用されてなかった場所に、新たに小規模な集落が形成されていることが判る。本遺跡は、この新出集落の一つとして位置づけられるだろう。8世紀初頭の住居跡は倉賀野中里前遺跡5号住居跡1軒だけであり、後続する集落は現時点では調査されていないことから、居住域が移動した可能性がある。これは、奈良時代における社会制度の大きな変化が影響したと考える。その後、佐野・倉賀野地域では奈良時代末ごろから再び集落が営まれはじめ、平安時代の住居跡の調査事例は爆発的に増加する。

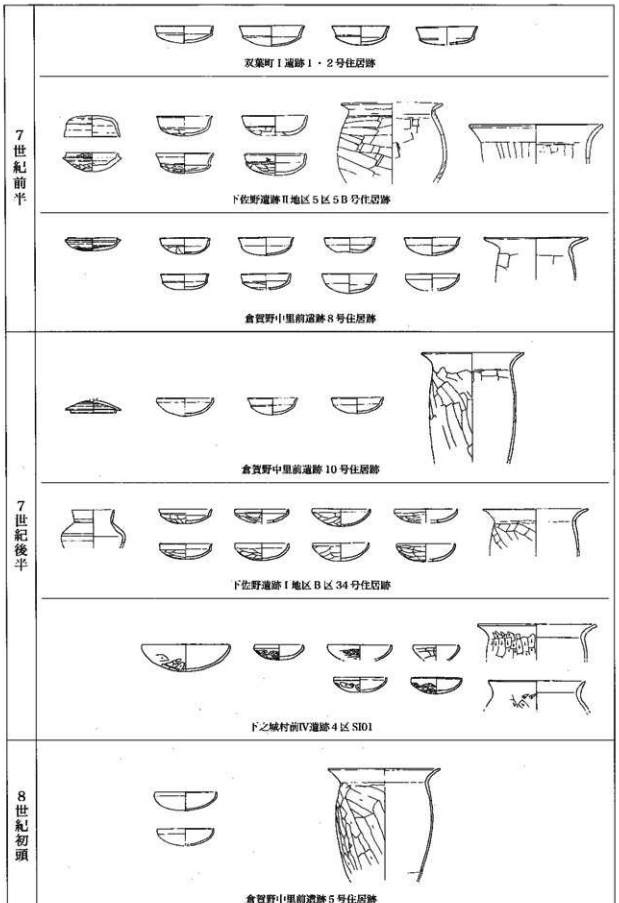
佐野・倉賀野地域は、「佐野の三家」の故地と推定されている。その設定について、尾崎喜左雄氏によって『日本書紀』に記された推古天皇十五(607)年の全国的なミヤケの設置記事に対応するものと考えられており（松田 2003)、本地域において6世紀末から7世紀にかけて新出集落の増加する事象は無関係ではないと考える。発掘調査によって得られた成果をもとに考古学的知見から本地域の歴史を考える場合に、「佐野の三家」は無視できない存在である。このように、小規模な発掘調査の成果も含めて当時の集落の動向をより明確に把握することは、「佐野の三家」を考える上でも必要であると考える。このような当地域の歴史的背景を考慮すると、当時本遺跡には柵によって区画された空間内に建物が存在し、特殊な空間利用をされていた可能性も皆無ではないだろう。

小結

今回は、6世紀末～7世紀初頭の限定された期間に微高地上で営まれた集落の一端を調査することができた。さらに覆土に As-B を含む満状遺構や土坑が検出されたことから、本地点での人間の活動が中世以降もことが確認できた。今後烏川左岸の段丘上とその周辺に位置する遺跡の発掘調査事例が積み重ねられていくことによって、「佐野の三家」の故地という特殊な本地域史がさらに解明されてゆくものと考える。



第46図　周辺遺跡出土古墳時代後期土器（1）　S=1/8



第47図　周辺遺跡出土古墳時代後期土器（2）　S=1/8

注1　近隣に位置する倉賀野万福寺Ⅱ遺跡（関口修他 1994）で調査された竪穴状遺構4基（SI3・4・5・6）は、出土遺物と重複関係から中世に属するとされており、形状・埋土が本遺跡で検出された竪穴状遺構と近似している。

注2　桜岡正信氏による分類（桜岡 2009）と照らし合わせると、前者は、上野地域の南部から東毛地域及び北武蔵地域において主体的に分布する、広域流通の土師器とされる一群に、後者は、器形・胎土・色調などが他地域の土師器とは異なり分布地域も上野国内に限られることで上野オリジナルと見なされている土師器坏の一群にそれぞれ該当すると考えられる。

注3　下佐野遺跡Ⅱ地区6区7号住居跡出土資料の須恵器坏身は、6世紀前半に遡り得る様相を示す。しかし胎土・施成の観点から近似とからセットと考えられる坏蓋は、外面の稜が鋭く、口縁部が「八」の字状に外へ大きく開く6世紀中葉以降に一般的になる北関東型須恵器の特徴をもっている。また、共伴する土師器が後出要素をもつことから、下佐野遺跡Ⅱ地区6区7号住居跡は6世紀後半という時間幅のなかで捉えておく。

注4　若狭徹氏によると、古代の群馬郡南部地域（佐野・倉賀野地域を含む）における大規模な遺跡の形成は、「在来弥生社会が一貫して目指してきた丘陵部開発とは真っ向から異なる低地指向性」の新たなる噴出と考えられている（若狭 2007）。

注5　古墳時代前期の住居跡は、倉賀野万福寺遺跡で20軒、下佐野遺跡で49軒、舟橋遺跡で12軒、下佐野長者屋敷遺跡で1軒、下中居条里遺跡Ⅲで1軒等が、古墳時代中期の住居跡は、下佐野遺跡で2軒、上佐野舟橋遺跡で1軒、舟橋遺跡で18軒、下之城村前Ⅴ遺跡で1軒等が調査されている。

引用・参考文献

【高崎市教育委員会・高崎市】

神戸聖哲他　1998　高崎市文化財調査報告書155集『高崎市遺跡分布地図』

関口 修・吉田昌利　1998　高崎市文化財調査報告書158集『平成9年度高崎市内小規模埋蔵文化財発掘調査概報2』

池田 敬　1999　高崎市文化財調査報告書164集『倉賀野綾橋遺跡』

小泉範明・茂木真澄　2001　高崎市文化財調査報告書174集『下之城村前Ⅲ・倉賀野上新屋Ⅰ遺跡』

吉田昌利　2002　高崎市文化財調査報告書181集『下之城村前Ⅳ遺跡』

高橋 純・金井英一　2003　高崎市文化財調査報告書184集『下之城村前Ⅴ遺跡』

高橋 純・金井英一　2004　高崎市文化財調査報告書192集『下之城仲沖遺跡』

吉田昌利・神澤久幸　2006　高崎市文化財調査報告書202集『倉賀野駅北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ遺跡』

水谷貴之　2009　高崎市文化財調査報告書239集『下佐野長者屋敷遺跡』

斎藤寛方・村上章義　2008　高崎市文化財調査報告書225集『下佐野一本木遺跡』

高崎市市史編さん委員会　2003　新編『高崎市史』通史編1原始古代

高崎市市史編さん委員会　1999　新編『高崎市史』資料編1原始古代Ⅰ

高崎市市史編さん委員会　2000　新編『高崎市史』資料編2原始古代Ⅱ

高崎市市史編さん委員会　1996　新編『高崎市史』資料編3中世Ⅰ

【高崎市遺跡調査会】

平岡和夫・大賀健他　1983　高崎市遺跡調査会第4集『倉賀野万福寺遺跡』

関口 修・宮寺 久・星野守弘　1992　高崎市遺跡調査会第22集『上佐野舟橋遺跡』

関口 修・鷲谷亨信　1994　高崎市遺跡調査会第26集『倉賀野万福寺Ⅱ遺跡』

奥富雅之・志田登他　1996　高崎市遺跡調査会第45集『倉賀野中里前遺跡』

長井正欣・志田登　1996　高崎市遺跡調査会第48集『双葉町Ⅰ遺跡』

【財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団】

女屋和志雄・外山政子他　1986　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書48集『下佐野遺跡Ⅱ地区』

井川達雄・飯塚卓二他　1989　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書77集『下佐野遺跡』

井川達雄・大西雅広他　1989　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書92集『舟橋遺跡』

【その他】

酒井清治　1991「須恵器の編年　関東」『古墳時代の研究』6　須恵器と土師器　雄山閣

坂口 一・三浦京子　1986「奈良・平安時代の土器の編年」『群馬県史研究』24

桜岡正信　1991「7世紀以降の土師器坏の画期とその要因について」『群馬考古学手帳』2

桜岡正信　2009「古代東北と上野―捉えにくい地域間交流―」『古代社会と地域間交流』岡十留大学考古学会

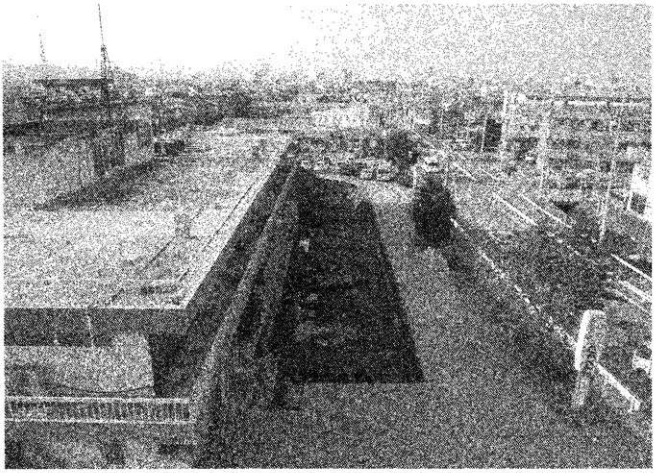
藤野一之　2009「群馬県における古墳時代須恵器編年」『群馬・金山丘陵窯跡群Ⅱ』駒澤大学考古学研究室

松田猛　2003「山ノ上碑とでえせえじ道路」新編『高崎市史』通史編1原始古代

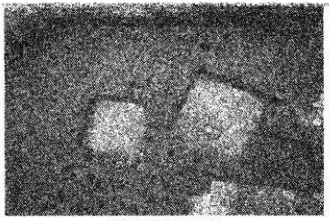
古澤 孝　2005「長貫寺山考―高崎市倉賀野町所在の1古墳について―」『東国史論』群馬考古学研究会

若狭 徹　2007「古墳時代前期における土器様式の変革と集団動態」『古墳時代の水利社会の研究』学生社

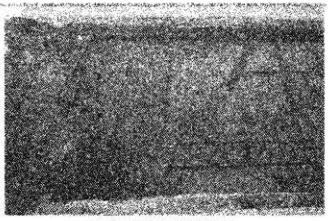
写 真 図 版



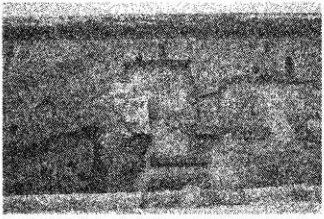
倉掛野西上正六遺跡　調査区 全景（南東から）



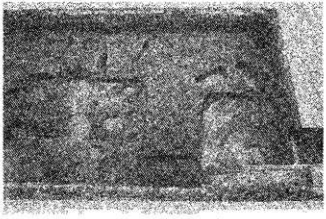
調査区 北（南西から）



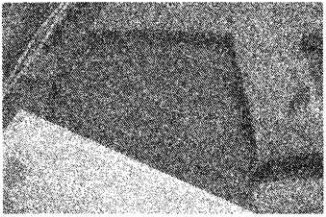
調査区 中央北（南西から）



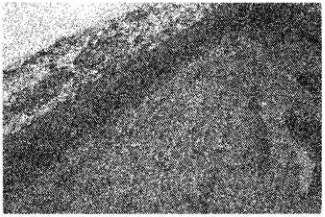
調査区 中央南（南西から）



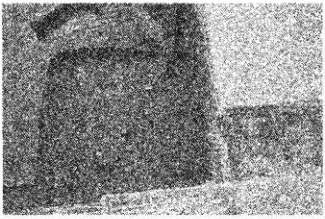
調査区 南（南西から）



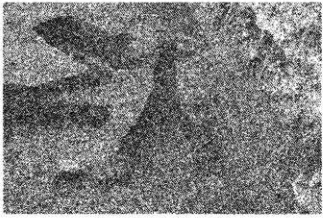
SI1 全景（南東から）



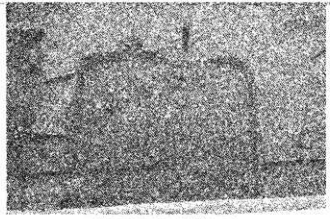
SI2 全景（北西から）



SI3 床面 全景（南西から）

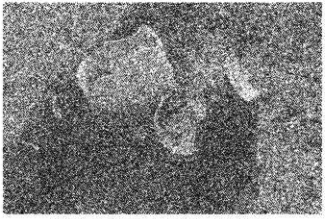


SI3 カマド（南西から）

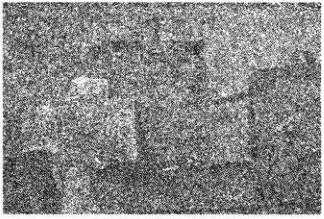


SI4 床面 全景（南西から）

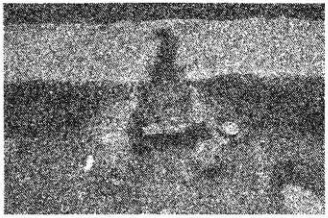
SI4 カマド（南西から）



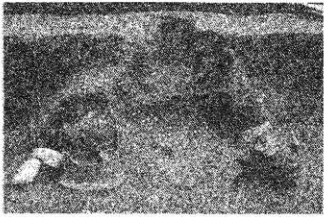
SI4 カマド袖内遺物出土状況（南西から）



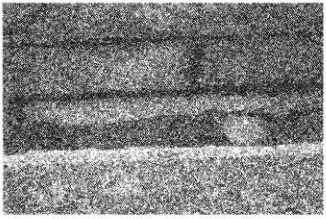
SI5 床面 全景（南西から）



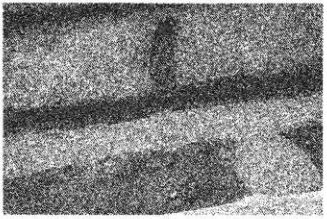
SI5 カマド（南西から）



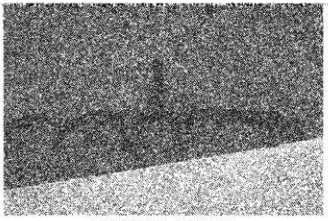
SI5 カマド袖内遺物出土状況（南西から）



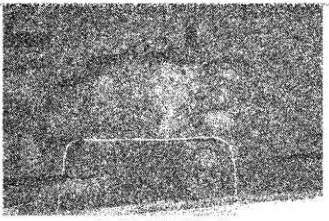
SI6 床面 全景（南西から）



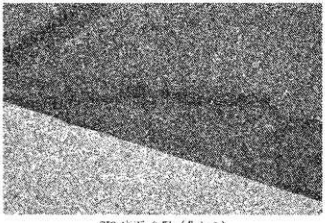
SI6 カマド（南西から）



SI7 床面 全景（北東から）

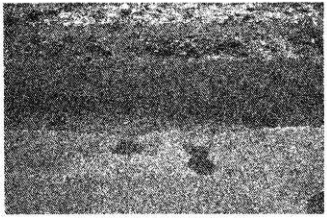


SI8 床面 全景（南西から）

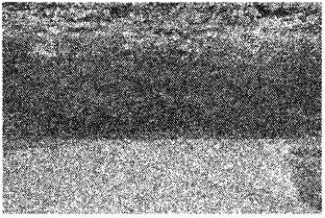


SI9 床面 全景（北から）

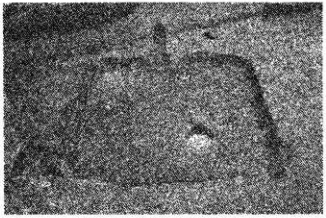
SI10 カマド煙道部（北東から）



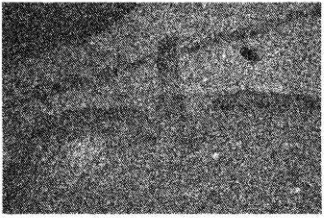
SI11 セクションA（南西から）



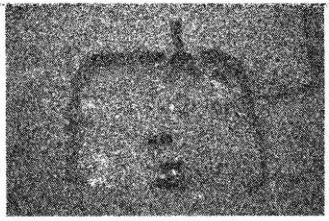
SI12 セクションA（南西から）



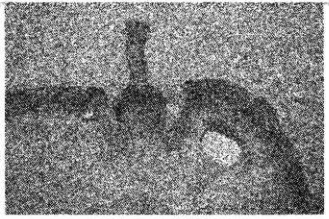
SI13 床面 全景（北東から）



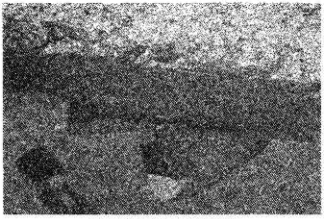
SI13 カマド（北東から）



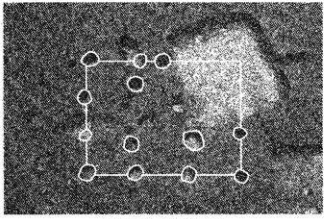
SI14 床面 全景（南西から）



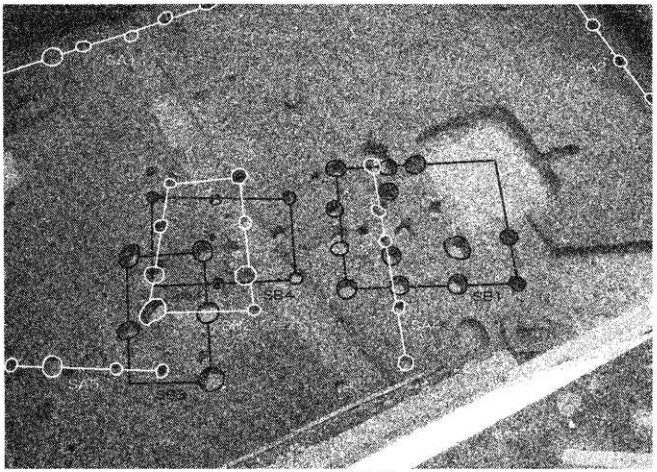
SI14 カマド（南西から）



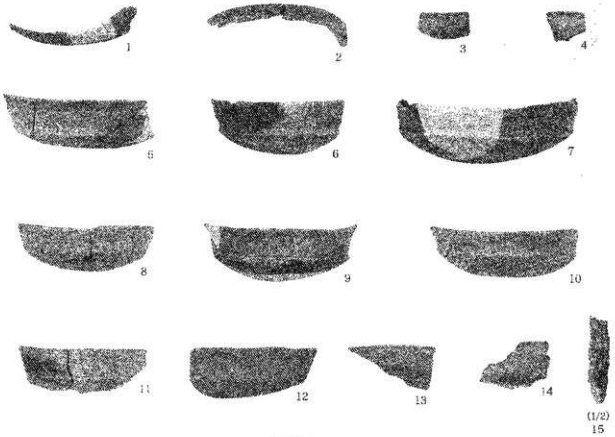
SI15 床面 全景（南東から）



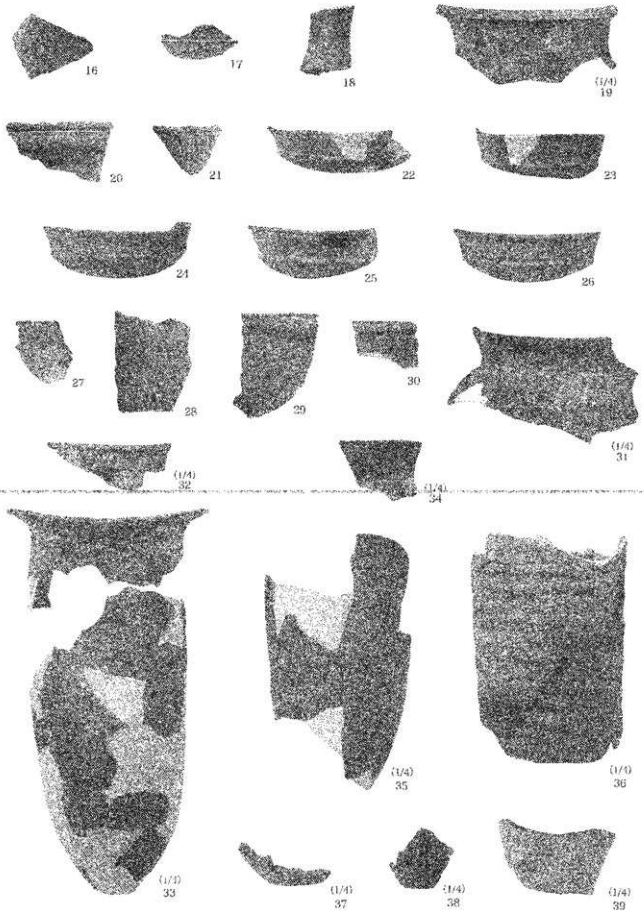
SB1 全景（南東から）



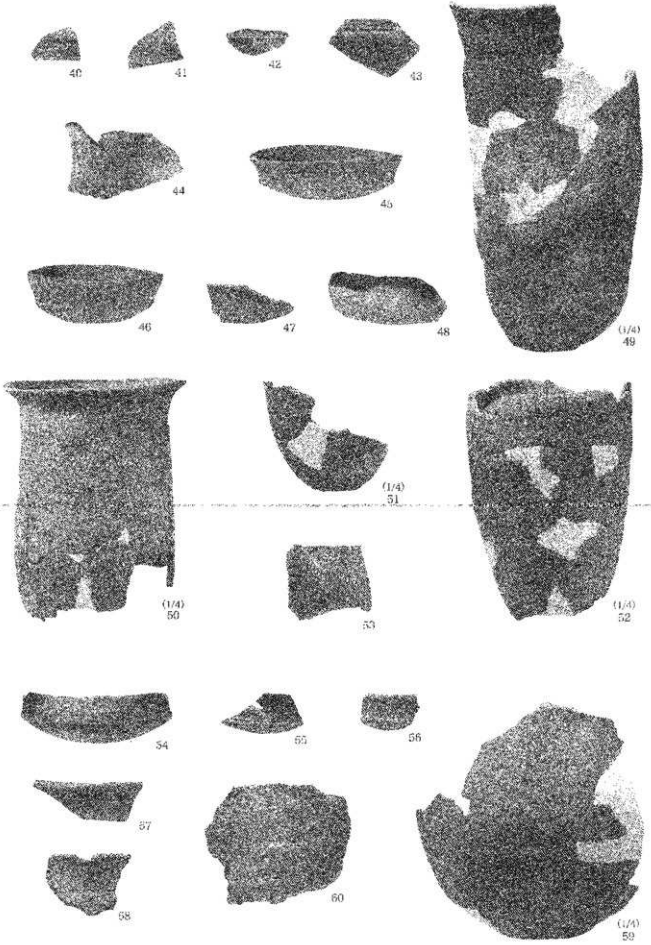
SB・SA 全景（南東から）



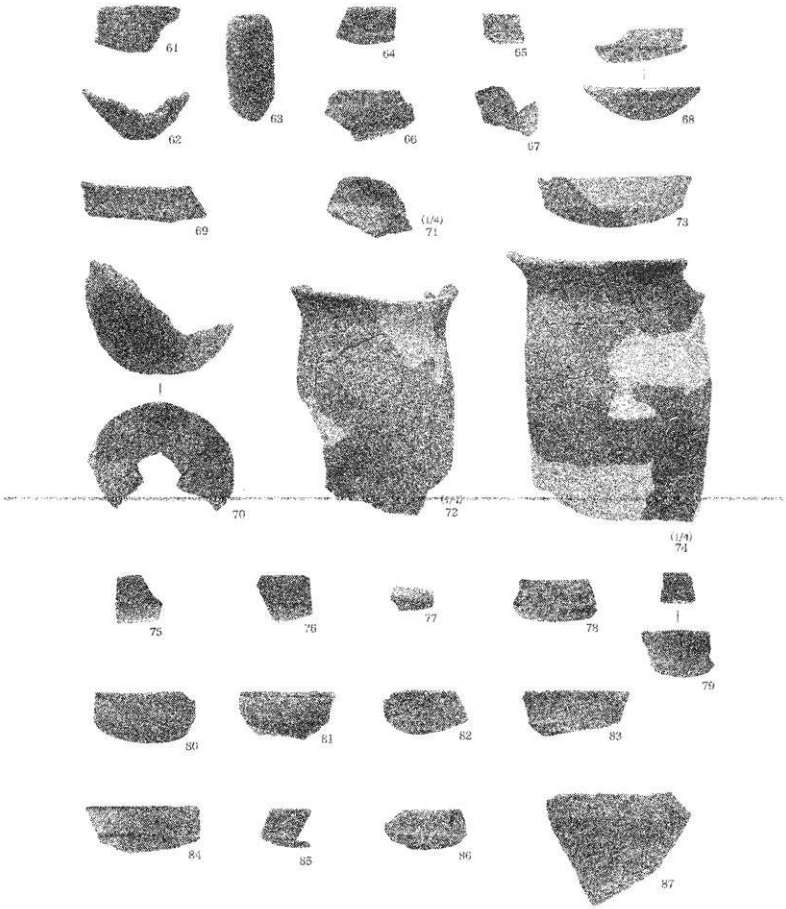
出土遺物 1 ～ 15


16
17
18
(1/4)
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
(1/4)
31
(1/4)
32
(1/4)
34
(1/4)
33
(1/4)
35
(1/4)
36
(1/4)
37
(1/4)
38
(1/4)
39

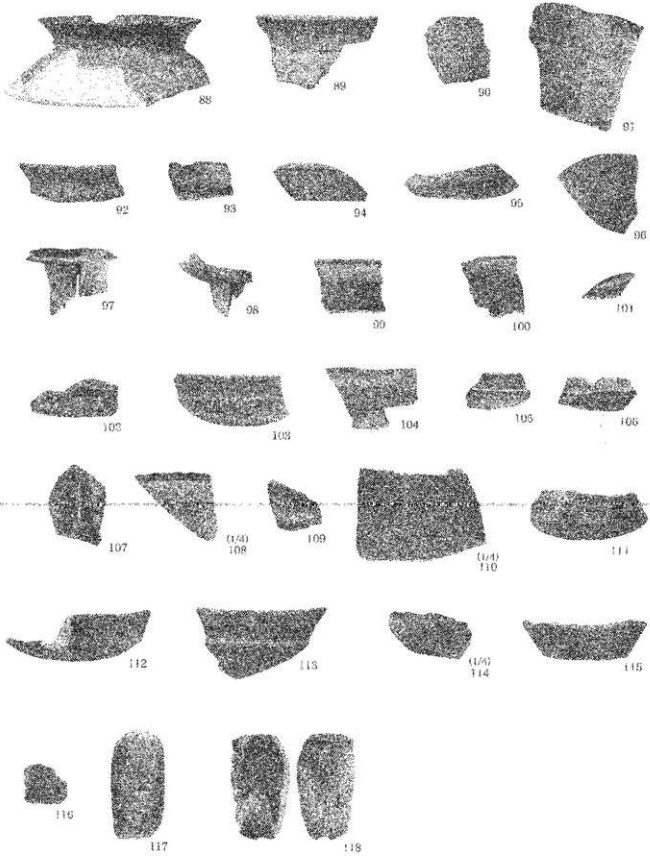
出土遺物 16 ～ 39


40
41
42
43
44
45
46
47
48
(1/4)
49
(1/4)
50
(1/4)
51
53
(1/4)
52
54
55
56
57
58
60
(1/4)
59

出土遺物 40～60


61
62
63
64
65
66
67
68
69
(1/4)
71
73
70
(1/2)
72
(1/4)
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87

出土遺物 61 ～ 87


88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
(1/4)
108
109
(1/4)
110
111
112
113
(1/4)
114
115
116
117
118

出土遺物 88 ～ 118

報告書抄録

フリガナ	クラガノニシカミショウロクイセキ
書名	倉賀野西上正六遺跡
副書名	工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	—
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ巻号	第258集
編著者名	小川朋恵
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
発行年月日	2010年 5月 25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
クラガノ 倉賀野 ニシカミショウロクイセキ 西上正六遺跡	タカサキシクラガノマチ 高崎市倉賀野町 ニシカミショウロク41バンチ 西上正六41番地	10202	455	36° 18′ 12″	139° 1′ 45″	2009.10.5 ～ 2009.11.17	564㎡	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
倉賀野 西上正六 遺跡	集落 ・ その他	古墳 ～ 平安時代	竪穴住居跡	13軒	土師器 須恵器 瓦類 金属製品	
			掘立柱建物	4棟		
			土坑	41基		
			溝状遺構	1条		
			柵状遺構	5条		
			ピット	80基		
		中世	竪穴状遺構	2基		
			土坑	6基		
			溝状遺構	6条		
			ピット	1基		

倉賀野西上正六遺跡

—工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成22年5月20日　印刷

平成22年5月25日　発行

編集・発行／　高崎市教育委員会

高崎市高松町35番地1

TEL 027-321-1291

印　　刷／　細谷印刷有限会社